KCSP
162

釣りキチ三平

第6集
ヤマメ釣り編

矢口高雄

講談社

9784061011625

1929979006211

雑誌45423-62

ISBN4-06-101162-6

C9979 ¥621E (3)

定価652円 本体621円 講談社

ブラックバスを釣る矢口先生。
釣りあげた魚のサイズに、
ちょっとてれわらい。

「釣り」は自然との語らいだと、ボクは思う。細い釣り糸一本で、確実に自然と語りあえるジャンルはほかにはない。静かに釣り糸を垂れ、ジッと耳をすましてみよう。自然は、その細い糸をとおしてさまざまなことを語り、不思議なことをたくさん教えてくれる。

（「あとがき」より）

（カバーデザイン
日本ペリエールアートセンター）

釣りキチ三平

第6集
ヤマメ釣り編

矢口高雄

KCSP
162

釣りキチ三平
6
矢口高雄
講談社

釣りキチ三平

第6集　ヤマメ釣り編

矢口高雄

釣りキチ三平〈第6集〉ヤマメ釣り編

もくじ

毛バリの神サマの巻……6
渓流の魔術師ヤマセミの巻……318
あとがき……353

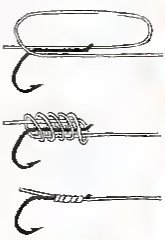
釣りキチ三平

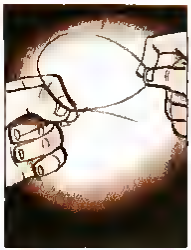
第6集
ヤマメ釣り編

矢口高雄

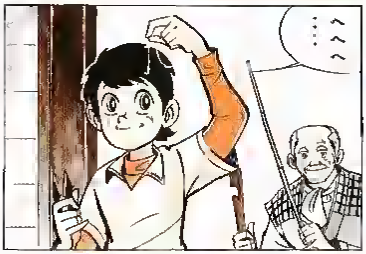
カゲロウの
羽化が始まると
毛バリシーズンの幕開け
あの落ち込み
あのたるみ
ねらいを定めて
確実にポイントを打つ
「ンーッ!?」
今の水音は
尺ヤマメのライズ
……

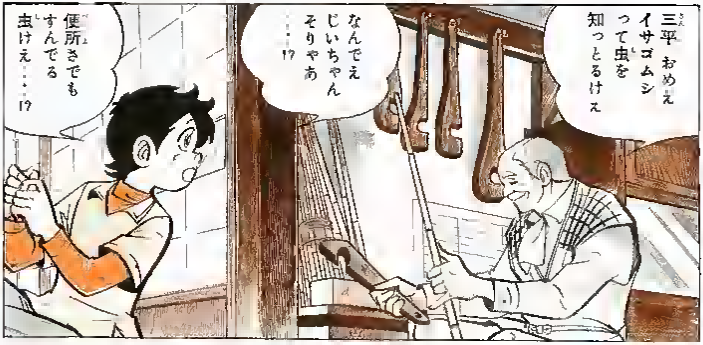
毛バリの神サマの巻



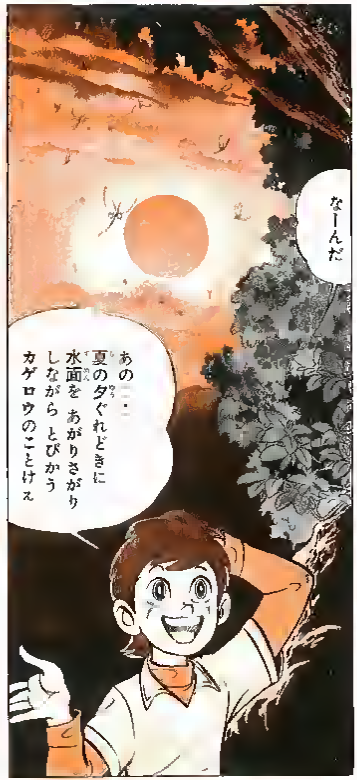


あしたは
いっちょう
ヤマメでも
釣りにいくか
矢口


へへへ
……

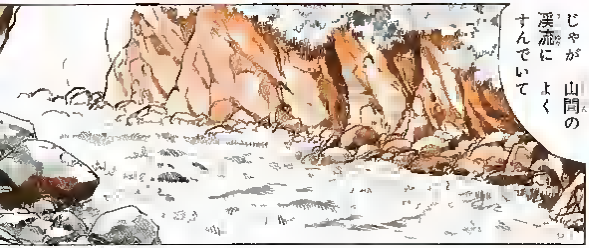

三平 おめえ
イサゴムシ
って虫を
知っとるけえ
なんでえ
じいちゃん
そりゃあ
……!?
便所さでも
すんでる
虫けえ……!?

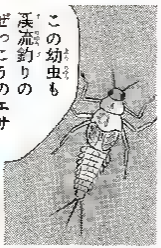
カゲロウの
ことじゃよ
むかしから
渓流釣りの
エサとして最適な
もんじゃから
釣り用語で
イサゴムシと
よんどるんじゃ
……


なーんだ
あの・・・
夏の夕ぐれどきに
水面を あがりさがり
しながら とびかう
カゲロウのことけぇ

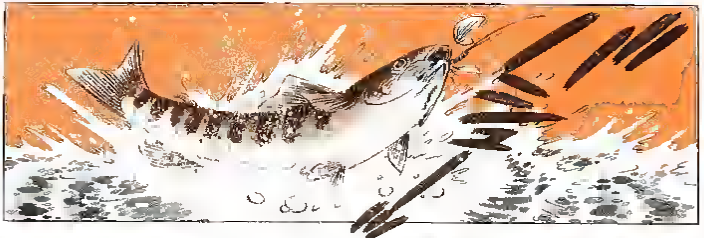
フフフ
そうじゃ
・・・・・
カゲロウ
ちゅう虫は
もかしから
朝に生まれ
夕に死す・・・などと
はかないものの
たとえにされて
きたが・・・

じっさいのところ
羽化して 短いもので
数時間・・・・
長いもので一週間の
命といわれて
いてな・・・




この幼虫も
渓流釣りの
ぜっこうのエサ
じゃが 山間の
渓流に よく
すんでいて

ATTACK
ZZZ
ZZZ
LOAF



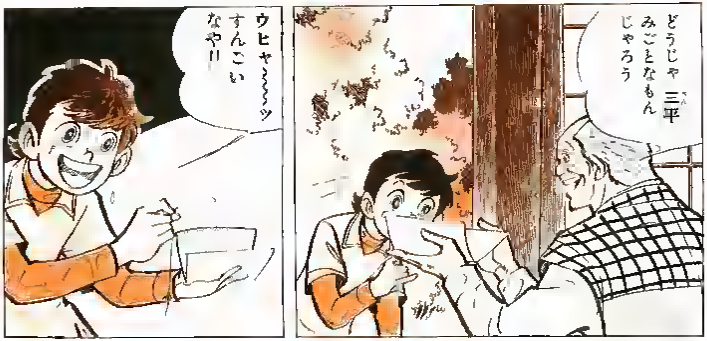
まず このイサゴムシ…つまりカゲロウにまさるエサはあるめえ
ヤマメやイワナなどはこれらの虫を主食にして生きとるからなあ…

じいちゃんカゲロウっていえば
春の天気のいい日に野ッ原さ ユラユラと立つ湯気みてえなやつも カゲロウというけど…

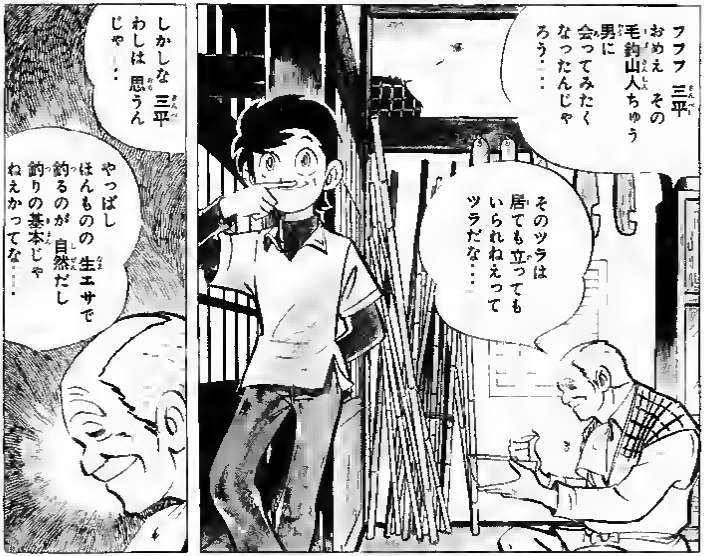
ハハハ そのとおりじゃよ
水面であがりさがりをくりかえしながらとぶ姿が…

春の野に立つカゲロウに似とるからそう よばれるようになったらしい…

そのカゲロウが
大空さ むかって
とびたつ姿に
見たてて
つくられたのが
この
「飛翔」ちゅう
毛バリじゃ
その反対に
水面さ おりる
姿を なぞらえた
のが……
この
「虫符」ちゅう
毛バリじゃ


どうじゃ 三平
みごとなもん
じゃろう
ウヒャ～～～ッ
すんごい
なやー!!

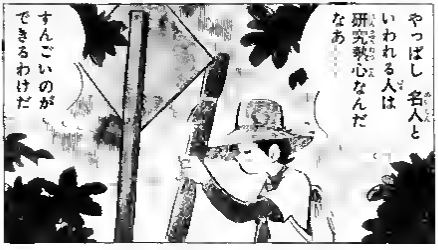
これが毛バリの神サマといわれる毛釣山人ちゅう人の作だなんて
これじゃあまるっきりほんもののカゲロウみてえじゃねえか


フフフ 三平おめえ その毛釣山人ちゅう男に会ってみたくなったんじゃろう…
そのツラは居ても立ってもいられねえってツラだな…
しかしな 三平 わしは 恩うんじゃ…!
やっぱし ほんものの生エサで釣るのが自然だし釣りの基本じゃねえかってな…

三平は
毛バリの神サマ
といわれる
毛釣山人に
一度でいいから
会ってみたいと
思った……

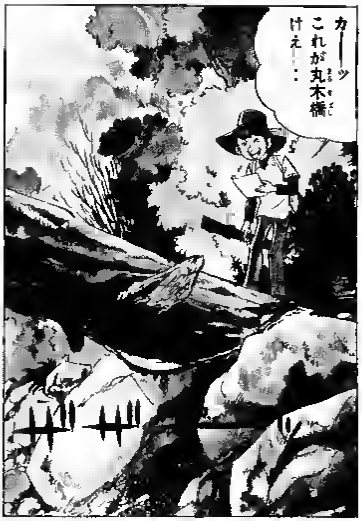
カゲロウの
多い 川の
ほとりに住み
釣りをしながら
毛バリづくりを
していると
いうことだが
さすが
名人と
いわれる人は
ちがうな
……

おらのじいちゃんも
和竿づくりの名人と
いわれてるけど
自分のつくった
釣り竿で
じっさいに
ためし釣りを
してみるもんな


やっぱし 名人と
いわれる人は
研究熱心なんだ
なあ
すんごいのが
できるわけだ

休耕区
ええと
……

えーと休猟区の立札をすぎて……
とっ
あわっ
とてっ
ムギュッ
休猟区の立札をすぎると……
まもなく丸木橋のところに出るが
そのまえにけっつまずきやすい木の切り株があるから注意しろ……
じいちゃ～んもうおそいよ
そんただこまかいとこまで目をとおすヒマなかっただ～～～っ


カーッ
これが丸木橋
けえ……

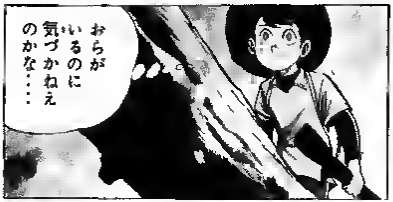
するってことは
この橋を
わたれば
毛バリの神サマの
家が近くに
あるわけか……

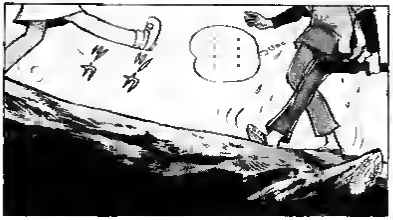
ウヒョ～～～ッ
けっこうな
川じゃねえか

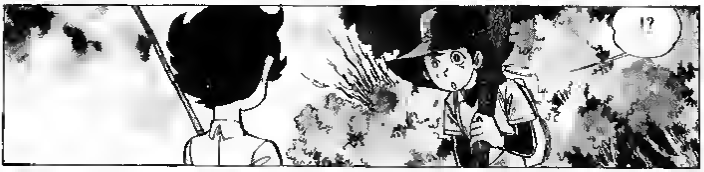
これなら
ヤマメやハヤが
うじゃうじゃ
いそうだな

ありゃっ
!?

ここの丸木橋は
ひとりっきりしか
とおれねえのに
どんどん
わたって
きやがる


おらが
いるのに
気づかねえ
のかな・・・


・・・・・・


!?

あたし
そっちの
ほうに
いくのよ
だから
どいて
ちょう
だい

そ そんな女の子のくせしてらんぼうなこというなや
おめえがわたりはじめたときにゃあおらあまん中へんまでわたっていただぞオ…!!

なーにいってんのよオここはまん中よりかそっちの岸のほうによってるわよ
この橋は岸に近いほうの人がえんりょすることになってるのよ!!
だからどいて!!

いったわねそっちこそ失礼よっ
レディーファースト知らないのっ!?

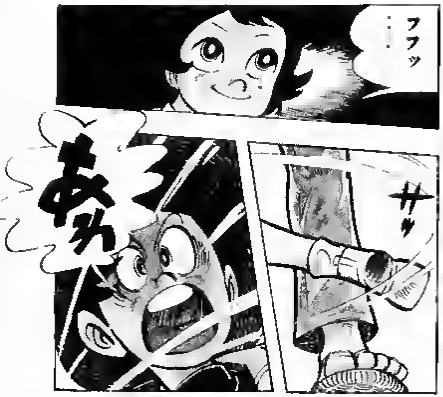
わわ——っおらあいまムカ——ッときたぞ モオ
そんただ無礼なしゃべりかたってねえべオナゴガキのチビスケのくせして…

このガキゃあ
まったくもって
めんこくねえ
口をきく
ようし
こうなったら
意地でも
どかねえぞ

ケヘッ なーにが
レディーファーストよオ
わらわせるなて
レディーちゅう
もんはな…
もっと
おしとやかで
やさしいもん
だべ…

へっ 一人前づら
して 釣り竿なんか
かつぎやがって
よオ
いってえ
なにが
釣れるって
いうんでえ

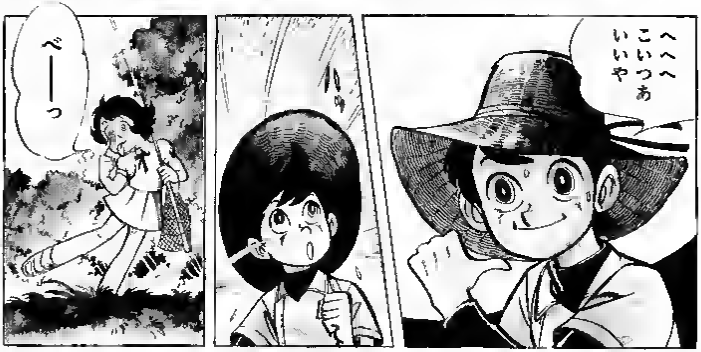
おめえみてえな
ガキワラシに釣られる
魚がいたら
さかだちして尻のアナで
スルメかんで
みせるて
キヒヒ


フフッ
……
ザッ
あらら

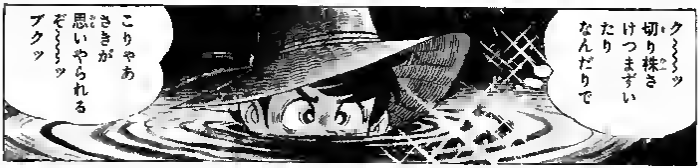
あわっ
あわっ
あわっ
あわっ
ウワぁぁ!?
ゴボッ
ウップ
ヒュッ
ピッ
ホー

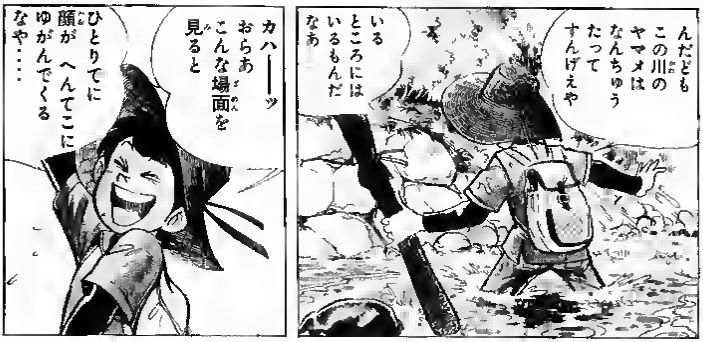
ン!?

ヤ…メだっ……
すんごく凄いぞ……!!


へへへこいつぁいいや
ぺ――っ

まーだいたけえ
このガキゃあ
ギャヒッ
ウキキッ
どぼん
どうなってるだ…


ク～～～ッ切り株さけつまずいたりなんだりで
こりゃあさきが思いやられるぞ～～～ッブクッ


んだどもこの川のヤマメはなんちゅうたってすんげえやいるところにはいるもんだなあ
カハ――ッおらあこんな場面を見ると
ひとりでに顔がへんてこにゆがんでくるなや…

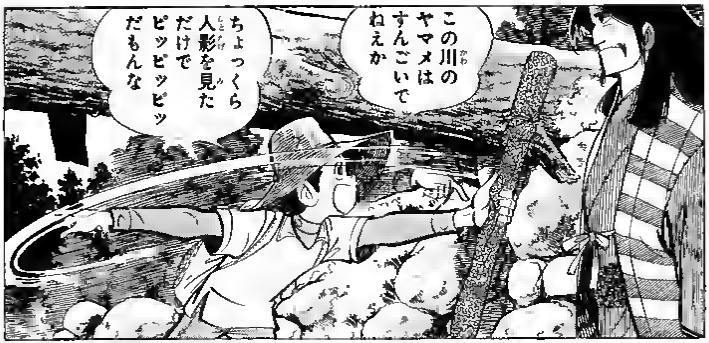
これこれ
そんなところで
なにをしてる
のかな
ニヤー

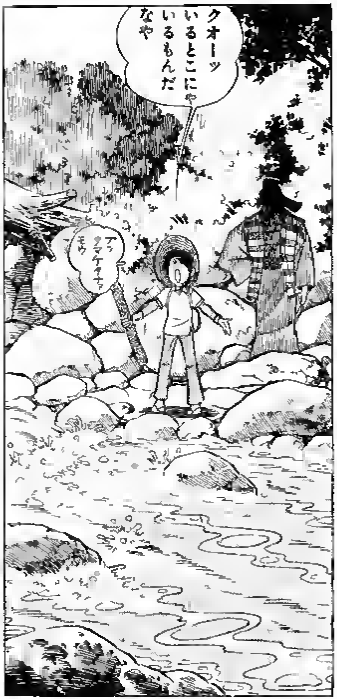
あ あの
す すみません
ちょっくら
水あびを

あのう
ちょっくら
たずねる
ども
毛釣山人さんの
家はどこだべ

毛釣山人は
わたしだが……!?

あーん
あんたが
あの
毛バリづくりの
名人といわれる
毛釣山人けえ
まるで
時代劇さ
出てくる
さむれえ
みてえだ
なや・・・
フフフ
おもしろい
子どもだ
名人か
どうかは
べつとして
まちがいなく
わたしは
毛釣山人だ
カハーッ
こんたに早く
お目に
かかれる
なんて
こりゃあ
神サマの
おひきあわせ
かな・・・
ところで
さっそくだ
ども

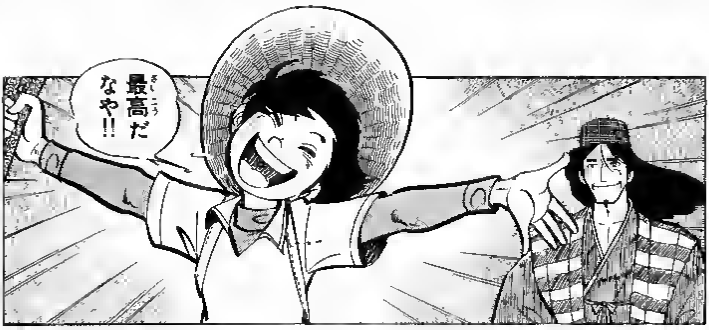

この川のヤマメはすんごいでねえか
ちょっくら人影を見ただけでピッピッピッだもんな


クオーッいるとこにゃいるもんだなや
アッ クマゲイヤ モウ

おらあ 根っからの釣りキチだもんでこんただとこを見ると
ひとりでに顔がへんてこにゆがんでくるんだなあ…

……
……

クソオ
なーんちゅうか……そのう……とにかく……


最高だなや!!

フフ おもしろい子どもだが
わたしに用件があってきたのじゃなかったかな
クゝゝゝゝ おらとしたことが

おらあ三平
三平三平ちゅうもんだが…
ほほう三平三平とな…
名まえまでおもしろいのう…で用件は!?
そ そんただあらたまるほどのこともねえけどよオ…
よ 用件だなんて

ちょっくら
毛バリの
つくりかたを
おしえて
もらいてえと
思ってな
……

なんと
!?
まあその
てえした
おげさな
ことじゃ
ねえだが

ちょっくら
ちょいと
つくりかたのコツ
ちゅうやつを
おしえてもらえれば
そんでいいだ

かえり
なさい!!

ハレッ

おらあ
いま
なんか
気にさわる
ことでも
いったけえ

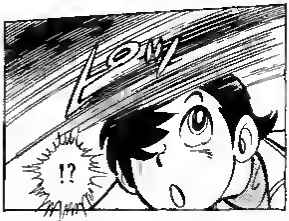
わたしは
毛バリづくり
ひとすじに
三十年の歳月を
かけてきた
ちょっくら
ちょいと
つくれるような
毛バリの
つくりかたは
わたしは
知らない
日の
暮れない
うちに
かえりなさい
そ
そんな
ちょ
ちょっくら
まって
けれっ!!

おらあ
なにも
そんなつもりで
いったんて
ねえだ
ことばの
はずみって
やつで
子どもだからと
いって
いいわけは
聞きたく
ない……
ましてや
毛バリを
かるく
見るような人に
毛バリは無用!!

そ
そんな
おらあ
あんたを
毛バリの名人と
見こんで
やってきただ
けっして
毛バリを
かるく見る
なんて
そんな……
かえり
なさい!!
ウワッ
ポカー
ガガガ

チョーシさのってわるいことをいってしまったなあ
せっかく会えたというのに
ヘロヘロ
クソオ
おめえたちがわるいんだ――っ
おめえたちさえおらの目さふれなかったら
こんだチョーシがくるわなかっただーっ

カハ――ッ
それにしても
色彩が濃いなあ……


!?

こらっ
八つあたりも
いいかげんに
おし!!

川に石をなげるのはよくないわ!!
ああっ
さっきの
オテンバ

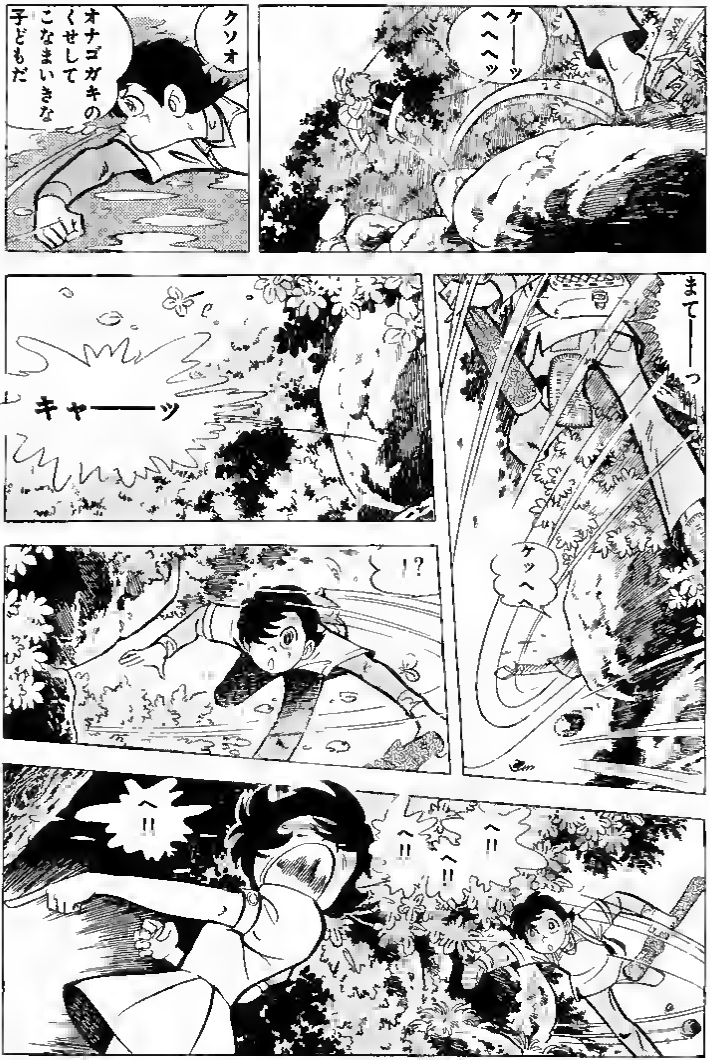
かえってちょうだい
ヘ!!

そんなマナーのわるい釣り人にこの川にこられちゃめいわくよっ!!

クソオこのガキャあ
さっきはよくも川さつきおとしてくれたなっ!!

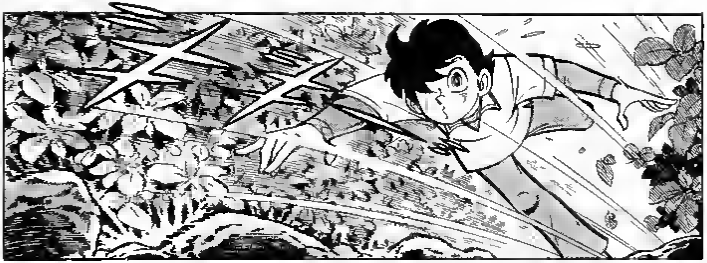
まちやがれっ

帽子かえせ――っ

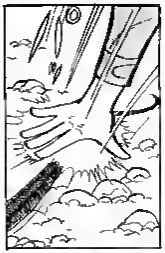

クソオ
オナゴガキのくせしてこなまいきな子どもだ
ケ――ッ
へへへッ
まて――っ
キャ――ッ
ケッへへ
!?
へ!!
へ!!
へ!!

ヘビだーっ
ヨロヨロ
ペタ
ヒヒ
ヒロ
カーツ
なにごとかと
思ったら
シマヘビで
ねえか
なーんぼ
おてんばでも
やっぱし
女の子は
女の子だ
なや

ホラ
ホラ
ホラ!!
イッ
見てろ
こんなやつ
はな……
ガタ
ガタ
フフフ……
ニョロ



ニュル


ニュル

ああ……
ケッヘヘ

ホラホラホラ
いい子だから
あんまし
まきつくで
ねえよ
だいいち
レディーを
おどかすってのは
よくねえな

あっちさ
いって
おとなしく
してろて

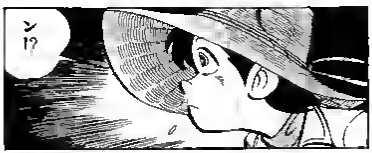
イヤッ
まあ ざっと
こんだ
もんだ
ポン
ポン

ヘビは
もう
いなくなった
よ…
安心しろ
ポケ
キャ
ッ
こわい〜〜!!
あ
わ
わ
っ
ヒラ〜
ハハハハハ
さっきの
おかえしだ
これで
あいこだべ
帽子は
けえして
もらう
からな

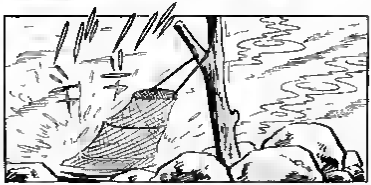
おにいちゃん
三平って
名まえなの
……
あたい
フーコ
……

フーコ
!?
そう
房子って
いうのが
ほんとうの
名まえ

それにしても
三平にいちゃん
って
すごいのね
だって
ヘビなんか
かるーく 手で
つかんでしまう
んだもの……


ン!?

おーい
ここれ ぜんぶ
おめえが
釣ったのけえ

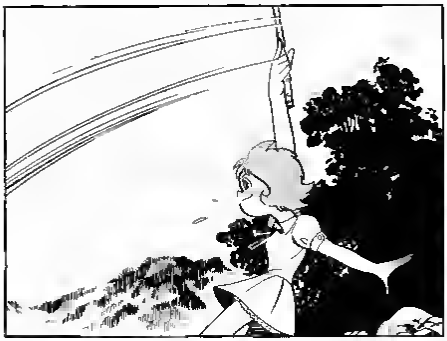


そうよ
ビト
ビト
うそつくのもほどほどにしなよな
さっき丸木橋ですれちがってから まだそんただ時間もたってねえぜ
それによおおめえみてえなオナゴガキのチビスケに
釣れるわけがねえハハハハ
釣って見せればいいんでしょう
見そこなわないで
あれっ
ありゃっ!!
きまってる……
なんちゅうチビスケだ……

ミョ〜ン
ヒュン
ヒュンヤッ
ク〜〜〜ッ
ませた ガキだな

んだども
あのフーコって
オテンバ
竿振りなんか
いちおうは
きまってる
ようだし
・・・
おまけに
この川は
魚影が濃い
から・・・

ひょっとしたら
釣れるかも
しれねえな
・・・



ヒュ
カハ――ッ
ざまあみろて
一投めは
カラ振りで
ねえか
フフフ……
シュワ
ワワ
もう一回
やりなおしって
わけかい
まあ
なんどでも
ためして
みるこったな……
ありゃっ

ありゃ
りゃっ!!
け
毛バリが
水面さ
つかねえ
うちに・・・・

ス・・・
ゴ
ピッチャ
どうオ
三平(さんぺい)にい
ちゃま
これで
あたいの腕(うで)が
わかって
いただけた
かしらン

かしらン…って おめえ
こんだ 色影が濃いもの 二回も三回も たたいてるうちに 釣れることだって あるべ
あら そんな まけおしみ いうんなら 釣ってみてよ
ヘッヘヘ まってました さっきから 腕がムズムズ してたとこだ

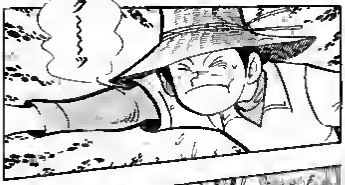
ほほう ガキの水あそびの ていどの のべ竿かと 思ったら
こりゃあ あんがい しっかり してるな…
ふん!! あんまり もったいぶらない で さっさと 釣ったら どう
まあ そんただ あわてる なて
子どもは そのへんて 見学してろ

口ばかりだと
思ってたら
三平にいちゃん
って　あんがい
やりそうね

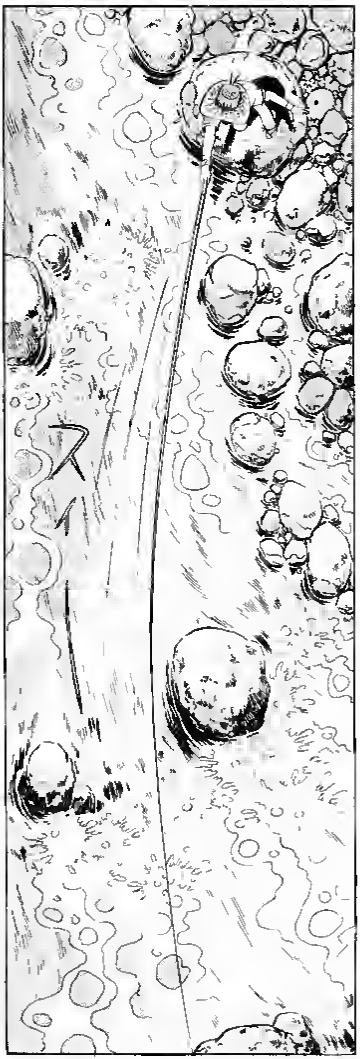
まあまあ
気にしない
気にしない
このう

あれっ
へへへ
ぶつくさ
いわねえで
見てろて
ガッパリ
くるぜ
ハハーン
へへへ
・・・!?
おかしいな
・・・

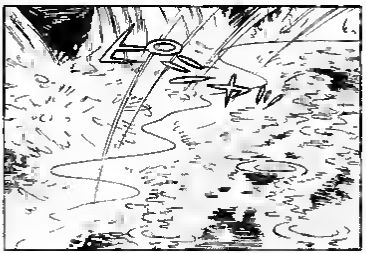
三平にいちゃん
もう一回
うちなおした
ほうがいいわよ
上から下まで
糸いっぱいに
ながしても
釣れないんだ
もんね

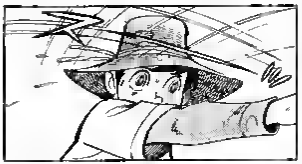

ク〜〜〜ッ

クソオ


スイ〜

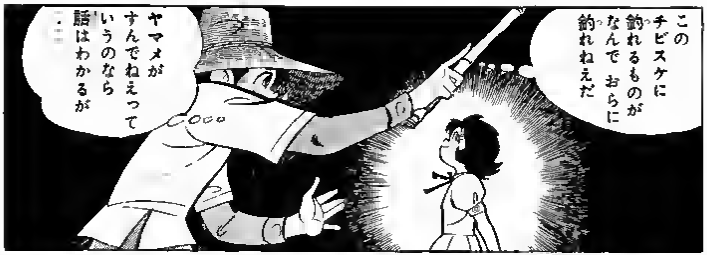
ハハハハ
こんども
釣れっこない
わね
な
なんだ
とオ

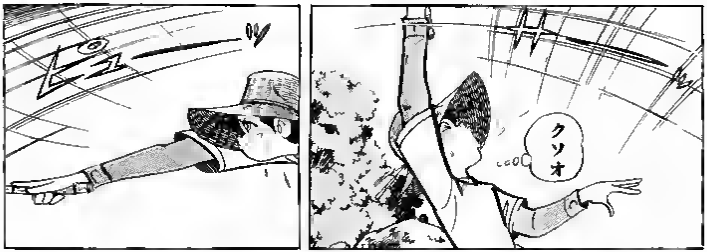




ばかなこと
いうてねえ
こんどは
まちがいねえて
見てろ!!

おかしい
……
きても
いいはず
だが


このチビスケに釣れるものがなんでおらに釣れねえだ
ヤマメがすんでねえっていうのなら話はわかるが


クソオ

はい もう三回めよ
どうせこんども釣れないでしょうけど
うるせえなガタガタわめくなおめえがいちいち話しかけるから魚がにげてしまうだ
あれ!! あたいのせいにする気なの
男らしくないわね

いやあ
そんただ
つもりは
ねえが
声がすると
気が散って
うまく
釣れねえ
からな

なーに
いってんの
散るのは
気ではなく
お魚のほうよ
三平にいちゃんの
うちかたは
てーんで
なってない
んだから

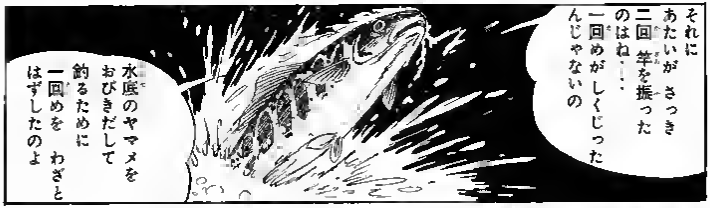
な
なんだ
とオ
なまいき
いいやがって
このう!!

三平にいちゃん
毛バリ釣りは
あんまり
やった
ことがないんじゃ
ないの?
だいいち
うちこみが
強すぎるんだなあ

いきおい
あまって
ミチイトまで
水面をたたいて
いるじゃないの
あれじゃあ
お魚が
みんな
にげてしまう
わ……

それに
毛バリ
が
しずんで
しまっている
じゃないの

毛バリ毛バリって
ひとくちにいう
けどね
水面にうかせて
釣る毛バリと
水中にしずめて
効果のある
毛バリと
あるのよ!!


それに
あたいが さっき
二回 竿を振った
のはね…
一回めが しくじった
んじゃないの
水底のヤマメを
おびきだして
釣るために
一回めを わざと
はずしたのよ

おらあ
毛バリ釣りって
そんただことが
あるなんて
はじめて
知っただ
おおそろしい
チビスケだ

三平にいちゃん
そんなに
がっかり
することは
ないわよ
にいちゃんは
けっこう
いい線を
いってんだから

じゃあ
この毛バリは
水面にうかせて
釣るものけえ

そうよ
そういうのを
ドライフライ
というのよ
反対に
しずめて
つかうのは
ウエットフライ
：

うっ
こ これは

この毛バリは
もしかして
飛翔ちゅう
名まえでは
ねえのか

あら よく
知って
いるわね
あたいの
おじいちゃんが
つくったものよ

ええっ
びっくり
こいたなあ
するってえと
おめえは
毛鉤山人の
…

そう
毛鉤山人は
あたいの
おじいちゃん

そ そうけえ
そうだったの
けえ…
ちょうどいいや
おらあ
おめえの
おじいちゃんに
会うため
やってきた

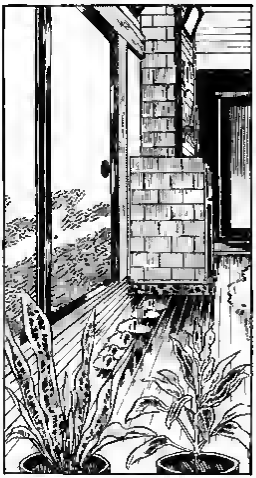
んまン
そうだった
の……

ついてきな
トホホホホ
三平くんもおちたなやこんだチビスケにいい気にならられるなんて
まあしようがねえべ
くやしいけどおらより毛バリ釣りはうめえもんな……
まあ見てろってあっというまにマスターしてみせるから
ありゃりっぱな家だなや……

おじいちゃーん
お客さまだよーっ
おう
きみは たしか
三平くん
だったね

なーんだ
おじいちゃん
知ってたの
フフフ
さっき 川で
会ったばかり
だよ
ききほどは
すみませんでした
チョーシに
のって…

ほほう
これは たしかに
わたしが むかし
つくった
「飛翔」「光輝」
という毛バリ
だが
いったい
どこから
手にいれた
のです



はい おらの じいちゃんが たいせつに 持ってたものを 借りてきました
なに きみの じいちゃん!?
三平一平 ちゅうて 和竿づくり してるんだ
ヘエーッ 三平 にいちゃんの おじいちゃんは 釣り竿つくりなの
ウーム 三平一平 ・・・・
!?
あのう どうしただ
かえれっ!!
三平一平のゆかりの者なら 会いたくない

ど どうしただきゅうにそんただおっかない顔をして
おじいちゃん!!

ちょっくらまってけれ
おらにゃあなんのことかさっぱりわからねえ

どうしておらのじいちゃんのゆかりのもんなら会いたくねえだ

なあだまってねえでおしえてけれ

そうよ
おじいちゃん
そんな こわい
顔したら
三平にいちゃん
かわいそうじゃ
ないの

もし
三平にいちゃんの
おじいちゃんと
なんか あったと
しても
なんにも
知らない
三平にいちゃん
に 関係ない
じゃないの
おとなが
子どもをいじめる
なんて フーコ
きらいっ!!
ウキ
イテ
フーコ

フーン
なおして
あげても
いいけど
そのかわり
いま おこった
理由を話して
くれるっ!?

わるかった
わるかった
きげん
なおして
おくれ
ク～～～ッ

フフフ
わたしも
年をとった
ものだ
子どもの前で
こんなに
立腹する
なんて・・・
ねっ
すぐ
あれよ
おじいちゃん
って
フーコには
てーんで
よわいんだ
から・・・
考えてみれば
あのことは
わたしと
三平一平氏
とのことで
ほかのだれにも
関係のない
ことだった
もう
十年も
むかしの
ことだ

いまや一千万人もの
愛好者をもつ
釣りの推進母体
として発足した
日本釣友連盟の
主催で——
第一回
釣り具コンクール
が 東京で
ひらかれたの
です

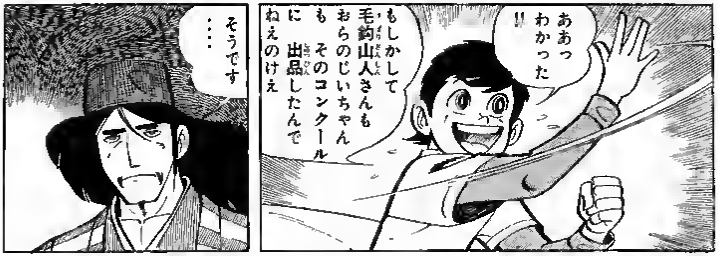
全国各地から
さまざまの釣り具
が出品され
第一回めにしては
たいへんな盛会
でした・・
そして
コンクールの名
がしめすように
出品作品の中から
とくに すぐれたもの
アイディアに富んだ
ものを表彰しよう
という
こころみだった
第一回日本釣具コンクール
主催 日本釣友連盟
会場
ヘエーフ
ほんじゃあ
一等 二等
三等なんて
きめて
賞を
くれるって
のけえ

そのとおりだが…
それがどうした
ヘエーッおっかしなこともあるもんだなや
いってぇなにを基準にして一等二等なんてきめることができるんだべ
ホホウ三平くんそれはどういうことかね
んだって釣り具とかしかけなんちゅうもんは その地方独特のもんだべ
ある地方では最高の釣りかたであってもべつの地方じゃぜんぜん通用しねえってことがあるんだ
寒い地方あたたかい地方・季節時間帯・天候・水質などによってさまざまにかわってくるものを
いっしょくたんにまとめて一等二等をきめるなんておっかしな話だべ
ウム・・この三平という少年・・
釣りを知ってるな子どもとは思えない・・・
三平くんわたしもたしかにそう思う
そうけえ毛鉤山人さんだって そう思うけえ

ことわざに
郷に入れば
郷にしたがえ
…というのがあるが
釣りかたや
用具　しかけなどは
まったく　その
地方の実情に
あっているもので
どれが　いいの
わるいのとは
いちがいに
いえないものだ

そういう意味では
わたしは
コンクール方式には
おおくの疑問を
もったものだが
おたがいの釣り具や
技術を交換しあって
釣りというものを
発展させようという点は
たいへんけっこうなことだと思った
なーんか
おもしろく
ないわねえ
ふたりともモロに話があっちゃってさあ…
話が　へんな方向に
いってるのね
かんじんの
三平にいちゃんの
おじいちゃんとのことは
どうなってんのっ!!

ハハハハ
すまない
すまない
ひさしぶりに
話のわかる
釣りキチと
会ったので
ついわき道に
それたね
まあ
わかる人には
わかる
もんよ


ああっ
わかった
!!
もしかして
毛鉤山人さんも
おらのじいちゃん
も そのコンクール
に 出品したんで
ねえのけえ
そうです
……

やっぱし
そうだったの
けえ
そんで
何等
とっただ

三平くん
きみは
知らない
のか……
なにを
……!?

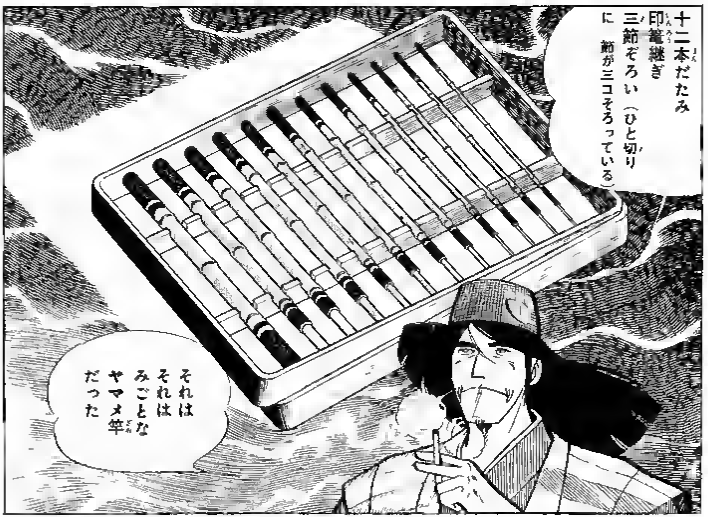
きみの
おじいさん
が……
最高の
賞に
かがやいた
ことを……

いやあ
ぜーんぜん
ンマア
そんなこと
あったの
おじい
ちゃん

おかしいな……
賞状のほかに山ほどの賞品をもらったはずだが
見たことも聞いたこともねえだ

おじいちゃんのほうこそどうだったの

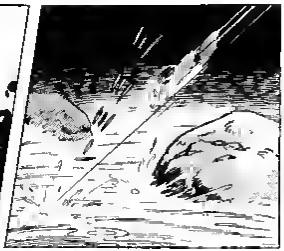
わたしも毛バリ部門で一平氏とおなじ最高の賞を受賞したが
三平一平氏はたしか ヤマメ竿で 受賞したと記憶している
シュボッ

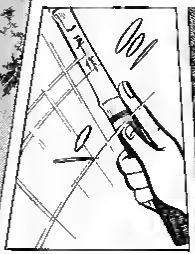

十二本だたみ印籠継ぎ三節そろい（ひと切りに 節が三コそろっている）
それはそれはみごとなヤマメ竿だった

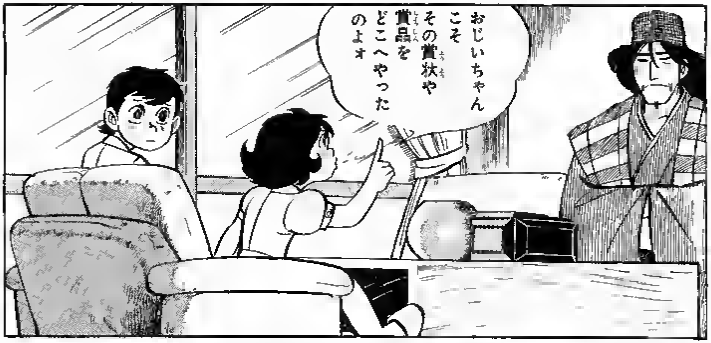
ああ…
あの竿だったら
いまでも
じいちゃんが
つかってるよ

でも あの竿で
そんな 大きな
賞をもらった
なんて
ごく
ふつうの竿
みてえに
気らくに
つかってるだ

なんと
……



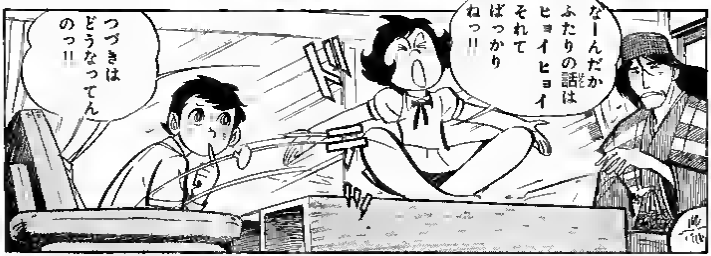



おじいちゃんこそその貴妹や貴品をどこへやったのよォ

わたしは貴が目的で出品したのではないから
どっか納屋の中でホコリでもかぶってるだろう

ほんじゃあおらのじいちゃんもひょっとしたらおなじことをやらかしてるかもしれねえな

な
なんと……
ま　まさか……


なーんだかふたりの話はヒョイヒョイそれてばっかりねっ!!
つづきはどうなってんのっ!!

とにかく
三平一平氏と
わたしは ぶじ
受賞式も
おえ……
受賞パーティーへと すすんだわけだが
わたしは
その席上で
三平一平氏に
……
決定的な
ぶじょくを
うけたのだ
!!
ええっ
そ そんな
バカな
いいってえ
どんな!?
シマア
だが
わたしに
とって
……
いや!!
毛バリづくりに
生命を かける
男にとって
これ以上の
ぶじょくはなかった
いいたくない!!

そ　そんな
まってけれ
毛鈎山人さん

そりゃあ
なんかの
まちがいだ
おらの
じいちゃんは
そんただ人で
ねえだ

まってけれ
おらの
じいちゃんは
けっして
そんただ
人間しゃ
ねえだ

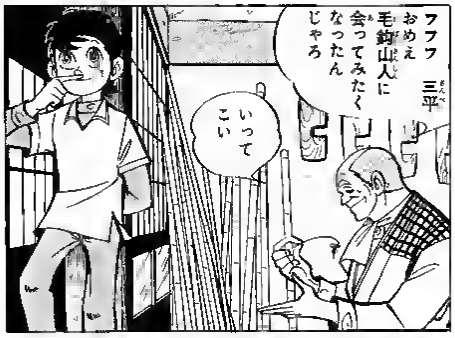
ようし
こうなったら
おら
じいちゃんの
講解を
とく
までは
一歩たりとも
うごかねえだ
!!
だいたい
だな
おらの
じいちゃんは
あなたのつくった
毛バリを
こうやって
だいじに
持ってるだ
よ……

それに
毛鉤山人こそ
日本一の
毛バリづくりの
名人
毛バリの神サマ
だと いってるだ
それほどまで
みとめてる人を
ぶじょくする
なんて
考えられねえで
ねえかっ
!!

げんに
おらが ここに
くるときだって
じいちゃんは
こう いってただ
どうじゃ 三平
みごとな
もんじゃろ
これが
毛バリの神サマと
いわれる
毛鉤山人ちゅう
人の作だ

ウヒョ〜〜〜
これじゃあまるっきりほんもののカゲロウみてえじゃねえか

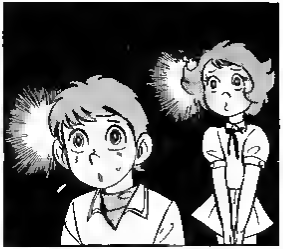
しかしな 三平
わしは 思うんじゃ
やっぱし 釣りは本物のエサで釣るのが自然だし釣りの基本じゃねえかってな…


フフフ 三平
おめえ毛鉤山人に会ってみたくなったんじゃろ
いってこい

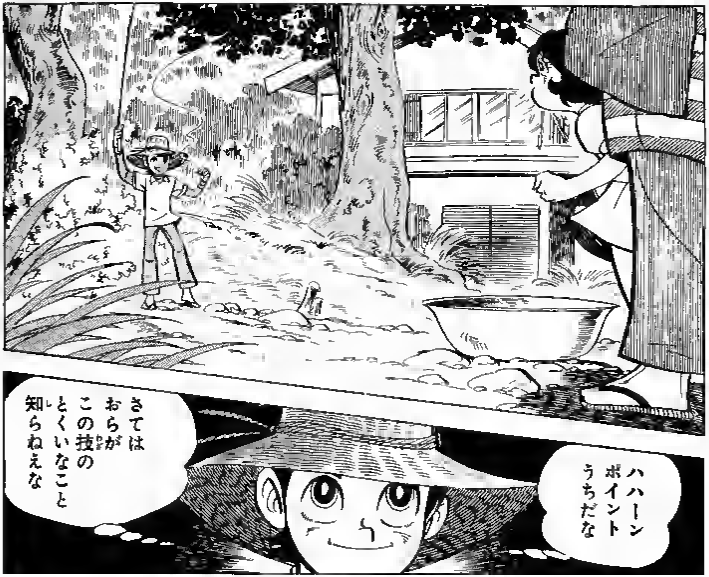
クッ

おじいちゃんなんでそんなこわい顔するのっ!?

こいっ!!
生エサで釣るのが自然で釣りの基本か……
毛バリ釣りは邪道かどうか見せてやる



そこからこの洗面器にみごと うちこんでみろ!!

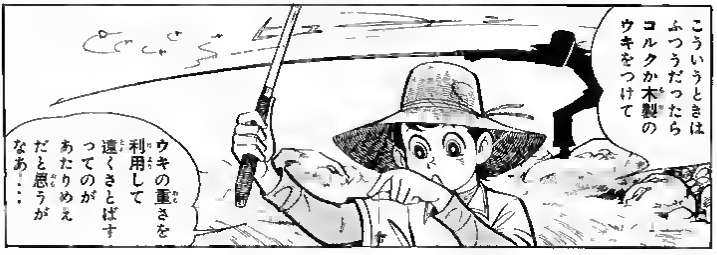

ハハーン
ポイント
うちだな
さては
おらが
この技の
とくいなこと
知らねえな

よーし
あんれ
毛バリ一コしか
ついてねえし
オモリもねえ
思うように
とんでくれる
かな
さあ
腕だめしだ
やってみろっ
!!

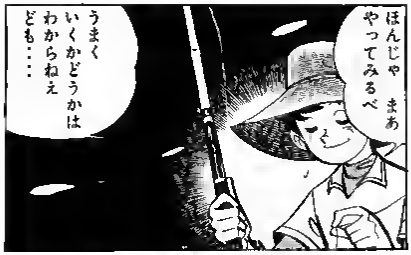
九尺(二・七メートル)三本継ぎのヤマメ竿・・
さすが この竿は毛バリの神サマがまいにちつかってるというシロモノだけあって 手にしっくりくるが・・

なんぼ強く竿を振りまわしたってあの先画器まではとどきそうもねえぞ・・

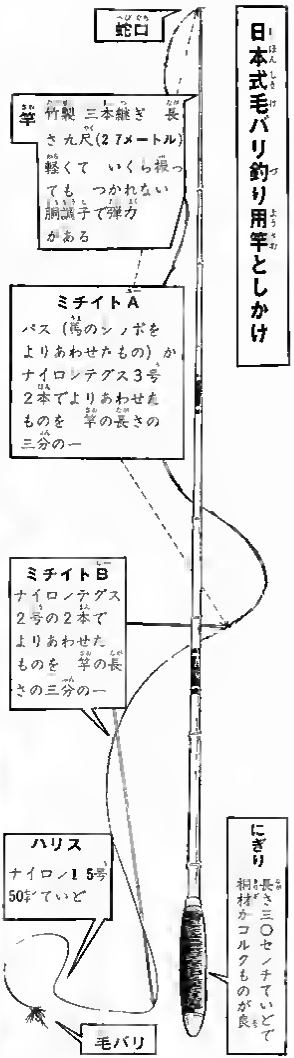
こーんただかるーい毛バリが一コだけとはまいったなあ・・・


こういうときはふつうだったらコルクか木製のウキをつけて
ウキの重さを利用して遠くさとばすってのがあたりめえだと思うがなあ・・・

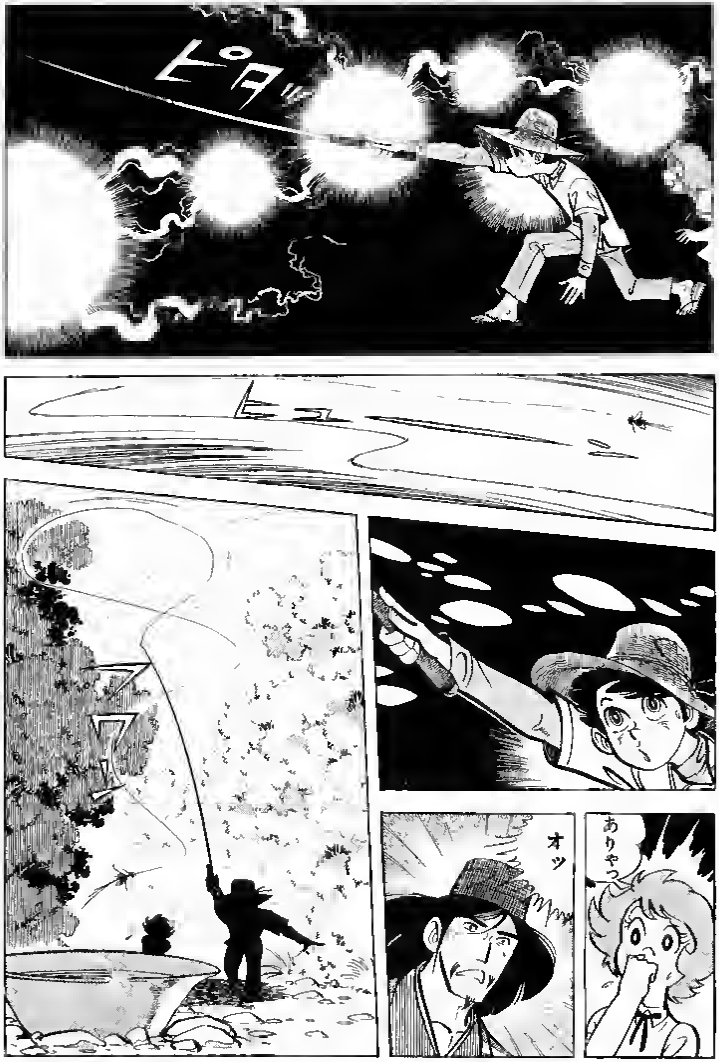
いってえ
どうなってるだ
こりゃあ…
それに
このミチイト
……
馬のシッポを
よりあわせた
ばかに ごっつい
しかけだし
……
長さ九尺
三本継ぎ……
日本式毛バリ竿
としては ごく
ふつうの竹竿……
しかけも
日本式毛バリ
釣りの基本型
として
ふるくから
愛好されてる
ものだ
わたしの竿だ
からといって
えんりょはいらない
思いきりやってみろ
フフフ
いいわけや
つよがりを
いうのかと
思ったら
なかなか
どうして
さっぱりした
釣りキチ
少年だ
いやぁぁぁあ
他人の竿を
振るってのは
気がひける
もんだなや
それに おらあ
じっさいのところ
こんただしかけ
はじめてだ
うまく
やれるかどうか
わからねえや
どうした
早く
うちこんで
みろ



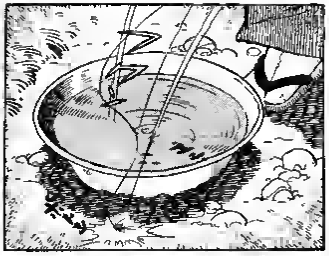
日本式毛バリ釣り用竿としかけ



ようし
あの
要領だな
……
しかし 三平くん
という少年は
おもしろい子だ
一平氏に そうとう
しごまれたと
みえる……
他人の竿を
にぎって
あれほど
サマになる
とは……
いくぞっ
!!


ヒュ
オッ
ありゃっ

ウム
カーッ
はずれちゃったなあ…



でも 大成功よ
あたいだってあんなにうまくいかないわよ
やっぱり三平にいちゃんって素質があるのね
だいたいの要領はわかったからこんどはきっとうまくいくだ
山人さんおねがいだもう一回やらしてくれ

ひとつだけ質問するが三平くんはポイントうちの練習をしたことがあるのか

三平くん
そのひつようはない きみの力はいまの一投でわかった

やっぱりそうだったのか

夜泣谷ちゅうとこで大岩魚を釣ったとき
じいちゃんと銀次さんちゅう人にえらいこと練習させられただ

おら 最初
毛バリ一コしか
ついてねえし
オモリも
ウキもねえから
どうやったら
とばすことができるか
わからな
かったが…

なんと…
はじめて

んだども
こんただ
馬のシッポの
ミチイトなんて
はじめてだ

毛バリを うまく
とばすためには
ミチイトを太くし
ミチイトの重さを
利用するなんて
りくつにあってる
これだったら
ウキもオモリも
いらないわけだ

んだども むかしから
いろんな人たちが
研究してつくりあげた
しかけちゅうのは
うめえことできてる
もんだなや
馬のシッポや
テグスをよりあわせて
ミチイトにしたのも
だてじゃねえもんな

ウームおどろいた
はじめて
手にした
しかけの性能を
いちはやく
見ぬくなんて

いやあ
見ぬいたんで
ねえだ
フーコちゃんが
おしえて
くれたのさ

あら あたいは
なにも
おしえたり
なんかしない
わよ
だって
さっき 川で
やって
見せたでねえか

おじいちゃん
三平にいちゃんて
すごいわね
あたいはね
たった二回だけ
竿を振って
見せただけよ
おらあ
よっぽど
ひとマネが
うまいんだ
なあ
見てるだけで
だいたいの
要領を
つかんでしまうだ
……
……

いける!!
……
この少年は
きっと
いける!!
毛バリ釣りの
真髄を
マスターして
くれるに
ちがいない
……

三平くん
きみは
わたしに
毛バリのつくりかた
を
ならいたいと
いってきたのだな
もちろんです
ぜひ
おしえて
ください

では
やさしい質問
かもしれないが
聞こう…
ヤマメなどの
渓流魚が
常食としている
虫類を
知ってるだけ
いってみなさい

そんなの
かんたんだべ
まず
なーん
てったって
カゲロウだべ
それに
カワゲラ
トビゲラ
などもいるし
クモや
蚊なんかも
食べるし
ガや
チョウや
トンボ
バッタなど
羽根のある
昆虫類だったら
きりがねえな

そのとおり
だが…
そのうちでも
カゲロウとトビゲラの
三種は数も多く
ヤマメたちの常食と
いえるだろう

幼虫のころは
水底をうごきまわり
ぜっこうのエサと
なるし

羽化して
水面スレスレを
とびかう成虫も
ヤマメにとっては
最高においしい
エサだろう

毛バリは
こうした渓流魚が
このむ
カゲロウなどの
成虫に似せて
つくったものだ

よかったね
三平にいちゃん
……
おじいちゃんの
あの顔は
きげんのいい
ときの顔よ

では
なぜ
毛バリ釣りという
釣りがあるの
だろう?

魚たちが
このんで食べる
生エサをつかえば
いっぱい釣れるものを
なにを
すきこのんで
毛バリというニセモノを
つかって釣るのだろう?

それは
エサ釣りよりか
おもしろい点が
あるからで
ねえかなあ

フフフ
単純明解て
あたっているが
……

毛バリ釣りの
どこが
どう
おもしろいと
いえるだろう

あーら
きったない
ミミズなんかの
エサをつかうより
きれいで
いいじゃないの

それに
エサをつけたり
とられたりする
心配がないから
らくよねっ

それもあるけどそればっかしじゃねえと思うなあ
りくつからいったって生エサよりか魚が食いつくという点からいくと毛バリは不利だ……
……ということは角もエサ釣りより多くは釣れない……
釣れないより釣れるほうがおもしろいということになると
毛バリ釣りはおもしろくないというりくつになる……
やっぱり三平くんという少年はするどい釣りキチだ
ちょっと疑問点を出すとすかさず反応をしめしてくる。
三平くん釣りのおもしろさとは多く釣ることかな
おじいちゃんそんなこときまってるじゃないの
ボウズよりたーくさん釣れたほうがおもしろいにきまってるわ
フーコちゃんそりゃあちがう

釣りを
どんどん
やっていくと
やたらと
数ばっかり
釣るよりか
なかなか
釣れにくい魚を
いろんな釣り技を
くふうして釣る
のが おもしろく
なってくるだ

おらのじいちゃんは
いつも いってるだ
三平!! 釣れる
からといって
調子にのって
バカスカと
ぶちあげる
もんでねえ
そんただ
ザツでそまつで
らくな釣りかたを
したって ちっとも
おもしろいもんで
ねえ
ねらった
ポイントから
一ぴき一ぴき
吟味して
釣ることじゃ
それが
釣り技を
たかめることに
なるのじゃ

なんと
!?
一平氏は
そういって
いるのか
うん

りっぱだ‥
一平氏は
竿師としても
超一流だが
釣り人としても
一流だ
‥‥とすれば
わたしは 一平氏を
誤解してたと
いうことになる
なんという
ことだ
‥‥

三平くん
!!

毛バリのおもしろさはきみのおじいさんの考えとおなじだ
えっ

生エサよりも食いつきにくい毛バリで魚を釣るには
テクニックがだいいちだ

だまってても よく食いついてくれる生エサは たしかに自然だし釣りの基本かもしれない

しかし毛バリ釣りはエサ釣りとはまったくちがうジャンルだ
一にも二にもテクニックだいかにして魚たちに毛バリをほんものの虫と誤認させるかだ

いたずらに釣果をもとめず
魚の能と人間の技をぶっつけあうのが毛バリ釣りの真髄だ!!

これを見ろ
コガネグモの巣でねえか
この巣に木の葉をひっかけてみよう
クモはびくりともしまい
木の葉であることを知ってるからだ
だが……
!?

ス
ヒュン
ヒュン
ああっ
あれで
竿を振った
のけえ
……
なんちゅう
早さだ

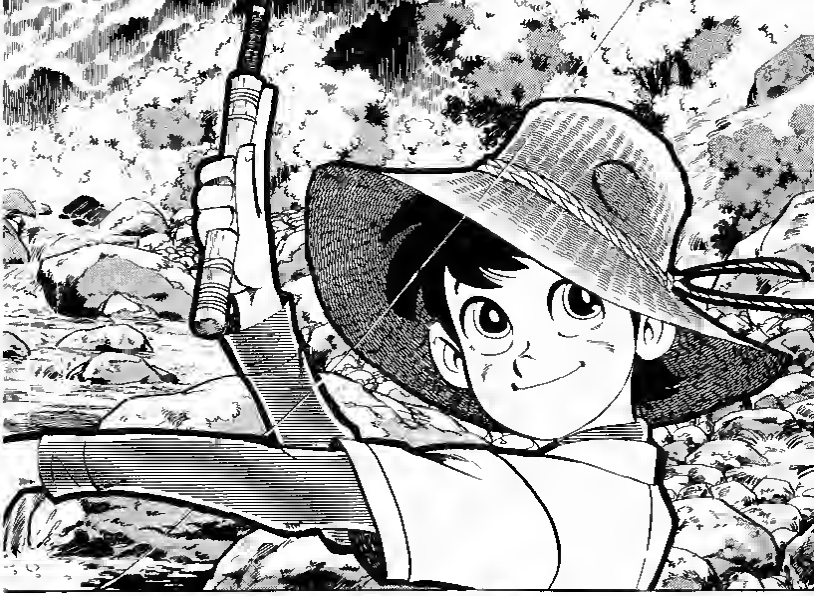
ああっ
クモが!!

びっくら
こいたなぁ
はきだす糸で
毛バリを
あんなに白く
つつんでしまって
るだ…

どうだ
三平くん
なんの
へんてつもない
毛バリも
操作ひとつで
ほんもののカゲロウ
と まちがえるのだ

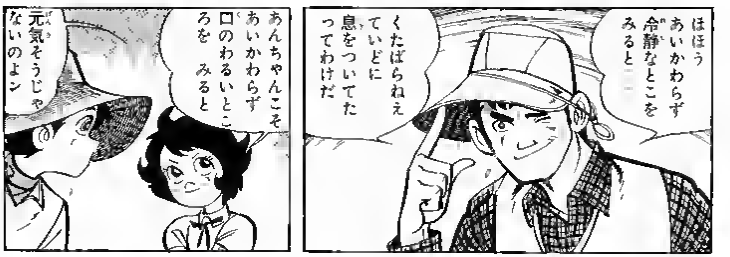
ウーン
こりゃあ
まさに
テクニック
だなや
とうさ
あたいの
おじいちゃんの
腕は

やい
毛鉤山人!!
!?
アラ
フフフ……
おれの苦心の
毛バリが
やっと
できたぞっ
きょうこそは
勝負だ!!

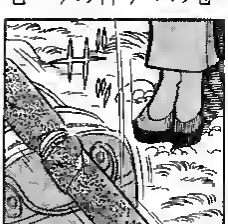


やい 毛鉤山人!!
勝負だ
勝負だ——っ!!
きょうという
きょうは
なにがなんでも
勝ってやる
ぞ——っ

また きたか 真吾くん
よくも こりずに 挑戦してくる 若者だな そんなに大声を はりあげなく ても きこえるぞ


ほほう あいかわらず 冷静なとこを みると…
くたばらねえ ていどに 息をついてた ってわけだ
あんちゃんこそ あいかわらず 口のわるいとこ ろを みると
元気そうじゃ ないのよン

カーッ
やっかましいて
このオテンバ
娘めっ!!
おらあ
ごらんのとおり
殺しても
死なねえほど
元気だて
ばかに
なれなれしい
けんど
知ってる人
けえ…
そうよ
真吾
あんちゃん
つってね
しょっちゅう
くるのよ
ほほう
きょうは
見なれねえ
ガキが一ぴき
いるじゃ
ねえか
おう神サ
なんでえ
このガキは
三平三平
くんといって
わたしの
お客さまだ
……
……
しょうがっこう


あっそう
おらあ きょうは
べつに ガキどもに
用があって
きたんでねえ

とうぜんの
ことながら
うけてくれる
べな・・・

毛バリの神サマ
毛鉤山人自身と
サシで勝負を
しにきただ

フフフ
あいかわらす
むこうっ気が
強いな
真吾くん

フーコちゃん
なんでえ
あの真吾って
男は
フフフ あのね
川の下流のほうに
住んでるんだけど
とっても おもしろい
あんちゃんなの

あったりめえよ
なーにしろ
おめえのつくった
「飛翔」「沈鐘」に
まさるとも
おとらねえ
毛バリを
やっと
巻きあげて
持ってきた
からな・・・

大の釣りキチで
自分で巻いた
毛バリで
いつも
おじいちゃんに
挑戦にくる
のよ
やい 神サマ
きょう
こそは
負けんぞ
フフフ

ところが
おじいちゃんは
いっこうに
おうじないで
いーつも
あたいに
相手を
させるのよ
いくわよ
!!
クソオ
まーた あの
オテンバが相手か

クソオ
えええっ
フーコ
ちゃんが
そんで
勝負のほう
は……!?

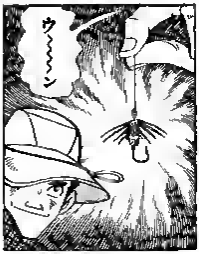
もち!!きまってるじゃないのあたいの勝ちに…
真吾あんちゃん口ほどにもないのよ釣り腕は…

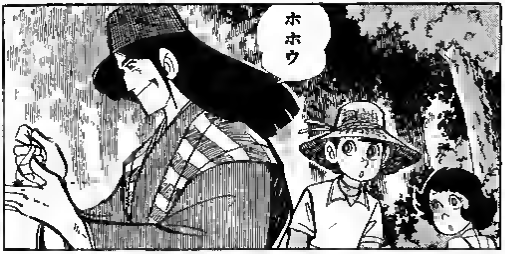
あたいのおじいちゃんがつくった毛バリのほうが優秀ってわけね
おい外野席のジャリどもうるせえぞっ

きょうはおめえみてえなオテンバの相手にきたんじゃねえ…神サマ自身とサシで勝負にきたんだ

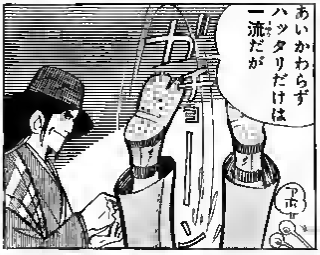
なっ!!
うけてくれるな!!
フフフ

まあこれを見て挑戦をうけねえようだと毛バリの神サマの名がすたるっていうもんだべ
一週間かかってくふうにくふうをこらして巻いたものよオ

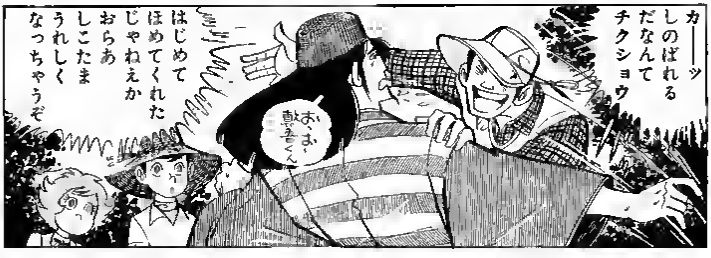

ウ〜〜〜ン


ホホウ

まあ そいつを
つかえば
おめえのつくった
「飛翔」「決蹴」なんて
めじゃねえ


あいかわらず
ハッタリだけは
一流だが
ポカ
ポカ

これは
なかなかの
できばえ
だ
ガハハ
くふうの
あとが
しのばれる
……


カ――ッ
しのばれる
だなんて
チクショウ
はじめて
ほめてくれた
じゃねえか
おらあ
しこたま
うれしく
なっちゃうぞ
おっ、おっ、
勲さん

!?

イーッだ
ケヘッ
なーんでぇ
ガキどもけぇ
おめえたちに
用はねえ
あっちさ
いってろ
おい
神サマ

ここで
うれしがっては
ひたすら神サマを
目標に 毛バリを
巻いてきた
この真吾サマの
男がすたると
いうもの
とにかく
四の五の
ぬかさねえで
早いとこ
勝負と
いくべ
なっ!!
なっ!!
フフフ
いい
だろう

ウヒョ〜〜〜ッ
やっと念願の神サマとサシで勝負できるぞ——っ
なんぼなんでもオーバードなや
ちょっとちょっとセニョ
世能のハナシはすぐ長くなる

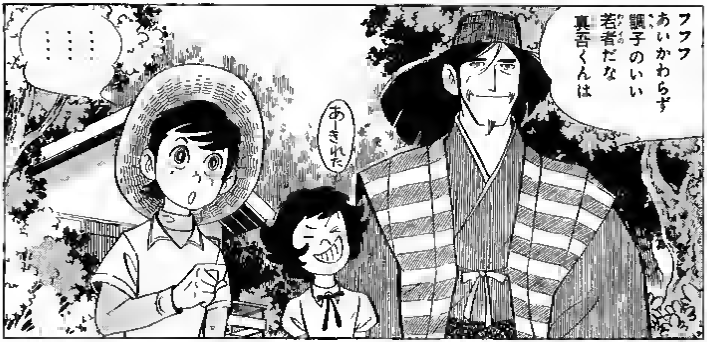
おじいちゃんきょうはあたいが相手しなくともいいの
フフフまあ見ていなさい

あーあきょうのとこはガキは関係ねえのっ!!おとなしくあっちさいってろてなっ

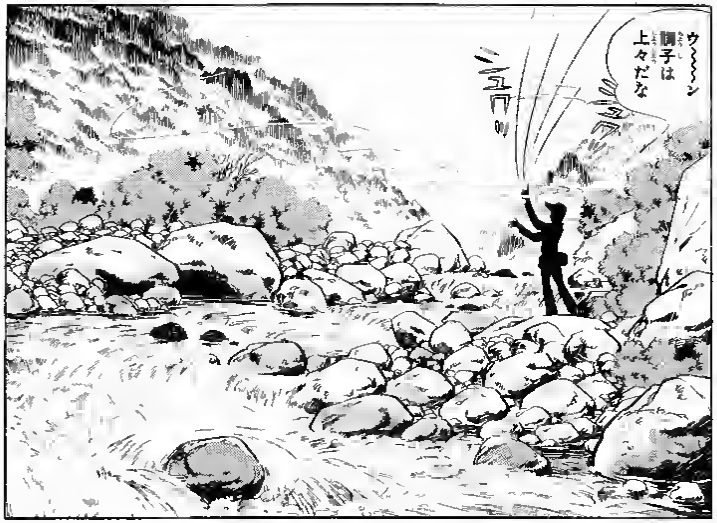
ア…

チェスト——ッ

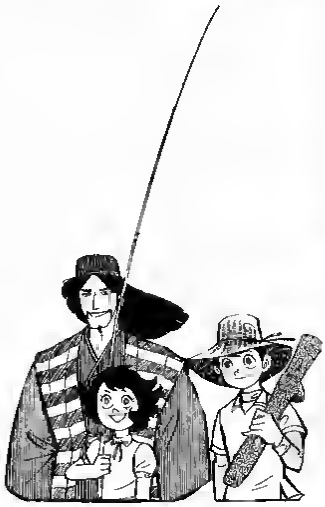
あたっ
たっ
おおい
フーコ
まあまあ
いいってことよ
ガキのママゴト
じゃねえか
ほんじゃあ
いつもの
ポイントで
まってるぜ
だいじな勝負の
まえに へんな
あらそいは
さけるべ
早いとこ
したくをして
きてくれ
ウヒョ〜〜〜
いよいよ
勝負だ
ぞ——っ
腕がなる
ガラン
ガランと
……


フフフ
あいかわらず
調子のいい
若者だな
真吾くんは
……
……
あーばれた

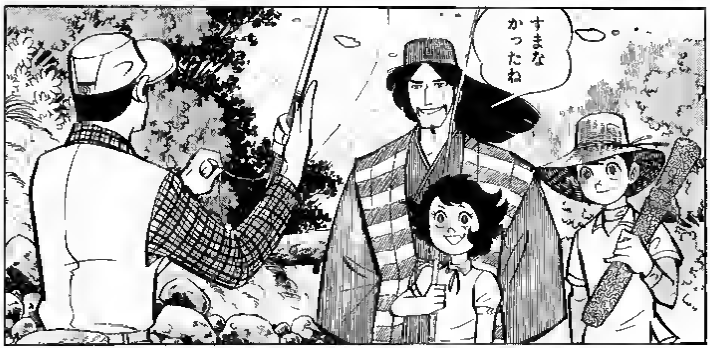
きょうこそ
この苦心に苦心を
かさねて巻いた
毛バリで
神サマを
ギャフンと
いわせて
やる
ヒュルル
ンッ!!
カッコ
いいぞ
真吾くん


ウ～～～ン
調子は
上々だな
ジワ～

ンッ!!
きたなっ



おそかったでねえか
こっちはすっかり準備ができてまちくたびれてたところだ

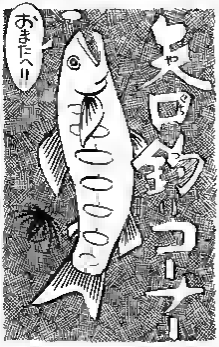

すまなかったね

まあそんなこたあどうでもいいさっそく勝負開始といくべ
まちなさい：いままではてきとうにやってたがきょうはひとつルールをさだめてやってみよう

おもしれえじゃねえか
どんな勝負でも
勝負の名が
つく以上は
ルールってもんがあるからな
でうかがおう
じゃねえか
そのルールって
やつをよオ

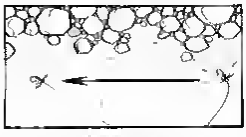
まず
対象魚は
ヤマメだ
とうぜんの
ことながら
釣った ひき数の
多いほうを
勝ちとする

ゲームは
四ラウンドとし
一ラウンド
三十分の制限時間を
もうけることにする
おもし
れえが
な なんでえ
その四ラウンド
っていうのは



毛バリ釣りはカゲロウなどの昆虫類が流れにおちて流されたり水面から飛びたとうとしたり卵を生むため水面をたたいているような状態に似せて毛バリをあやつるものだが大別して つぎの四つの釣りかたがある（もちろん地方により釣り人により名称はちがったろうがこの物語では こうよぶことにする）

流し釣り



基本的な釣りかたで毛バリをもっとも流にっちらこんだ下流に流す上流れのままに流す一水底のある釣りかた瀬てやるのが有効

ねらいうち

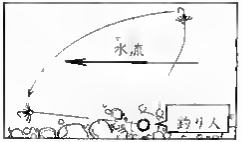
氷面をねらって毛バリを
うちおろし
さそいだす方法で
一回でかからないときは
二度　三度とたたく

チョンチョン釣り

氷面を毛バリでチョン
チョンとたたく釣りかた
トンボなどが卵を生む
姿をまねたものだ
→扇や石のうしろが有効

扇引き

上流の対岸にうちこみ
流れにのせながら扇状に
川をよこぎるように手前下流
にひいてくる→瀬で有効



なーんで
おらが
こーんな
ガキと
やらなきゃ
なんねえだ
アイロ〜

真吾くん
わたしは
きみのような
迫力のある
若者が
だいすきだ
だが ひとを
あなどるのは
よくない

この三平くん
はわたしの
かわりとして
自信をもって
おくる少年だ
手合わせして
みれば
すぐ わかる

もちろん
わたしは
約束どおり
相手になる

ただし
一ラウンド
だけだ

なるほど
ここさ くるまえに
山人さんは おらに
毛バリ釣りの
四つの釣りかたを
じっくり説明して
くれたが
はじめっから
おらと真吾さんを
対決させる
つもりだったんだな
どっちみち
エサ釣りでは
四つの釣りかた
をやってるから
毛バリでも
なんとか
なるべ…
おい
三平とか
いったな
ハア
よろしく
しかた
ねえな
おじいちゃん
ふたりとも
準備ができた
みたいよっ
よーし
それでは
第一ラウンドの
流し釣りから
開始とするか

やい神サマ
したくは
とっくに
できてるぜ
こんだガキが
相手で　気が
のらねえが
まあ　しようが
あるめえ
早いとこ
勝負を
おっぱじめ
ようぜ

ヤマメの豆知識

サケ科に属する渓流魚で
イワナやニジマス・アマゴ・ヒメマス
カワマス・サクラマスなどと
同族であるが　なかでも
サクラマスの「陸封型」と
いわれている

背に小さな黒点があり　背から
腹にかけて灰色の楕円形の
斑紋があり　体側には
朱色の帯線がある

「陸封型」とは…
一般に　サケやマスは　川で卵からかえった
幼魚が　海へ下って成魚となるが(海降性という)
さまざまな障害(たとえば地震によって川が
せきとめられたり　かんばつなどによって　水が流れ
なくなったり…)により　海へかえれなく
なった幼魚が　幼魚型のまま川にのこって成長したもの

釣り人たちには「渓流の女王」と
よばれるほど　愛される
うつくしい魚である

食性は川虫や昆虫類が
おもで　2年で約20㌢に
たっする

カ――ッ
さっそく
応援と
きたか!!

なかのいい
こったな
…まあ
いいや
ガキはガキ
どうしだ
からな…
だが
釣りのじゃまに
なるようだと
ゆるさねえぞ

ヤクナ
ヤクナ

ク～～ン

フーコ
じゃましては
いけないよ
フーコには
審判をやって
もらうから
ふたりの勝負が
よく見える
ところに
連れてってくれ
ええっ
あたいが!?

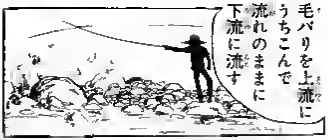
とくに釣りかた
に違反がないか
注意して見て
ほしい

キーかし
といて
パッチリ
とりしまる
わっ!!

おーい
ヤローども
準備は
いいなっ!!
ちょっとでも
違反したら
ただちに
失格とする
わよっ
そんだ
ことより
早いとこ
勝負だ 勝負!!
ケヘッ
ませたガキ
だ

第一ラウンド
がはじまる
な……
「流し釣り」
だったな
……

第1ラウンド　流し釣り

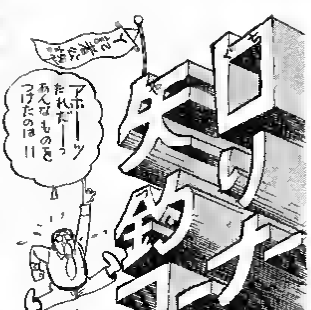

毛バリを上流に
うちこんで
流れのままに
下流に流す

とちゅう
ヤマメが
とびつく

その瞬間
かるく
あわせる

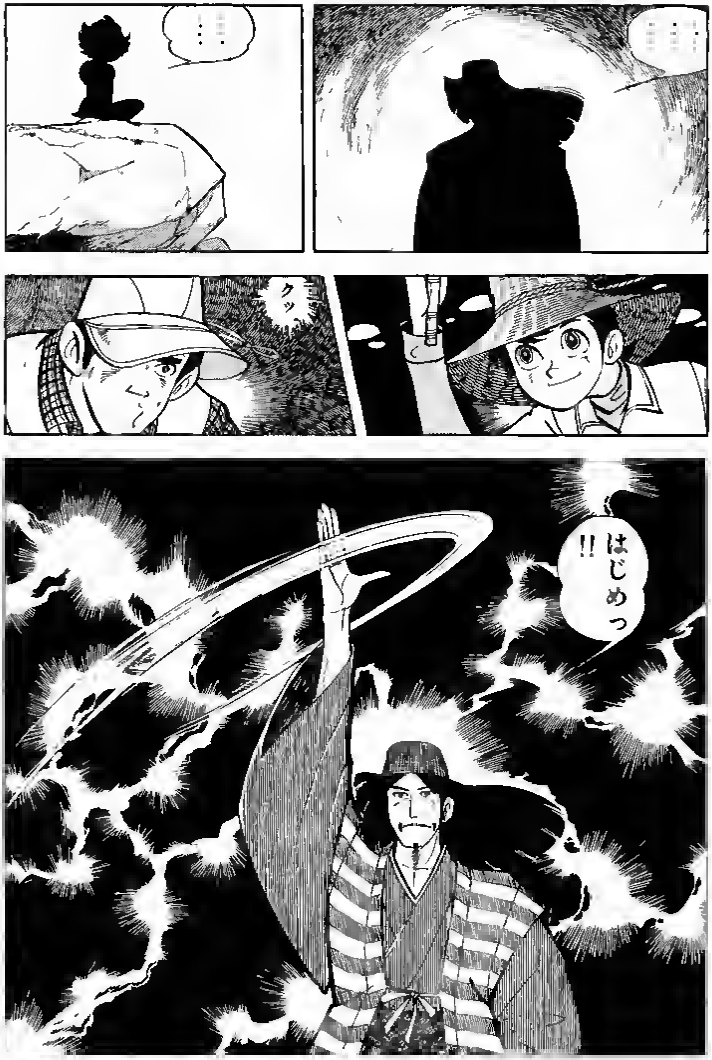
……とまあ
こんな手順で
やるわけだが
流れのままに
流すといっても
のんべんだらり
とやったって
ダメ!!
瞬わきや
おちこみの
流れだしや
石裏のたるみ
なんかのポイント
をねらってみよう

こうなって
くると「釣り
コーナー」が
ひつように
なるな
アパ
トーゼン



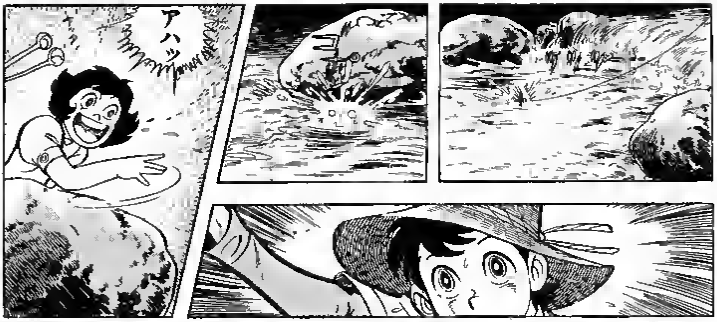
ここが ヤマメの 渓流各部の名称 ポイントだ!!

(ただし 季節により 一日の時間帯により 水温の高低により 釣れるポイント 釣れないポイントがあるのは どっぜんだ)

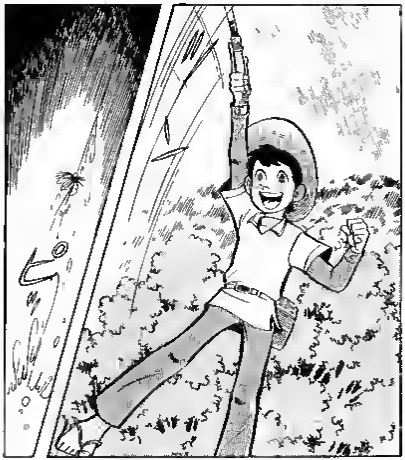

……
……
クッ
はじめっ!!

ン!?
あのガキ……
やるぞ
なかなか
たしか
三平とか
いったな

がんばれ三平にいちゃん
まあしょせんは子どもじゃねえかキャリアがちがうて……
フフフどっちが最初に釣るかな


アハッ

ガクン
ショボ


ピ

へヘッ
なんでえ
やっぱし
子どもじゃ
ねえか
あわせの
タイミングが
まるっきり
だな…

そう!!
それでいいぞ
三平くん…!
ヤマメが毛バリに
とびつくのは
一瞬の間だ
だから
あわせは
いくら早くても
早すぎて
失敗することは
まず ない
ぎゃくに
おそすぎて
ニセモノのエサで
あることを
さとられるより
ましだ

あーあ せっかく応援してあげてるのに 一回めはからあわせか
釣りおとした…… よりはいいけど…
へへへ……
こっちのねらいは まず あの落ちこみだ
クッ
きたなっ!!
クソオ
あのヤローに最初にきやがったか
ウヒョ〜〜〜ッ トトトー―オ

ケッ
ンッ!!
スー
カーッ
メダカクラス
じゃないか
まあ
一ぴき
釣ったことには
かわりねえ
けどよオ
ケヘッ わざと
大きな声を
出してる
ニックラシイ
ワ〜〜〜ン

おーお
かわゆい
ヤマメ
ちゃーん
愛しとる
よ〜ん

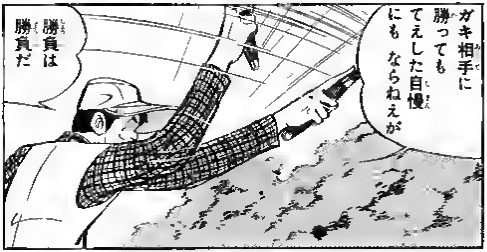
フフフ
あいかわらず
だね…
真吾くん
ク〜〜ッ
三平にいちゃん
しっかりして
よ——っ
クヤシイ
モウ…
おーっと
タイム!!

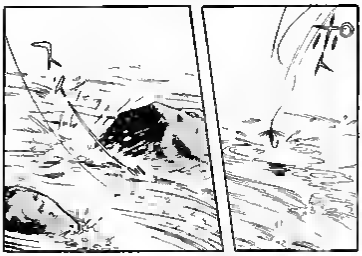
やい 審判!!
審判のくせして
かたいっぽうに
応援とは
いけねえな
だいたい
審判ちゅうもん
は 公平でなく
ては いかんぞ
だって…
三平にいちゃんが
……
……
フーコちゃん
心配ねえて
おらだって
そろそろ
くるころ
だべ…

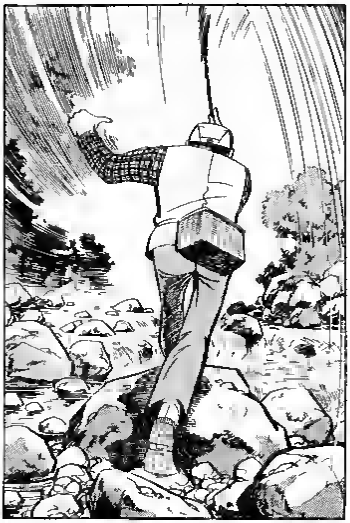
おっと
こんだことしてる場合でねえ
制限時間内であれば
なんびき釣っても
いいんだからな

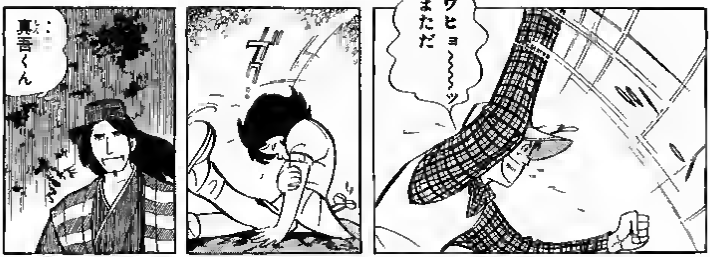
カーツ
でれでれするなてみっともねえ

グウの音もねえだけリードしてやるぞっ


ガキ相手に勝っても てえした自慢にも ならねえが
勝負は勝負だ






ウヒョ～～～ッ
まただ
真吾くん…

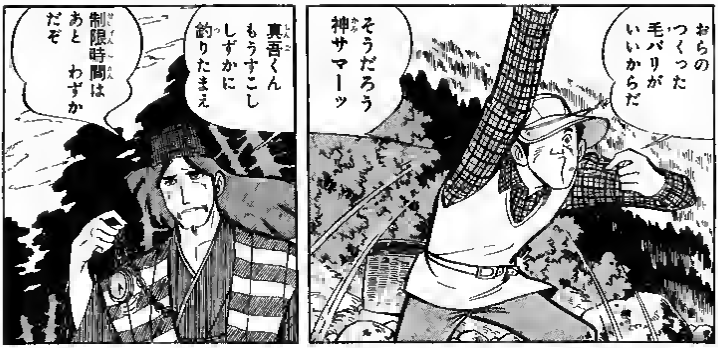
コケの一念岩をもとおすということわざがあるが…
きみの手製の毛バリもようやくヤマメが食いつくようになったな
まだまだ研究の余地は多くあるがその意気で精進することだな…
フフフフ

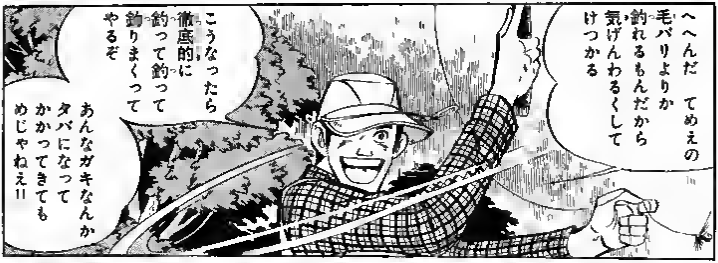
おい三平
思い知ったか
腕の差だ
腕の差!!

ケーッヘッヘッ
まーた一ぴきだぞっ
これで三びきめだーっ

毛バリだ
毛バリ!!

いやこの釣れぐあいは腕の差ばかりじゃねえ


おらの
つくった
毛バリが
いいからだ
そうだろう
神サマーッ
真吾くん
もうすこし
しずかに
釣りたまえ
制限時間は
あと　わずか
だぞ


へへんだ　てめえの
毛バリよりか
釣れるもんだから
気げんわるくして
けっかる
こうなったら
徹底的に
釣って釣って
釣りまくって
やるぞ
あんなガキなんか
タバになって
かかってきても
めじゃねえ!!

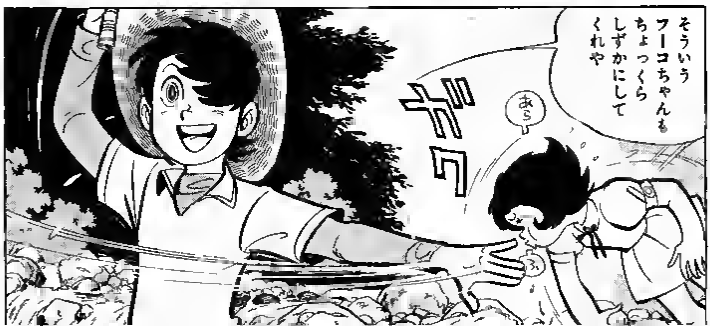
ク～～～ッ
見ちゃあ
いられないわ
三平にい
ちゃん
敵は　もう
三びきも
釣ってるのに
あ～～～ん
ムッ
ン!?

三平にいちゃーん
ついにきたのねっ
ガハハやっと初ものがきたけえ
まあなにはともあれめでてえこったな 三平くん
ン!?

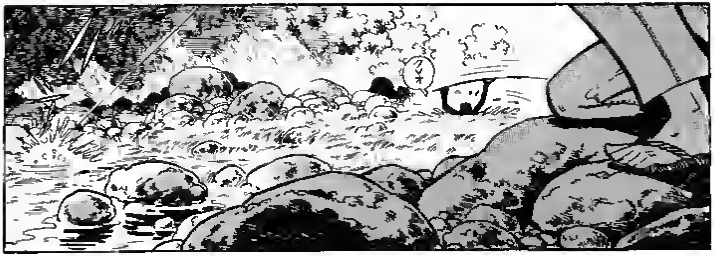
ウーム あのひきぐあいだとそうとうの大物にちがいない
・・・となるとあげるのが釣り師最大の腕の見せどころとなる・・・

どうするか三平くん
うまくあげられるかな・・・
三平にいちゃんずいぶん大物みたいだけれどだいじょうぶ

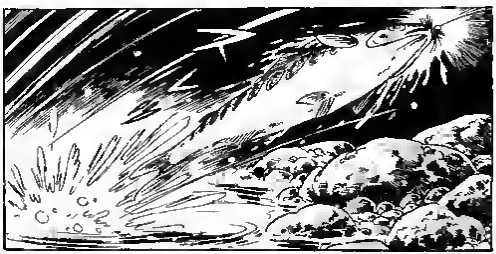
おーいオテンバ娘!!
ちょこっとでも手つだったらルール違反だぞーっ
うるへえ!!
あんちゃんはだまって釣ってればいいのよっ!!


そういうフーコちゃんもちょっくらしずかにしてくれや
ゴラ
あら!

ウーム
制限時間
ぎりぎりだ
……
おっ
竿のむきを
下流にかえて
みずから
くだりはじめた
ぞっ
なるほど
むりに
ひき
あげると
ハリスがきれる
心配があるから
なるべく
水の抵抗をさけるため
ヤマメを下流にやって
流れのおだやかな岸に
よせるつもりだな
……
あいつ
なかなか
やるな
ポチャ
あわっ

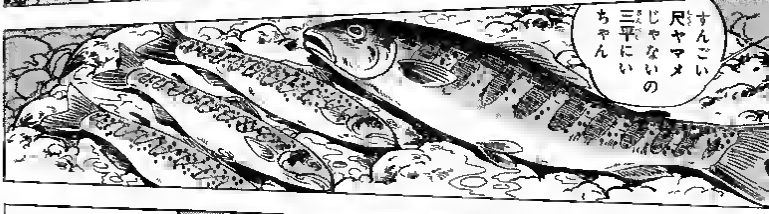


みごとだ!!
やはりなみの釣りキチではない…



タイムアップ
第一ラウンド
それまで!!

やったーっ


すんごい
尺ヤマメ
じゃないの
三平にい
ちゃん

カハーッ
あんちゃんが
釣ったのは
三びきあわせて
も 三平にいちゃ
んの 一ぴきに
かなわない
わね!!
クッ
フッ

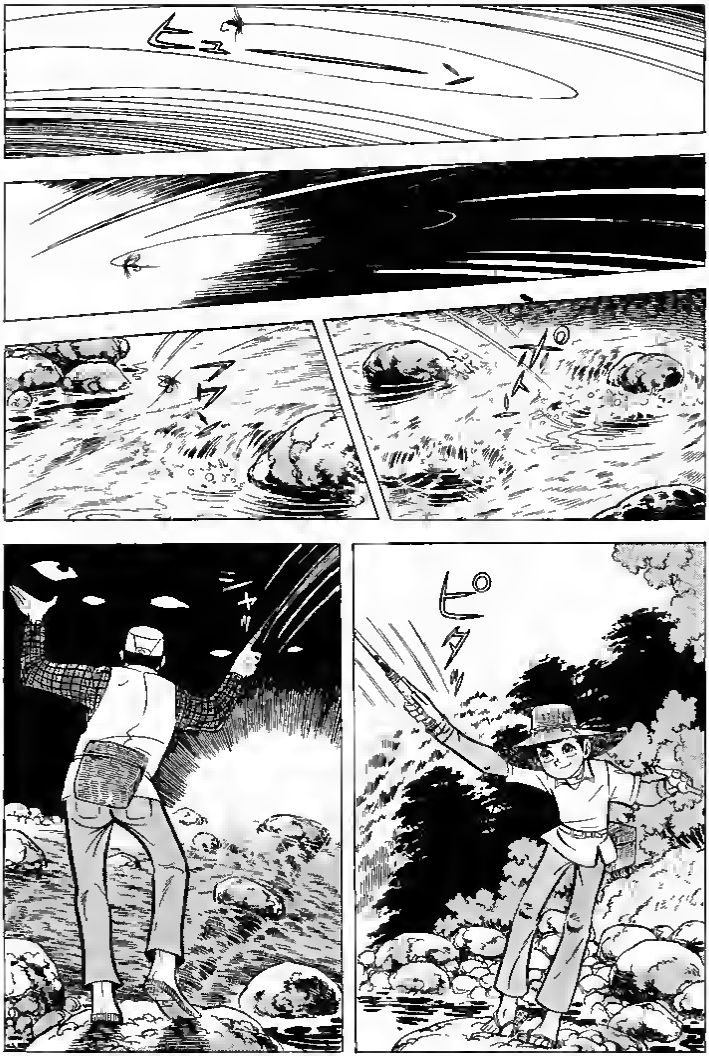
まぐれって
やつは
おっそろしい
もんだなや
んだども
この勝負は
ひき数で
あらそって
いるから
三対一で
勝ちだべ
おらが

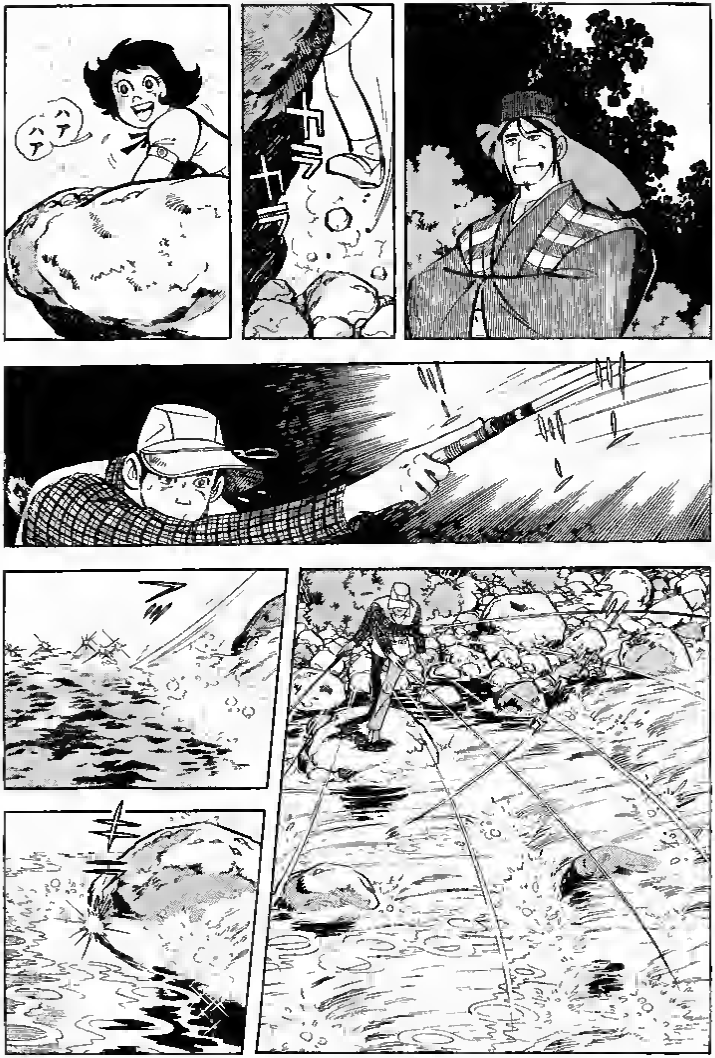
真吾
あんちゃん
ン!?
まだ勝ちとはきまってねえだ
たった一ラウンドおわったばかりでねえか
これからが勝負よ
おらいまの一ぴきでだいたいのコツをつかんだからこれからはバカスカ釣らせてもらうだ
さあもたもたしてねえで第二ラウンドの開始といくべ!!
こ このガキゃあ……
フフフ……

さあ 真吾 あんちゃん!!
そろそろ おっぱじめる べ……
クソオ なめた口を ききやがって
あとで ほえヅラ かくなよ

第2ラウンド　肩引き

毛ハリを もこう岸の上流に うちこんで 手前下流方向に 扇状に流れを横ぎる よっに 引いて釣る
この釣りかたは カゲロウなどの羽虫が 水面にあらて飛びたとう ともがきながら岸に寄る 姿をなぞらえた釣りかたが
つまり ここぞと思う ポイントをきめて やるのではなく 流れ全体を ポイント に見たてて さぐる 釣りかたということ に なるから……
あまり急流 ではなく サザ波のたつ ポイントに むいてるな

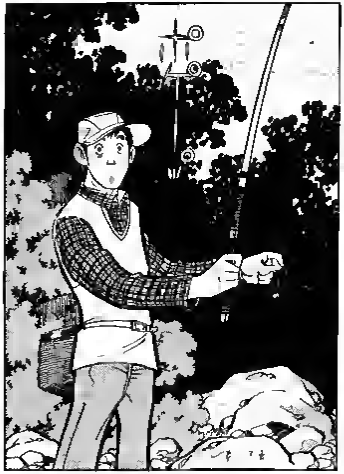

ヒュー
ドカ
アワー
シャッ
ピュン


ハア
ハア
ナラ
ナラ

ウヒョ
どんなもんでぇ!!
真吾(しんご)あんちゃんうてばくるくるヤマメちゃんとくらあ……
イッ
きょうはへんな日(ひ)ねぇあいつにばっかりくるなんて……
ホイッ

真吾
あんちゃんを
なめると
こういうことに
なるのさ
だいたい
おらに勝つ
なんてこと
じたい
ナンセンスだべ
アハ

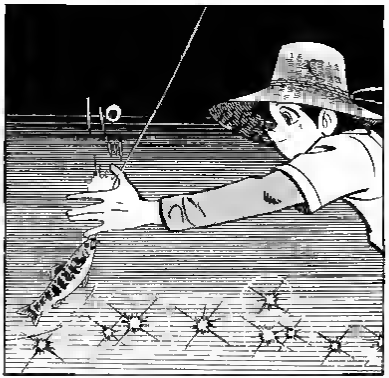
さん
三平
にいちゃん
ピュー
ピュー



ああ……
あぶ
あぶ
あぶ

おねがい
神サマ
はずれない
ように
あぶ

へへへ



そろそろ釣りキチ三平くんにエンジンがかかってきたな
クッ
こなまいきにすぐあとを追いかけてきたなっ!!
よーしうかうかしちゃあおれん
ほほうこんどは水にはいって釣る気か

いいポイントに
ハリを
うちこむため
水にはいることも
おそれない……
まさに 虎穴に
いらずんば
虎児を得ずの
たとえどおりだな
三平くん……
その気迫だ!!
その気迫が
釣り技を
上達させる
もっともたいせつ
なことだ
釣り人は
水を おそれず
あなどらず

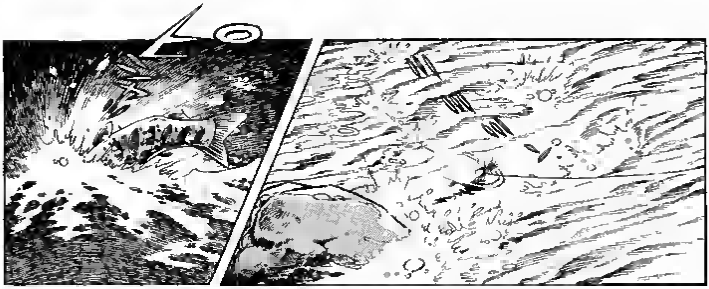
あれ
アハッ
やった
ウーム
いい目をしてるな三平くん
じつにいい目を してる……
ああいう目こそたくさんの釣りをして つちかわれた釣りキチの目というのだろう
矢口釣り
コーナー
書道三段 矢口高雄
名人筆
「あわせ」についていってみよう
「あわせ」とは竿の操作によってヤマメの口にハリをひっかけることだ
もし毛バリに食いついたのをそのままにしておくと……
てなことになる…
だから食いついたらニセモノと気づかれないうちにすばやく!!
おいしそうな虫だぞ
ケヘッ ニセモノか
ン!?
イテッ
これがあわせなのよ〜〜〜ん

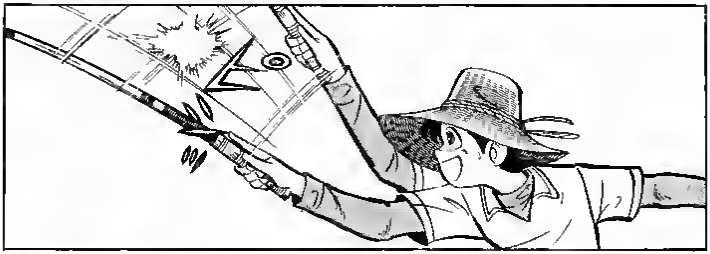
サザ波の間に間にただよう小さな毛バリを見うしなうことなく
しかもそのハリをめがけて電光石火のごとくしのびよるわずかの魚影さえ見のがさずハッシとあわせるタイミング……
あのあわせのタイミングはただたんに視力がいいだけではとれるものではない
釣りキチの目だけがとりうるタイミングだ

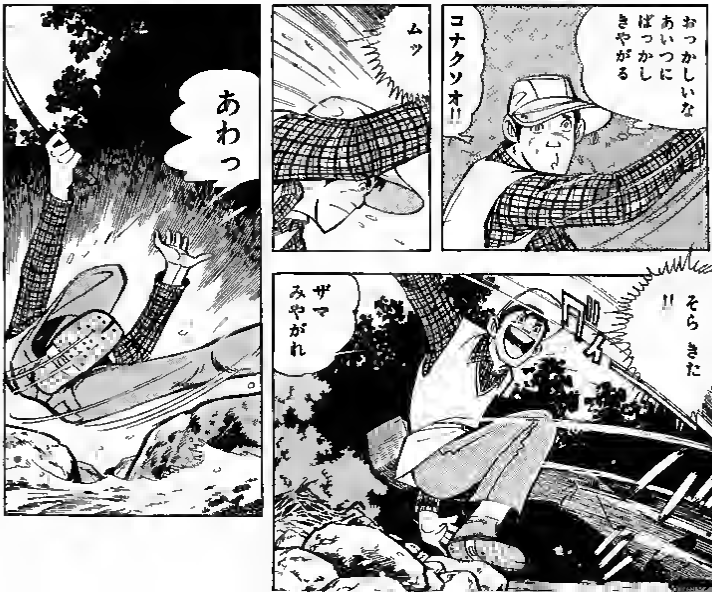
あわせのタイミング
しからばどのようなタイミングであわせるかというと
まずヤマメが毛バリに飛びつく動作はじつにすばやく
ほんの一瞬の間ということが多い
波や光線の関係で姿は見えないでいきなり飛びついて身をひるがえしたときなど…
毛バリが水におちたあたりにチラッと走る姿が見えたとき
瞬間的にピシッとあわせる
早すぎると愚うくらいがいい

ヒュクー
あわせの注意点
竿の振りは三十センチていど
すばやくかるくピシッとやること
ピシッとだぞピシッと
大あわせしたらロクなことにならん
近くにいる魚を散らせてしまう
いきおいあまってこんなバカもいる
ハリスがきれることもある
ようするにあわせのコツは毛バリから目をはなさないこと
これがボクの足が速くてカッコイーイ
ホーゼ大口魚ホよーん
バラヒョ

ヘヘン
クソオ
ポコ
ありゃりゃ
わあまた!!



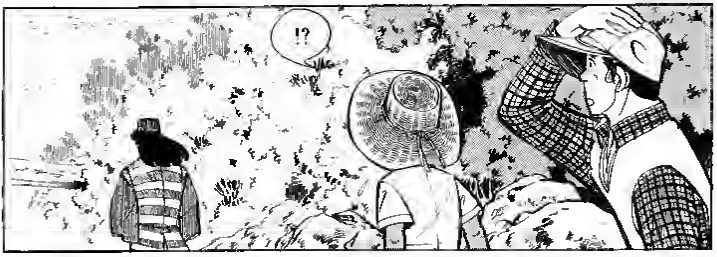



おっかしいな
あいつに
ばっかし
きやがる
コナクソオ!!
ムッ
あわっ
そら きた
!!
ザマ
みやがれ

ムギュッ
ぼく
ピュー
タイム アップ
第二ラウンド終了だ
ヤッホーッ
逆転だ
逆転だーっ
へへへ
バラさねえで
よかったな
クーーーッ
二ラウンド終了で
三平くんの
一ぴきリードと
なったわけだ
カーーッ
たった一ぴき
じゃねえか
そんなもん
かる――い
つぎの回で逆転
さ
負けおしみ
いってるわ
ムーッ

よし
つづいて
第三ラウンド
の開始だ
会長——っ
!!
あら
!?
ここにおられたんですか 会長…
ずいぶん おさがししました
さっきから
社長がきて
おまちして
おります
そうか
うっかり
してた
いま
すぐ いく
ふたりともすまないが
この勝負は
これで
うちきりだ
ええっ
!!
いってえ
なんのこっただ
会長だの
社長だのと

おじょうちゃまってください
ヒャッ、ーツ
ブンッ
ブンッ
そんなにかけてはあぶのうございます


!?

真吾あんちゃんこりゃあいってえどうなってるだ…
会長だの社長だのと…
おめえ知らねえのけえ

おじょうさんには
とっても
追いつけません
パパーッ
おみやげはーっ
フーコ

おお
フーコ
元気だったか!!
もちょ
この
とおり
それよりも
おみやげ
はやくーっ
ポン

はいはい
おじょう
ちゃま
ちゃーんと
買って
きましたよ
お人形
ちゃんを

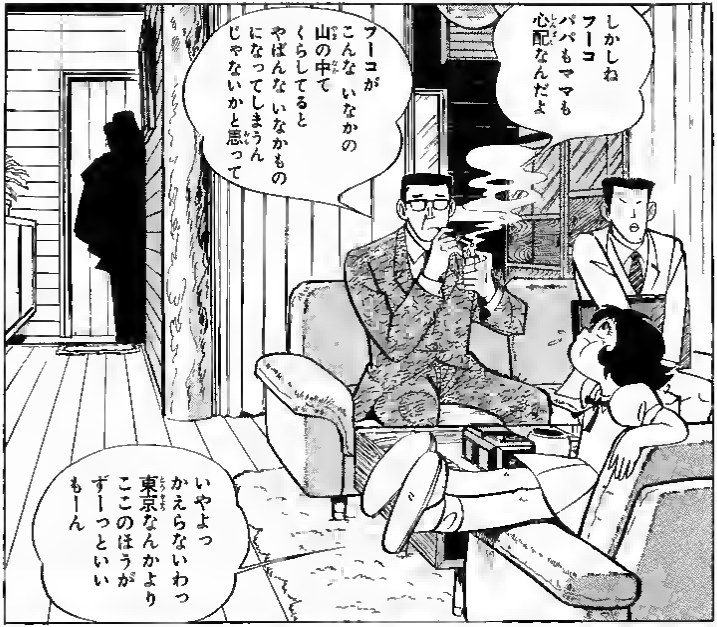
なーんだ
人形か
…
もうすこし
気のきいた
ものを買って
きたら
どうなの
サア

たとえば
釣り道具
なんか…
トホホ…
これなんですよ
いつも…
…これで
大きくなったら
すこしは女の子
らしくなるん
でしょうか
サア

このう
!!
親の気を
考えた
返事を
したらどうオ
ゴキ

フーコ
釣りも
いいけど
そろそろ
東京へ
かえらないか
ママが
とっても
心配して
いるんだよ

イヤッ!!
東京なんか
だいきらい
!!
カブト虫も
チョウもヘビも
トンボもいない
んだもーん
カブト虫は
デパートへ
いけば
売ってるよ
社長
子どもの夢を
こわす
ようなこと
いわないほうが
いいと思います
きみは すこし
だまってて
くれよ
テッ
ねえ フーコ
こーんな
山の中で
おじいちゃんと
くらしてて
なにがたのし
いんだ
さびしく
ないのか……!?
友だちなんか
ひとりもいない
だろう
ちーっとも
さびしくなんか
ないわ
ヤマメちゃんの
お友だちが
たーくさん
いるし……
それに……
それにねえ
パパ!!
あたいにね
とってもいい
おにいちゃんが
できたの
三平おにい
ちゃんってね
釣りをさせたら
てーんでうまい
おにいちゃん
なの……


しかしねフーコパパもママも心配なんだよ
フーコがこんないなかの山の中でくらしてるとやばんないなかものになってしまうんじゃないかと思って
いやよっかえらないわっ東京なんかよりここのほうがずーっといいもーん

どうしてここでくらすとやばんないなかものになるのかね
ふしぎだなー

おとうさん!!
か会長!!

いやがるものを
むりやり つれて
いくことも
あるまい
あいかわらず
きついな
おとうさん
フーコはね
わたしの娘
ですよ 親が
自分の娘の将来を
心配するのは
あたりまえでしょう
だから
いなかものに
したくないと
いうのかな
いったい
いなかものの
どこがわるいと
いうんだ!!
ゴミと騒音と
排気ガスの東京
なんかより
ここのほうが
よほどましだ
おとうさん
フーコは
わたしの
娘ですよ
わしに
とっても
かわいい
孫だ
ストップ

パパ あたいここがすきよ
おじいちゃんとヤマメ釣りしてるほうがすきよ
それにとってもいいおにいちゃんができたの
三平とかいう釣りキチのことか
フフフそうかフーコ
もういいあっちへいってなさい
やれやれおじいちゃんっ子もいいとこだ
さあではさっそくはじめてくれ
ハイッ

これが貸借対照表で…
こちらが経営分析のコピーです
ウーム

あいかわらず景気が低迷しているな
経常収支も悪化の一途をたどっているし預貸率も昨年同期に比して…

はあなにしろ金融状勢がわるいものでして
銀行には貸し出しワクをひろげるよう交渉しているところでしてハイ…

おとうさんこそ道楽はほどほどにして
この別荘もたたんで東京におかえりになったらどうです

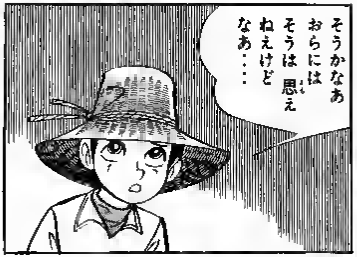
そういうときこそ社長のおまえがしっかりしないといかんな

へぇーっ
なっ!! つまりここは神サマの別荘で
ああやって毎月東京から社長と秘書が経営報告しにくるってわけだ
びっくりこいたなや
話がむずかしくってまるでチンプンカンプン
あったりめえだぺ…
毛鈎山人ちゅう人は東京で大会社を二つも三つも経営してる会長さんだぞ
会長ってなんだ
ウ〜〜ンなんちゅうか そのう…
ふつうの会社では社長がいちばんえれえことになっとるが その社長よりもえれえ人が会長っていうとこかな

あのメガネをかけたのがフーコちゃんのパパで
会社の社長さんかあ……
おめえあのフーコってオテンバ娘にすっかりほれられてしもうたな
そ そんな
まあいいじゃねえか
ガキはガキどおしつみのねえ話じゃねえか

そりゃあそうと 三平!!
おめえも 神サマに毛バリづくりをならいにきたそうだが
わりいことはいわねえそいつはよしたほうがいいぞ
なしてよオ

考えてもみろて……毛鉤山人ちゅう男は たしかに毛バリづくりの神サマとか名人とかいわれるぐれえ毛バリづくりはうめえ
しかしむかしからそういうやつに かぎってひとにはおしえねえもんだ
とくに かんじんのコツなんか 秘中の秘として ぜったいもらさねえ


そうかなあ
おらには
そうは 思え
ねえけど
なあ・・・

そういうのを
名人気質と
いってな
神サマってやつは
その古風な
名人気質ってやつ
に
こりかたまった
やつよオ

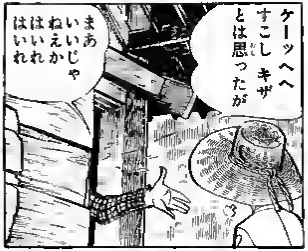
おめぇ やっぱし
ガキの
アマちゃん
だなや
世の中ちゅう
もんは そんな
アマイもんじゃ
ねえぜ

それよか
どうでえ
おらが
バッチリ
しこんで
やろうじゃ
ねえか
ええっ
ほんと
ですか

そうと
きまったら
ついてきな
おらは 神サマ
みてえな ケチな
男じゃねえぜ

おらが
もっぱら
毛バリ
づくりに
つかってる
小屋だ
毛鈎庵
毛鈎眞人
えんりょ
なく
はいってくれ

な なんすか
この毛鈎庵
毛鈎眞人
ちゅうのは
毛鈎庵は
この小屋の名まえ
毛鈎眞人は
毛バリ作者としての
おらの号だ
ぐぅ
毛鈎

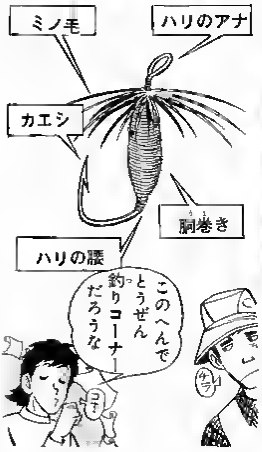

ケーッへへ
すこし キザ
とは思ったが
まあ
いいじゃ
ねえか
はいれ
はいれ

なーんか
山人さんの
マネしてる
みたいだ
なや

バカいえ
山人なんか
めじゃねえ
やがては
この真吾さまが
……いや
毛鉤真人が
毛バリの神サマに
なるのよオ
まあ
すわれ

だいたい
毛バリって
やつは
早い話が
ハリに毛糸や
鳥の羽根を
巻きつけて
カゲロウなんかに
似せたもんだと
思って まちがい
ねえ

こいつが
オーソドックス
タイプの
毛バリだ
各部の
よびかたも
バッチリ
おぼえろ


毛バリ各部の名称
ミノ毛
ハリのアナ
カエシ
胴巻き
ハリの腰
このへんで
とうぜん
釣りコーナーだろうな
コナ

準備する材料と道具

ハリ
ミっにアナがあいたものが べんりだ

ミノ毛用小羽根
ススメ ニワトリ キジなどの小羽根 毛バリが波間にただよっとき見えやすい色の羽根がよい

ミシン用絹糸
色は黒でよい

ピンセット

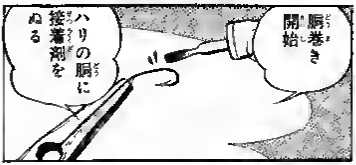
胴巻き用毛糸
クリーム 灰茶 黄 灰緑などの中細毛糸でOK

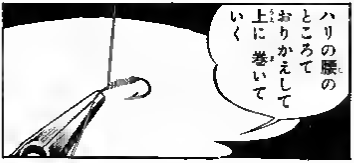
ヤットコ
ハリをはさもとき つかう

接着剤
わねえちゃんのツメにつける マニキュアでよい

ハサミ

巻きかたの手順





ミシン用絹糸で毛糸のはしをむすんでとめる
白と茶白と黒などのまだらもようの羽根がいい
スズメやニワトリのブリマスロックなんかの胸毛はグーだ
こんな形にきりすてる
この部分がミノ毛となる
およそ一センチていど
なるほどこりゃあおもしれえや…
…とまあこれで胴巻きは完了だが
つぎがたいせつなミノ毛をつける作業だ
絹糸の軸の中にとおす
巻きかたはほかにもいろいろとあるのでこれは一例であることをことわっておく
わかったべ
クーーーッ
しっかりむすぶ
不用部分をきりおとし糸のむすびめを接着剤でかためて…
できあがりだ!!
巻く

真吾
あんちゃん
こんなもんで
どうだべ
自分と
しては
うまく
巻けたと思うが
DAIWA
おめえ
器用だな
おどろいた
ぜ
はなっから
こんただ
うまく巻ける
やつはいねえ
やっぱし
神サマが
いってた
ように
それほど
でも
おめえは
こと釣りに
かけては
天才かも
しれねえな
ヘヘヘヘ
テレルナヤ
ムッ
ええっ
おい
三平
おめえも
神サマに
挑戦してみる
気はねぇか

おらたちの勝負はまだ二ラウンドをのこしている
この二ラウンドを自分の巻いた毛バリで神サマに挑戦するのよ
おめえのあの腕なら神サマをギャフンといわせることができるかもしれねえぞ
そいつあおもしれえなあ真吾あんちゃん

うんなかなかおもしろいぞ…その挑戦をうけようじゃないか
あっ山人さん
ただしその前に見せておきたいものがある
きたまえ

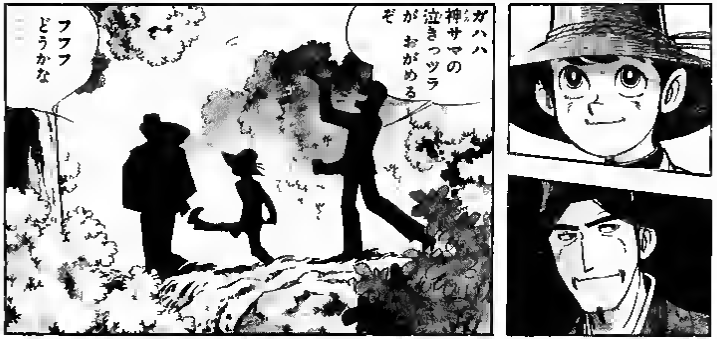
おおい
神サマ
きたまえ
なんちゅうて
いってえ
どこさ つれて
いく気だ

わたしの
家だ

そ そんで
見せてえ
ものってのは
いってえ
なんでえ
くれば
わかる
フフフ…

そんじゃあなんかわからんがそいつを見おわれば
のこりの三四ラウンドの勝負をするってわけだな
もちろんだ…

ウヒョ～～～ッ三平くん聞いたかやいよいよ神サマとサシで勝負ができるぞ――っ
真吾あんちゃんの毛バリが勝つか無残にも神サマの毛バリが敗れるか世紀の一瞬が近づきつつあるなあ


ガハハ神サマの泣きっツラがおがめるぞ
フフフどうかな

山人さん

山人さんは
東京で大会社を
いくつも
もってる
会長さん
だってな
どうして
それを
知ってる

わりいと
思ったども
さっき
のぞき見
しちゃった

すみません ひとの家をかってにのぞいたりして……
いいんだよ 三平くん のぞかれるのは なれてる・・
そうだね 真吾くん
ハア なんのことだべ
きみは しょっちゅう わたしの毛バリづくりの部屋を のぞきにきてたんじゃなかったかな
ク〜〜〜ッ 知ってたのけえ
ヤバイ
ハハハハ わたしの目は フシアナではない
きみが わたしの毛バリのつくりかたを 必死になって ぬすんで 研究していたことぐらい 知ってたさ
いいじゃねえか ケチケチすんねえ!!
金とヒマのある 大会社の会長さんが あそびはんぶんに やってる毛バリづくりでねえか
3-1

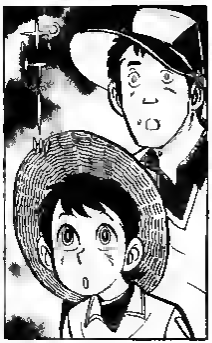
真吾
あんちゃん
なんぼなんでも
そりゃあ いいすぎ
だべ…
うる
へえ
!!
あうっ
おらあ
きょうは
いわして
もらうぜ
ククッ
やい
神サマ!!
おらあ
なして この
丸木橋 くれば
こんだ
ぐええになるべ
おらが頭をさげて
毛バリのつくりかたを
おしえてくれって
たのみにいったとき
すなおに おしえて
くれれば
なにも
のぞき見
なんかする
ひつようは
なかっただ

それが
なんでえ
神サマだか
名人だか
知らねえがよう
みょうに
カッコつけ
やがって
よオ
ヒロフ
わたしは
ちょっくら
ちょいと
つくれるよう
な毛バリは
つくった
ことも
ないし
つくりかた
も
知らない
なーんつっ
ちゃって
さあ
オラモ
ヒトマネガ
ウマイナ
あっ
むかしから
よくいった
もんだぜ
名人は
秘中の秘は
ぜったい
ひとには
おしえねえ
もんだって
なあ…
おい三平!!
金持ちの
道楽って
やつは
このていどの
もんよ
真吉
あんちゃん
おちついて
くれよ
自分さえ
たのしめ
りゃあ
他人なんか
関係ねえって
わけさ

三平くん
真吾くんは
もう おちつ
いているよ
いうことだけ
いえば 気分が
すっきりする
単純な男だ
そろそろ
いこうか

た
単純だ
とオ
このオ
ギー
クッ

わたしが
道楽の
ヒマつぶしに
毛バリを
つくっている
かどうか
見せて
やる・・・
・・・



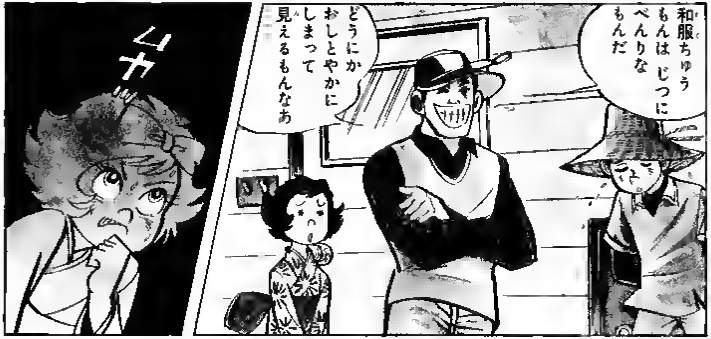
さあ
どうぞ

おかえん
なさい
三平にい
ちゃん

あ
あれ

ガハハハ
三平
こいつあ
ケッサク
だなや
見ろて
馬子にも
衣装とは
よくいった
もんだ

どう見たって
これが 手の
つけられねえ
オテンバ娘とは
思えねえ
ふーん


和服ちゅう
もんは じつに
べんりな
もんだ
どうにか
おしとやかに
しまって
見えるもんなあ
ムカ

ギグッ
おいきみたち なにしてるんだ 早くこっちへきなさい
きあ 三平 にいちゃん 早くいきましょう
ハア でも でも
おっかしいなあ……たしか いまおらの頭のうしろでチラッとうごいたもんがあったみてえだが……
どうなってるだ こりゃあ パピプペポ……
あたい 三平 にいちゃんがくるのをズーッとまってたのよ

カーツ
さーすが 東京の
大金持ちの別荘
だけのことは
あるわい
すべて これ
デラックスと
きとるなや

ほほう
タバコなんか
あるじゃ
ねえか
洋モクだな
一本 失敬
するか
ンーン
いいにおい
だ……
ホ!?

クッ
コメ〜アバセ
なーんかしらねえともいかいとセッキョクテキなんだ〜〜っ
いきましょう三平にいちゃん
クソオやい三平おめえばっかしよばれたんじゃねえぞ
イチャイチャしやがってもう!!
このガキ手をはなせ
はなしてくれねえだ
さあどうぞこちらです

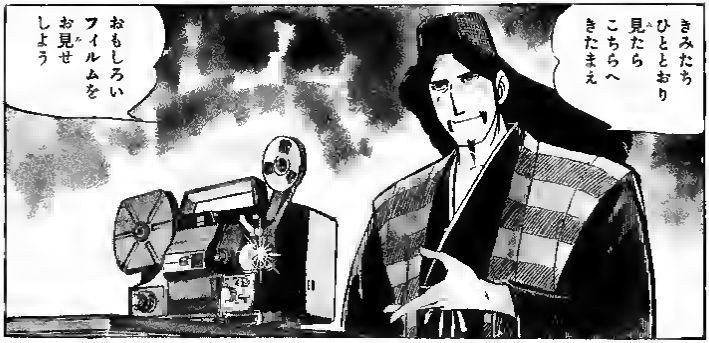
おおい 神サマ
こりゃあ
どうなってるだ
こんだ
地下室さ なんか
つれてって
おらたちを
どうしようと
いうだ!!
三平にいちゃん
足もとに
気をつけて
ね……
ハハイ
フフフ
真吾くん
いつもは 元気が
いいが かんじんの
ときには あんがい
勇気が ないんだ
ね……

ケヘッ
勇気がない
だとオ
わらわせるなて
鬼が出ようが
蛇が出ようが
びくともせんのが
真吾あんちゃん
よオ

さあ
どうぞ

ああっ
うっ
ここれは
わたしの
毛バリ研究所と
でもいうべき
ところかな
なんだ
こりゃあ
まわりが
水槽だらけだ
まるで
水族館
みてえじゃ
ねえか
ヤマメの
稚魚から
成魚まで
……いや
ヤマメばかり
ではない
イワナ ウグイ
オイカワなど
毛バリ釣りの可能な
魚は ほとんどいる

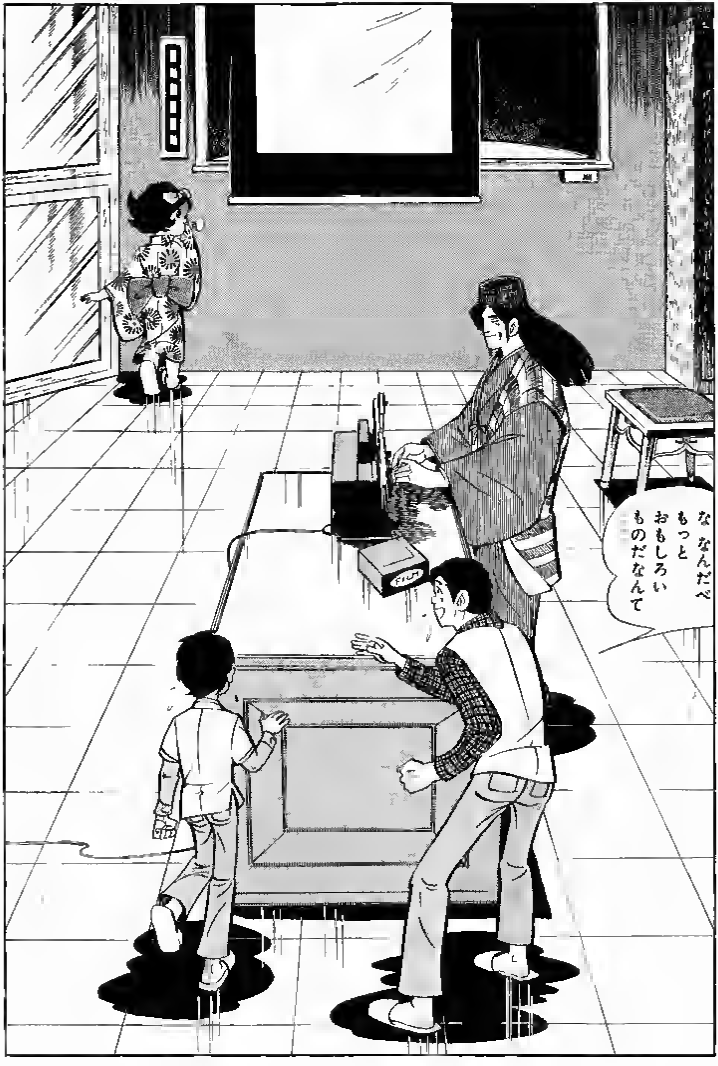
おい 神サマ
びっくら
こいたなあ
フフフ……
まったくだ
こんだ
秘密の地下
研究室を
もってただ
なんて……

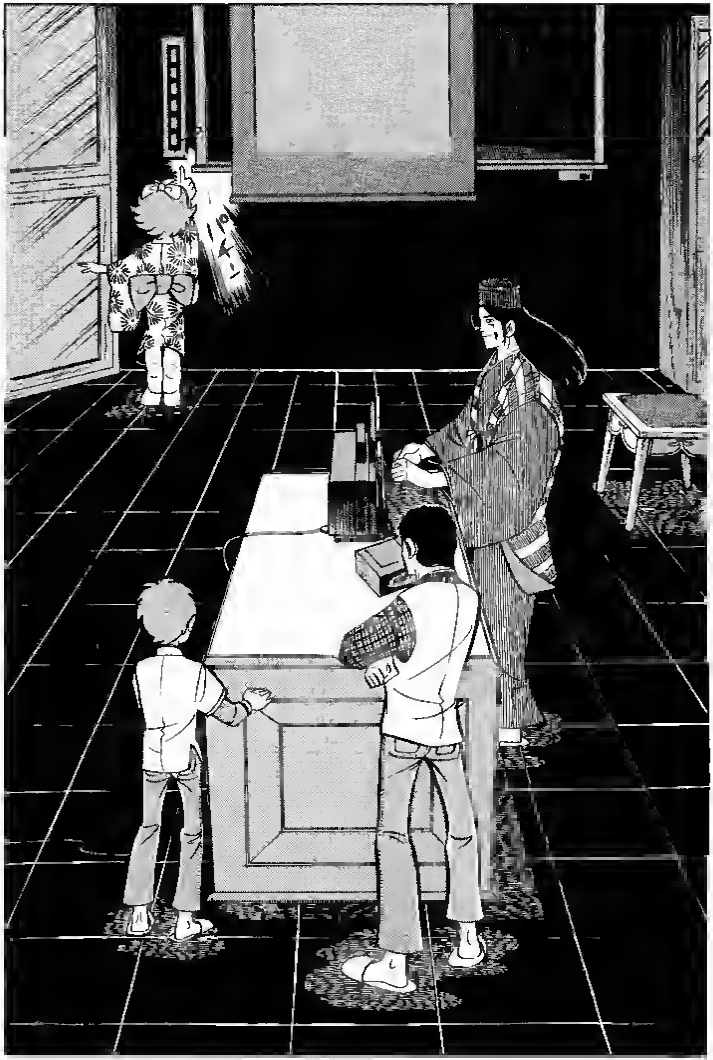

きみたち
ひととおり
見たら
こちらへ
きたまえ
おもしろい
フィルムを
お見せ
しよう

8ミリの映写機でねえか
マンガ映画でも見せてくれるのけえ!!

真吾あんちゃんこーんただりっぱな研究室の中でマンガ映画はねえべ
それもそうだな
このオテンバちゃんが赤ちゃんのときのフリチンスタイルを見せようっていうんだろう
ケケケケ
わかった!!

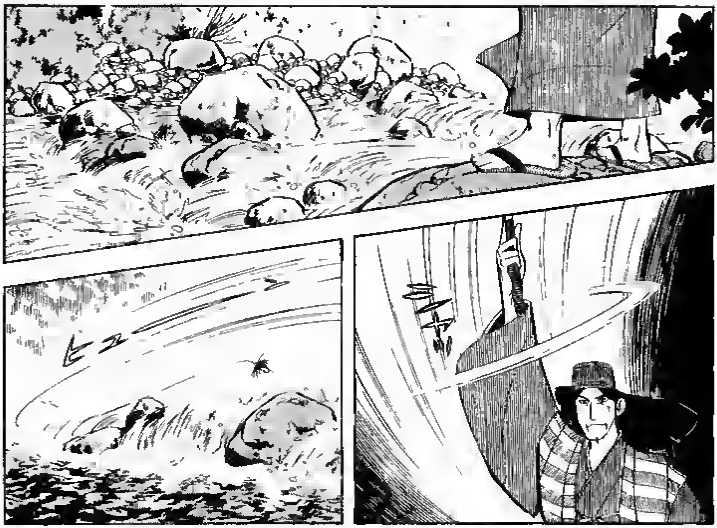
なっ
なっ
そうだべ
神サマ
生まれたての
赤ちゃんから
いかにして
今日のオテンバに
成長したのか
その ナマナマしい
生活記録って
やつよオ
なんぼなんでも
女の子のフリチンって
聞いたことねえな
ガクッ
な
そうに
きまって
るて……
真吾くん
あいかわらず
かってな
想像をする
な フフフ
ギッ
そん!!
ざんねん
ながら
そのたぐいの
フィルムでは
ない
もっと
もっと
おもしろい
ものだ
さっそく
映写に
とりかかる
フーコ
部屋を
くらくして
くれ

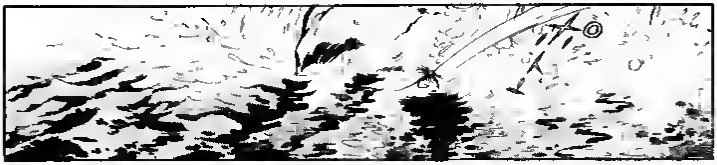

な なんだべ
もっと
おもしろい
ものだなんて


ハイ～ン

カチ
このフイルムはヤマメがどんな形態で毛バリにとびつくか その瞬間のいくつかを撮影したものだ
ことわっておくがこのフイルムは水槽の中での実験ではない
自然の流れの中に特殊カメラをすえて苦心のすえ撮影したものだ

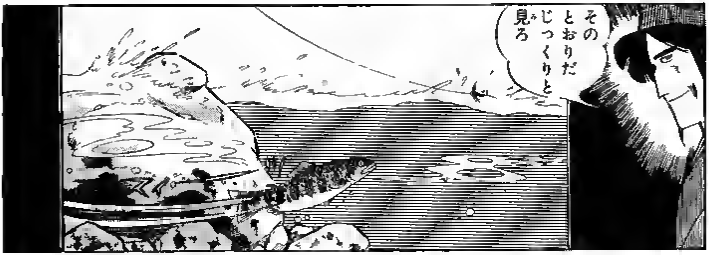
ヤマメが毛バリにとびつく瞬間!?
ほほんとかや!?
いちいちうるさいわね!!
すこししずかにしたらどうオッ
クッ
あっ山人さんだ
釣り人はもちろんわたしだ

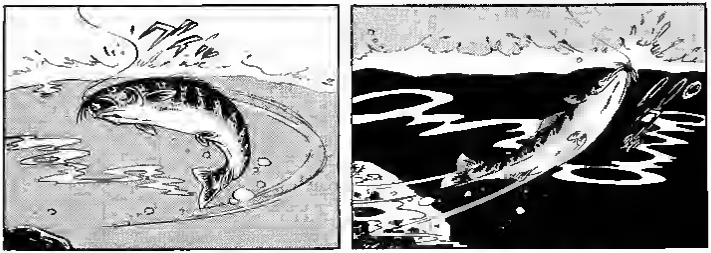

ヒュ

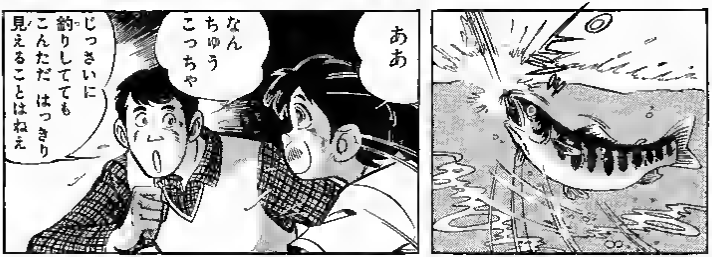


あっ水面と水底が同時に見える
カメラを水面スレスレにセットした特殊な撮影方法だ

ヤマメだ
ヤマメが
あらわれ
たぞっ
ウムッ
まさに
ヤマメだ
そんで
うちこまれた
毛バリを
追ってる!?

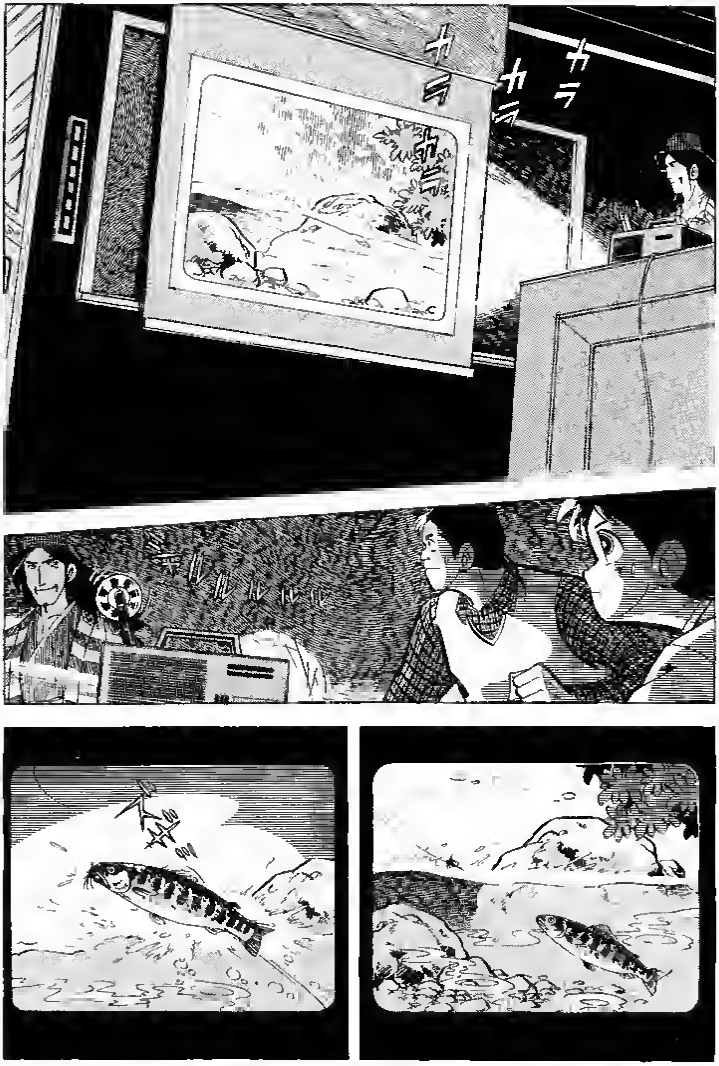

その
とおり
じっくりと
見ろ

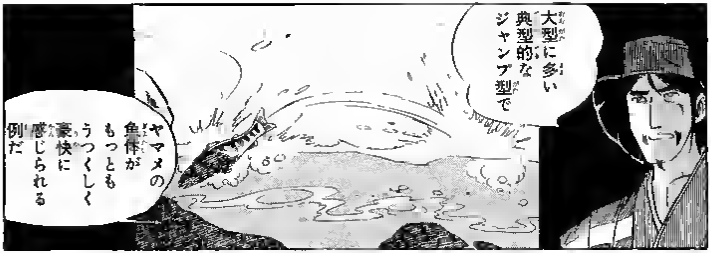



ああ
なん
ちゅう
こっちゃ
じっさいに
釣りしてても
こんだ はっきり
見えることはねえ

これが もっとも 一般的な とびつきかただ
流れていく 毛バリを 追い 食いついたら 反転して 上流にもどる
追跡反転型!!
追跡反転型 !!
びっくら こいたなや
おらもだ 毛バリさ 食いつく瞬間を こんだに はっきり 見ることが できるなんて
つぎが いまのとおなじ パターンだが 反転するとき 水面にジャンプ する例だ
名づけて 反転ジャンプ型
スッ
ンッ!!

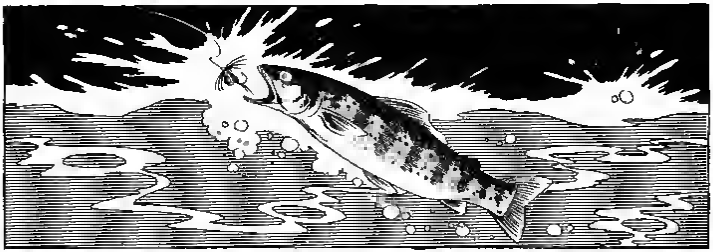
いまの例は
しぶきが あがる
と 同時に 魚体が
見えるという
ことになるから
じっさいに
釣りをしてても
よく体験する
ことがあるし
この場合の
ヤマメは小型の
ことが多い
つぎのは
ケッサクだ
あれ
反転しねえで
そのまま
水ン中さ
おちたで
ねえか
カーッ
へったくそな
ヤマメも
いるんだなあ
こんども
反転しない
例だ
そのとおりだ
まだ エサをとる
のに なれてない
おさないヤマメ
だろう とくに
小型のヤマメに
多い型だからね
垂直ジャンプ
落下型とでも
いえよう

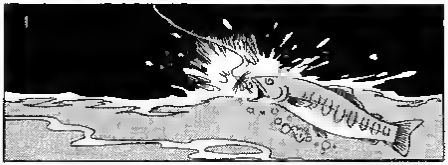

カラ
カラ
カラ


大型に多い
典型的な
ジャンプ型で
ヤマメの
魚体が
もっとも
うつくしく
豪快に
感じられる
例だ

フィルムを
もどして
いまのシーン
を分解写真風
に再現して
見せよう
ムー
上流から
流れてくる
モバリを
発見した
ヤマメが
……

追ってる
ね……
ハイ
食いつく
瞬間!!
REV
F
ST
SL
NOR





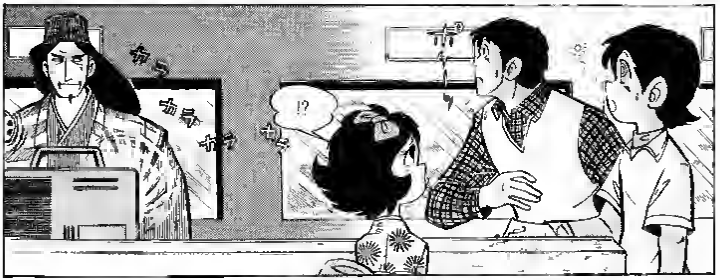
いま まさに とびつかん!!…というところだがじっさいのところこの時点ですでに毛バリをくわえたと考えてよいしたがってここがあわせのチャンスといえるだろう

フィルムをほんのすこしだけすすめてみる!!空中にかんぜんに姿をあらわしているがまだハリをくわえているからタイミングのおくれた場合ここであわせをくれてもかかるだろう

見たまえ!!ジャンプから水中へはいるところだが①～③までのわずかの間にもう毛バリをはきだしているここであわせても釣れるわけがないことはだれの目にもはっきりわかるだろう

ヤマメが モバリに とびつく瞬間は かならずジャンプ するとは かぎらない
しかし マス族の習性 としては エサをくわえると ほとんどの場合 反転すると いっても 過言 ではない
大石のかげ などから ユラリと あらわれる 大型の 場合
ゆっくりと 鼻先から 姿を あらわし
くわえたら 水中に消える 大型ヤマメの のんびり反転型
底のすくない 深いポイントでは 一メートル以上も 先から一直線に 接近するのが 見えることも ある…
これは その例だ

あんちゃんたち
どうしたのさっき
は あんなに
うるさかったのに
すっかり
だまり
こくって
さあ


ガラ
ガラ
ガラ
ガラ
ガラ
!?

フフフ

これがじっさいの川でよく体験する毛バリたたき型だ……
あれじゃあ あわせようがねえな
ん…… 処置なしだ……
あっ 食いつきもしねえで
いきなりシッポで毛バリをたたいた

山人さん
いまのヤマメは
どうして
あんただこと
したんだべ
食いもしねえで
シッポでたたいて
それっきりで
消えてしまう
なんて・・・
ウム・・
わたしも
この怪現象を
解明すべく
考察してきたが
いまだに 結論を
みちびきだすことが
できないでいる
そりゃあ
かんたんなこと
でねえか
毛バリの正体を
見やぶって
おもしろはんぶん
に からかった
までよオ・・・・
おらは
ちがうと
思うな
ヤマメには
ひょっとしたら
とんでる虫を
たたきおとして
食べる習性が
あるんでねえべ
かなあ ・
なるほど
これは
だいたんな
推理だ
今日まで わたしが
日夜考えつづけて
きた大疑問点も
そう考えると
解明の糸口になる
かもしれない
フフフ
三平くん
きみは たいした
釣りキチだ
もし この推理が
真実ならば
・・・
いま 研究中の
毛バリは 完成
したも どうぜんだ

三平
おめえの意見は
ちょっくら
考えすぎだべ
ヤマメが
毛バリを
たたくのは
毛バリの正体が
ニセエサだって
ことを
見やぶって
おもしろはんぶんに
からかったのに
きまってるて

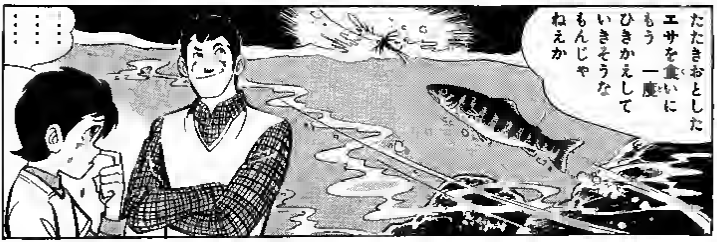
そ…そんな
おもしろ
はんぶんに
からかってるだ
なんて…
そんじゃあ
ヤマメは まるで
人間のような考えを
もって およいでる
みてえでねえか

魚でも動物でも
人間が かってに
りくつをつけて
解釈するのは
いけねえと
思うな
こ…こりゃう

やっぱし ヤマメが
毛バリをたたく
ちゅうのは
元気よく
とんでてなかなか
おちない羽虫を
たたきおとして
食べるため
やるんだと思うが
なあ…
オホッ
てめえ
小りくつを
こねる気
けえ!!

せっかく
たたきおとした
エサに 見むきも
しねえで
消えちまった
のは どう説明
つけると
いうんだい

そんじゃあ
おめえの理論が
かりに正しい
として……


たたきおとした
エサを食いに
もう一度
ひきかえして
いきそうな
もんじゃ
ねえか
……
……

ふたりとも
なかなか
興味ある
議論だが
……
いっそのこと
もう一度
いまの
毛バリたたきの
シーンを
再現してみよう
じゃないか……

そ
そうだ
それがいい
おう!!
おもしれえや
三平とおらの
議論を
解決するにゃ
それが
いちばんだ

ハイ
毛バリが
うちこまれ
ました
ここで
ストップ
してみよう
そそそ

この画面で
注意せねば
ならない点は
水面上 およそ
三十センチの
空中を とんで
いるにも
かかわらず
水中のヤマメは
すでに 毛バリに
気づいて
行動を開始して
いるということだ

ほ
ほんとだ

そら
みれ!!
あれだけ
早くから
発見してる
ちゅうことが
毛バリの正体を
見やぶれる
証拠だべ

うんにゃ
そうじゃねえ
あれこそ
毛バリを
空中をとんでる
羽虫と思って
たたきおとすため
行動開始をした
のかもしれねえだ

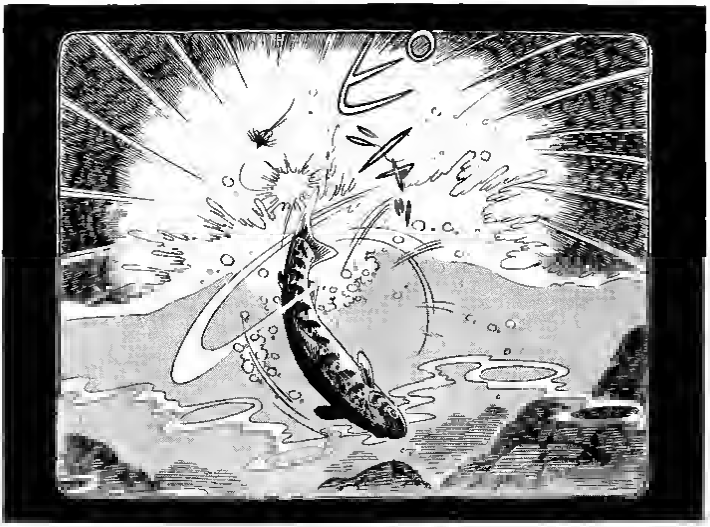
カラ
カラ
カラ

まったく
ふたつの意見
がぶつかった
ね
フィルムを
すすめて
みよう

ストップ
さあ この画面は どうかな
ヤマメは どうやら 反転しようとして からだを くねらせ ているね…
ほれっ 三平!! これで はっきり してるで ねえか
毛バリさ 近づいて はっきりと正体を 見やぶった結果 もう 食い気をなくしてる

つまり
こいつあ
なあ
こんちく
しょう
このニセモノ
めっ!!
だれが
てめえなんかさ
ひっかかる
もんけえ!!
あさってさ
とんで
け――っ!!
ビュ――ッ
てなことに
なるわけ
さあ!!
そう
かなあ
子どものくせして
みような小りくっ
こねて この
真吾あんちゃんさ
たてつくから
そんただことに
なるだ
へたな考え
やすむに
似たりさ……
おい
どうしただ
とたんに
しょぼんと
しちゃって
よオ

いや ちちがう!!
画面では手前の波のためはっきりしてねえが
この時点では毛バリはまだ水面さついてねえだ!!
うむ よく見ると そのようにも見えるな
それがどうしたというんだ
ということはあのヤマメはまだ空中にある毛バリを羽虫と思いこんで
たたきおとす体勢にはいったところにちげえねえだ
なるほど わたしもいつのまにか三平くんにおそわっているな
クソオ 口のへらねぇやつだな
まあまあ仲間割れはよせ
つぎにいってみよう



山人さん いまのシーンをもう一度やってみてください

なっ 毛バリなんかさ 見むきもしねえで 消えてまってるべ!!
おめえのいうように食うためにおとしたんだったらこのあとすぐにもひきかえしそうなもんじゃねえか
ムギュッ

なんどやっても おなじさ
あれだ!!
ヤマメにたたかれた瞬間(しゅんかん)毛バリはすばやくひきあげられている!!
!?
これはきっとたたかれてあがった水しぶきをヤマメが出(だ)したと思(おも)いこんであわせにかかったということだ
結果(けっか)はおそらくカラあわせにおわったはずだ
なるほど

んだから
せっかく
たたきおとした
はずの羽虫が
とびさって
しまったと
思って
ひきかえさな
かったんで
ねえべか
カタ
カタ

あれ
フィルム
おわり
けえ
カラ
カラ
カラ
残念ながら
このシーンは
ここまでで
きれてる

しかし
おどろいたね
三平くん
三平くんにいわれて
思い出したが
このシーンを
とったとき
たしかに
わたしは・・・
ええっ
!!

シッポでたたかれた飛沫を見ててっきりヤマメが出たと思いこみとっさにあわせをくれた
だが結果は三平くんに見ぬかれたとおりみごとカラぶりだった
カメラにウソはつけないものだなハハハ
んだからといっておめえの推論がうらづけられたことにはなるめえ
いやつぎの巻にもっとおもしろいものがある

これも毛バリたたき型だが……
フワー
ビシュッ
スイーン
ああっ

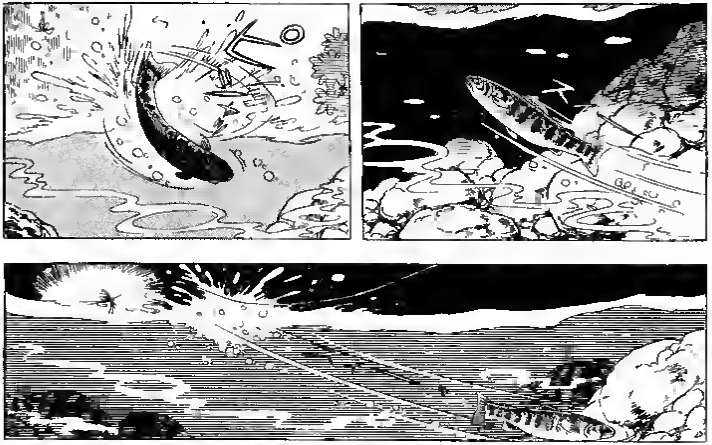
スレだっ!!
シッポさひっかかってるだ!!

おもしろいフィルムだろう
ガハハハ

たたかれてカラあわせになるところまったくのぐうぜんにスレでかかった側だ
毛バリでもこんただことあるんだなあ

さて問題のシーンにはいるが
おなじたたき型だがこんどはあわせないでそのまま毛バリをながしてみたが……

ワァー



ン!!
オッ
ああのヤマメが
もどった…
ああっ!!

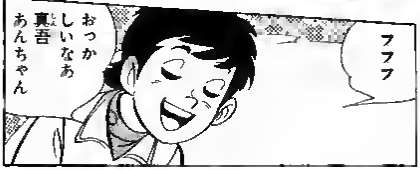
山人さん
やっぱし
そ
そんな
ばかな
ハギン
わたしは
きょうまで
このフィルムを
どう解釈したら
いいものか
まよっていた
げんに
真吾くんと
おなじように
毛バリたたきは
毛バリの正体が
見やぶられたときに
おこる現象では
なかろうかと考え
つづけてきた
だが
このフィルムは
三平くんの推論を
うらづける
重大な手がかりに
なることは
まちがいない
だろう

しかしよオ 人間がかってにりくつをつけて解釈するのはいけねえと思うぞ
しょせん人間は魚の気持ちにゃなれっこねえことだし
それおらがいったことでねえか
カラカラ
ケケケ
もちろん わたしは毛バリづくりのためにこんなことをやってるが
専門の学者ではないからはっきりしたことはわからない
しかし三平くんのだいたんな推論によっていま試作中の新毛バリにふかい自信をえたことはたしかだ
新毛バリだって
そんなもんつくってるのけえ
他人にあかすのははじめてだがお見せしよう
きたまえ

びっくらこいたなや三平!!
おらあよオたしかに神サマの毛バリづくりの腕はみとめてたよ…

んだども まさか これほどまでに 科学的だったとは…
まいったなあ もう

トンカチで脳天をかちわられた気分てえのはまさにこんただことをいうんだべなあ…


フフフ
おっかしいなあ真吾あんちゃん

なにがよオ
フフ 山人さんのことを……古風な名人気質に こりかたまった人で……
秘中の秘はぜったいひとにはおしえねえ人だといったのはだーれだっけ
クッ
しょせん金持ちの道楽ものがヒマつぶしに毛バリをつくってるだなんていったのはだーれだっけなあ……
そりゃあおめえ
金持ちでヒマがあるからあれだけすんげえことができるでねえか
んだともたかが道楽のヒマつぶしだけじゃあ あすこまでやれる人はいねえと思うなあ
そそれよオ
さすがのおらもかんぜんにカブトをぬいただ
やっぱしあいつあ毛バリの神サマだ
いや学者も負かすほどの毛バリ博士にちげえねえ

そりゃあそうと
真吾
あんちゃん
新毛バリとは
いってえ
どんただ
毛バリだべ
おらも
さっきから
ドキドキ
してるだ

「飛翔」「虎鋒」
なんちゅう
名毛バリを
つくった人
だから
きっと
あっと
おどろくような
すんげえ
毛バリに
ちげえねえな

あいさ
あんだけの
研究をかさねて
つくるからにゃ
あっと
おどろく
もんに
ちげえねえて
おまたせ
したね

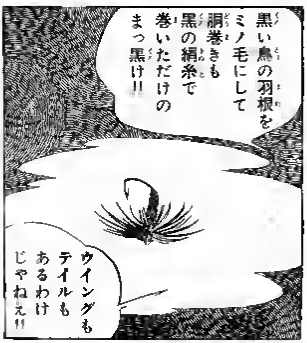
山人さん!!
フーコをベッドにねかせてきたので ついてまどってしまった
ああさっき映写中ころっとねこけてたからなあ
まあいいじゃねえかむかしからねる子はそだつっていうべ
それよか新毛バリを早く見せてください!!
これだ

オホッ
どれ
どれ
どれっ
真吾
あんちゃん
おらにも
見せて
くれよ
ンッ
!?
ああん
!?
おおい
神サマ
これが
あたらしい
毛バリけえ
!!
そうだ
研究に研究を
かさねた結果
やっと つくり
あげたものだ

そ
そんな
バカな!!

あんまし
考えすぎて
頭がおかしく
なったと
ちがうけえ

なんぼなんでも
これじゃあ
あんまし
おそまつて
単純すぎや
しねえか!?
これが
毛バリの
神サマの作
とは
思えねえ


黒い鳥の羽根を
ミノ毛にして
胴巻きも
黒の絹糸で
巻いただけの
まっ黒け!!
ウイングも
テイルも
あるわけ
じゃねえ!!

ウィング
ミノ毛
胴巻き
ティル

これじゃあ
あんまし
おそまつ
すぎて
羽虫を連想
させることなんか
できっこねえ
じゃねえか

おらもあっとおどろくすんごいやつを予想してたもんですっかりイメージがくるったなあ
チョホーッくるったなんてもんじゃねえや
あきれはてひょうしぬけしちまっただ‥‥

フフフたしかに新毛バリは黒いミノ毛と黒い絹糸の胴巻きでまとめた単純なものだ
しかし　このとことん省略化した毛バリこそわたしが長いあいだ　もとめていたものだ‥‥

でも 山人さんには「飛翔」「沈鐘」というすばらしい毛バリがあるのに
なして こんなに単純化しなきゃならねえだ そのいきさつを話してくれねえか
よかろう‥‥だがその前にきみたちに質問がひとつある
きみたちはなぜ 毛バリ釣りをしようと思ったのかその動機を話してくれ

そいつあ
かんたんさ
エサ釣りに
あきた
からよオ
あっ

生エサなら
魚はかならず
食いついて
くれる
釣れると
わかってる魚を
釣ることぐれえ
あほらしいこと
はねえ

そこさいくと
毛バリは
ニセエサだ
正体を見やぶ
られたら
ぜったいに
釣れねえ

このニセモノを
つかって
うめえこと
魚をだまして
釣ることが
毛バリ釣りの
おもしれえ
ところだ

なるほど
……

それにようエサ釣りってのはめんどうくせえや……
いちいちハリにエサをつけたり

そのエサだって
釣る前に とって
おかなきゃ
ならねえし
腰にゃあ
いつも
エサ箱を
ぶらさげなきゃ
ならねえ

そうそう
毛バリ釣りには
自分で くふうして
毛バリを巻くって
たのしさが
あるなあ
こいつあ
エサ釣りじゃ
ねえこった

自分で巻いた
毛バリに
ガバチョと
きたときの
うれしさ

けっきょくの
ところ
すこしぐれえ
エサ釣りよりか
釣果がおとる
としても
やっぱし
毛バリ釣りは
高級な釣り
だ……

こいつあ
やったもんで
ねえと
わかるめえて
!!

ウーム
むかしから
毛バリで釣った
一ぴきの
ヤマメは
エサで釣った
十ぴきぶんに
そうとうすると
いわれているが
そういうことかな…
三平くんは
どうだ

おらあべつに
たいした
理由はねえが…
いままで
ずうっと
エサ釣りを
やってきて
いまよりも
もっともっと
たくさん
釣りてえと
思ったのが
毛バリ釣りを
しようと
思った動機
だな

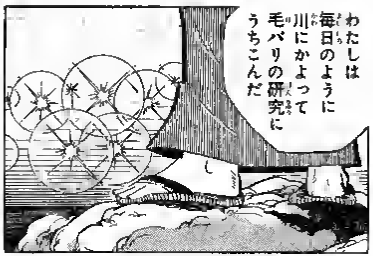
ウム
!!

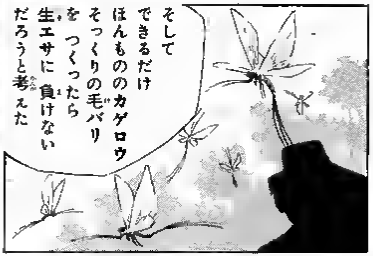
カーッ三平
おめえって
やつは
さもしい根性
だなや
んだってどうの
こうの
理由を
つけてみた
ところで
釣れねえよりか
釣れたほうが
たのしいに
きまってるべ

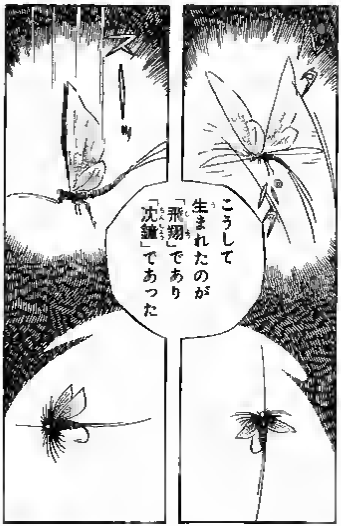
あほらしくて話にならん
こういうやつがいるから最近の釣り人のマナーが地におちてきてるだ
いや 真吾くん わたしが毛バリづくりにはいった動機はいまの三平くんとまったく おなじだった
あーんそそんな
さもしい根性といわれればそうかもしれない
しかしもっともっとたくさん釣りたいと ねがうのは釣り人のいつわらざる心境ではあるまいか
わたしもかつてはエサ釣りをよく したものだった

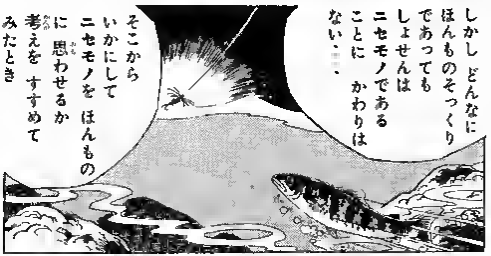
生エサだから
たしかに
よく 釣れた
だが いつも
「なにか」
みたされない
ものを
感じていた
そして そのみたされない「なにか」とは
いったい
なんであろうかと
考えつづけていた

そんな
ある日…
羽虫がさかんに
とびかう日
だった
いつものように
エサ釣りを
していたのだが
この日に
かぎって
釣れなかった
釣れないばかりか
食えもしない
目印にとびつく
ヤマメの姿を
見て
むしょうに
腹が
たったのだ
そのとき
わたしは
みたされない
「なにか」とは
もっともっと
たくさん釣りたい
という心だと
わかったのです
それから
毛バリに
転向した
のです
そ
そんな
神サマの
ことばとも
思えねえ


わたしは
毎日のように
川にかよって
毛バリの研究に
うちこんだ

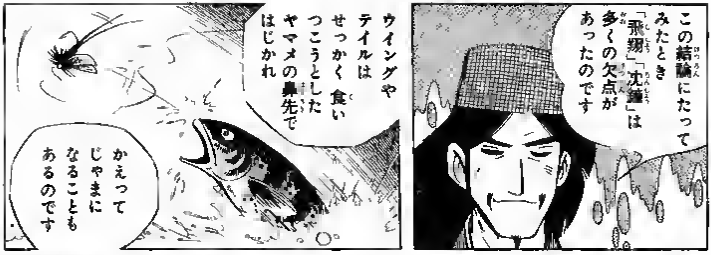

そして
できるだけ
ほんもののカゲロウ
そっくりの毛バリ
を つくったら
生エサに 負けない
だろうと考えた

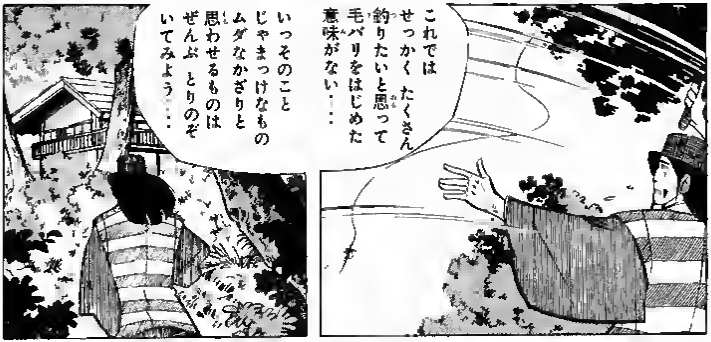

こうして
生まれたのが
「飛翔」であり
「沈鎮」であった


しかし どんなに
ほんものそっくり
であっても
しょせんは
ニセモノである
ことに かわりは
ない……

毛バリ釣りには
エサ釣りとは
まったくちがった
高度のテクニックが
ひつようで
あることに
気がついた
のです

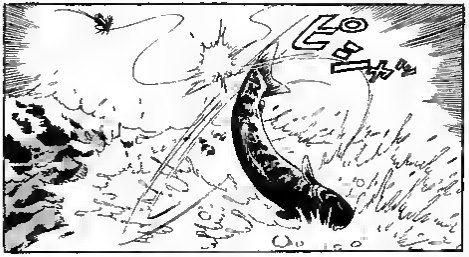
そこから
いかにして
ニセモノを ほんもの
に 思わせるか
考えを すすめて
みたとき
毛バリ釣りの結論は
一にも二にも
テクニックだと
いうことです


この結論にたってみたとき「飛翔」「沈鐘」は多くの欠点があったのです
ウイングやテイルはせっかく食いつこうとしたヤマメの鼻先ではじかれ
かえってじゃまになることもあるのです


これではせっかくたくさん釣りたいと思って毛バリをはじめた意味がない…
いっそのことじゃまっけなものムダなかざりと思わせるものはぜんぶとりのぞいてみよう…

そう思って思いっきり省略化したものを試作してみました
これがその試作の"毛バリ"なのです

釣れぐあいはどうでした？
釣れるわけがあるめえ
いや!! 思ったとおり「飛翔」「沈鐘」をはるかにしのぐ釣れぐあいでした


しかし このハリにも ひとつの大きなカベがあったのです
ビヨーン

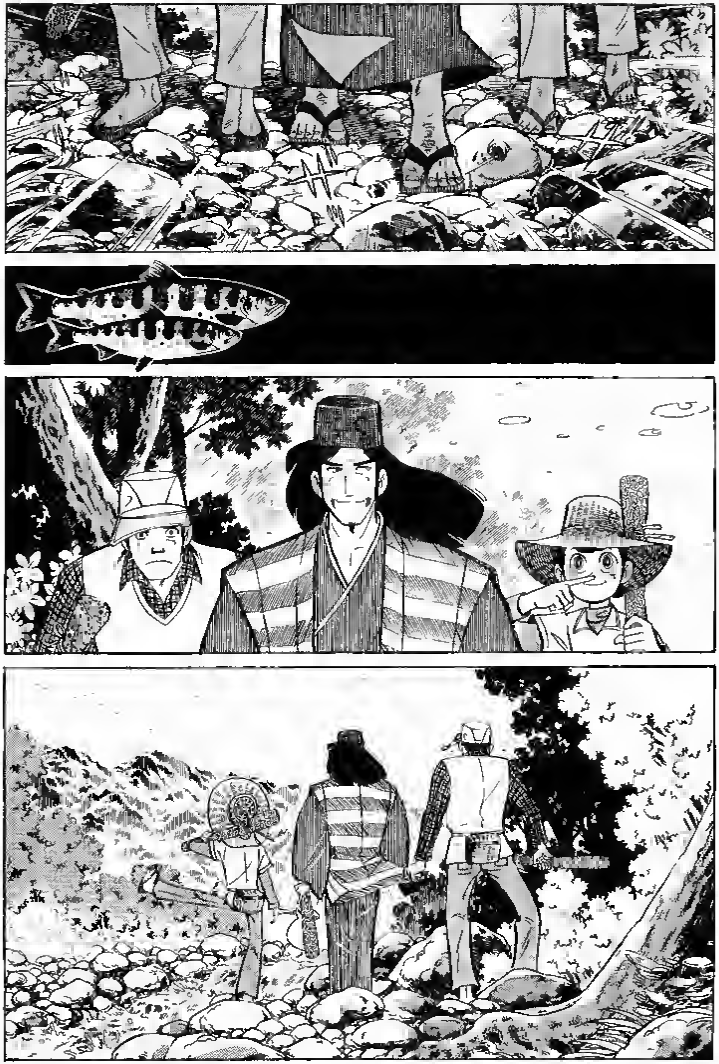
そうですヤマメの毛バリたたきです
わたしはこの現象をあまりにも毛バリを省略化しすぎたためヤマメに正体を見やぶられたのだと思いこんでいたのです

しかしあれは
さっきのフィルムで見たとおり…

そうです三平くんのだいたんな推理とそれをうらづけるフィルムによって
とんでる羽虫をたたきおとして食べようとするヤマメの習性があることが実証されたのです

わしは きょうあらためてこの毛バリがわたしの代表作になることを確信したのです
これこそ毛鉤山人が長年胸にえがいてきたもっともっとたくさん釣るための毛バリなのです

ミノ毛も黒
厨巻きも
黒の絹糸……
黒一色に
省略化した
毛バリ!!
名づけて
山人黒バリ
山人
黒バリ
……!!
ありがとう!!
わたしは
きみたちに
礼をいいたい
きみたちに
会えて
ほんとうに
よかった!!
ポケー
さあ なにを
グズグズして
いる
さっそく
第三 第四
ラウンドの
開始だ
きみたちは
自分の巻いた
毛バリをつかって
やるそうだが
わたしは
もちろんこの
山人黒バリで
挑戦を
うけよう



こりゃあ
三平
なに
見とれてるだ
さあ
しまって
いくぞっ!!

山人さん
おらたちが
タバになって
採戦するって
のも
いいけど
いっそのこと
ぺつぺつに
やらして
もらえねえ
かなあ…

かまわない
けど…
どうして
だね

いやあ ぺつに
どうって
ことじゃ
ねえけど
よオ

そのほうが
たがいに
たよるって
気持ちが
なくなって
実力が
発揮できる
んでねえべか

なるほど
りくつだ
な…

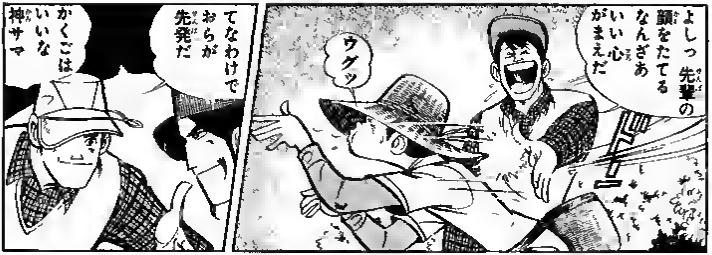
おうっ
そいつあ
おもしれ
えや!!

それでいくべ神サマ
だれが勝っても負けてもうらみっこなしでいいや

こんなのはどうでえ
おらと三平が三ラウンドと四ラウンドを交代でやるってのは……!?
ようしいいだろう
どっちがどのラウンドで挑戦するかきめたまえ

さすが神サマだ話わかりがいいや
三平どのラウンドをとるかじゃんけんできめるべ

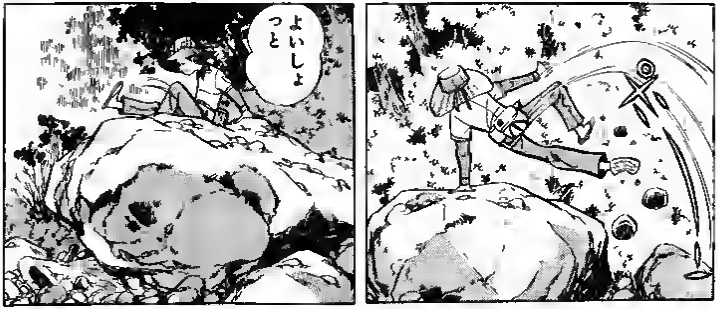
いや!!ここは先輩に敬意を表して
どうぞおさきに

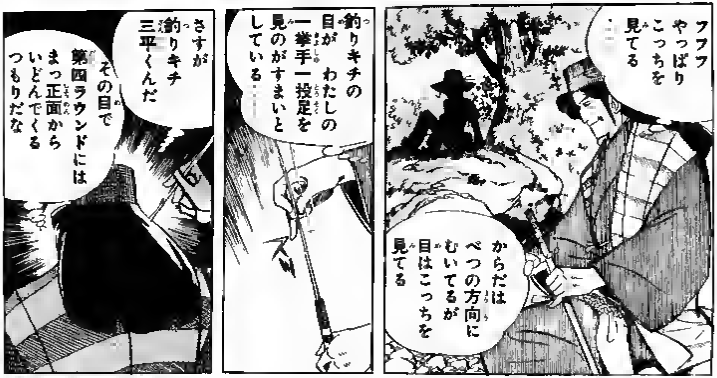

よしっ 先輩の顔をたてるなんざあいい心がまえだ
ウグッ
てなわけでおらが先発だ
かくごはいいな神サマ

ハハア お手やわらかにおねがいします
真吾名人さま……
ハニャッ

ほんじゃ おらあ自分の番がまわってくるまでじっくりと見学させてもらうべ
んだおらもこうしちゃいられねえ
したくだしたく!!
フフフ 三平くんどうやらきみの思うツボにはまったようだな

先輩に
敬意を表して
自分は
四ラウンドに
まわったが
そのじつは
三ラウンドで
わたしの
釣りかたを
とっくりと
研究する
つもりだろう


よいしょっと


フフ
やっぱり
こっちを
見てる
からだは
べつの方向に
むいてるが
目はこっちを
見てる
釣りキチの
目が
わたしの
一挙手一投足を
見のがすまいと
している……
さすが
釣りキチ
三平くんだ
その目で
第四ラウンドには
まっ正面から
いどんでくる
つもりだな

第3ラウンド　チョンチョン釣り

この釣りかたは
トノザやカゲロウなどが
卵を生んだりするとき
尾の先で水面をたたく
動作をまねた釣りかた
で……

ヤマメがいそうだと
思われるポイントの
水面を　いかにも
生きている昆虫の
ごとき　うごきをさせ
ながら　三～四回
チョンチョンとたたき
ヤマメをさそいだして
釣る釣りかたである

この釣りかたは
竿のあげさげによって
かくじつに　ポイントを
たたくことがひつような
ために　竿よりも
はるかに　みじかい
しかけをつかう

竿　三メートルていどの渓流竿

ミチイト　ナイロン2号
一・五メートルていど

毛バリ
なるべく大型のものを
使用するほうがよい

制限時間
三十分

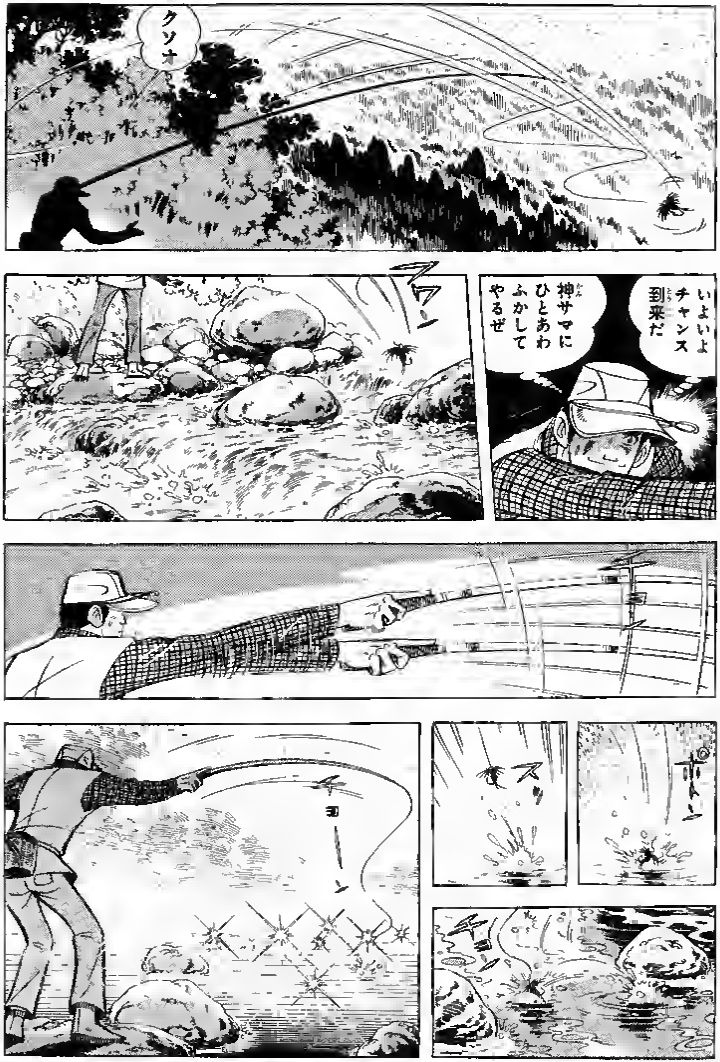
毛鉤山人使用の毛バリ
黒一色の
山人黒バリ
もちろん
新開発された
ばかりの毛バリだ

真吾の使用毛バリ
白とネズミ色の
まだらのミノ毛に
ツノつき
毛糸の胴巻きの
手製毛バリだ

三平!!
はじめても
いいぜ

スター――ト!!

11 ウヒョ
……


クソオ
いよいよチャンス到来だ
神サマにひとあわふかしてやるぜ
スッ
ヨーイン

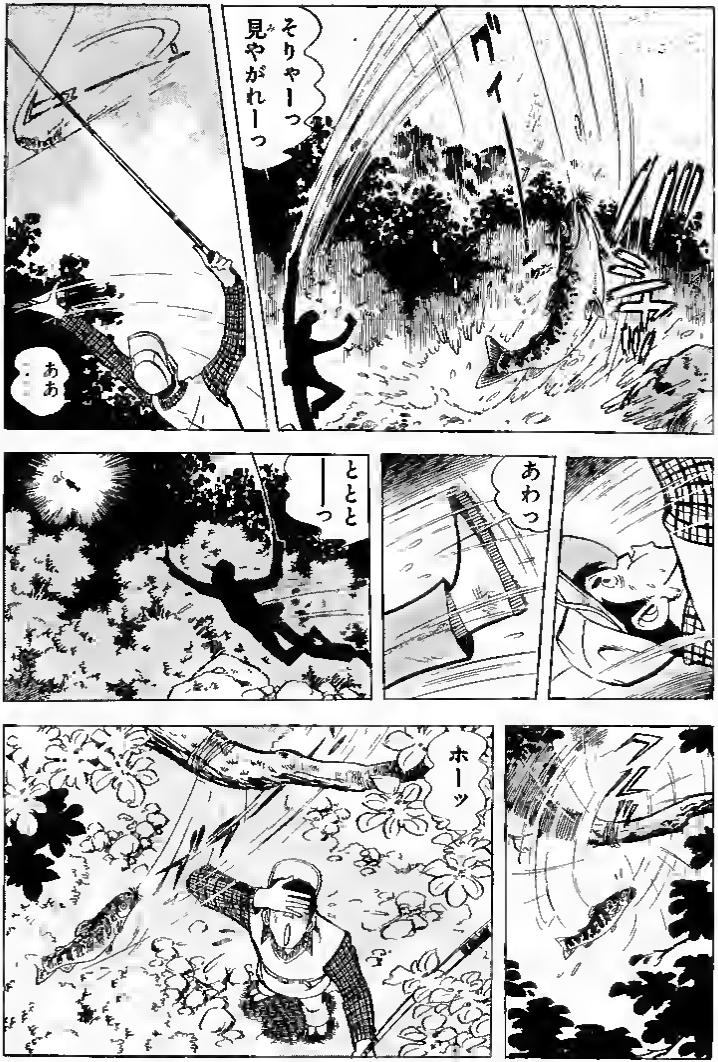
山人さんはどうしただ……
あれれっ 真吾あんちゃんが釣りはじめたっていうのに
!?
クソッ
ポイントをかえよう

ありゃあ
神サマのやつ
まだ なんにも
してねえ
どうした
だ…？
ギックリ腰
でも
おこして
竿が振れねえ
のかな…
まあ
勝負が
開始された
以上は
おらの知った
ことでねえっ
そうやって
のんきに
つったってる
あいだに
バカスカ
釣り
あげてやる
…
…

見てろよ!!
フフフ
ウッ
しまった
ああっ
フフフ……

ク〜〜〜ッ
いかん
神サマに気をとられてせっかくのチャンスを見のがしてしまった
真吾あんちゃんのたたきかたはテンポが早くて間あいがいつもおなじだもんな
んだからせっかく食いつこうとしたのに
ひきあげのタイミングになってしまったにちげえねえ
機械的にたたきをくりかえしてたってよくねえ…チョンとチョンのあいだに食わせのあいまをとらねえとあわせそこなうことになる
ようするに毛バリから目をはなしちゃあならねえということだべ

それにしても 山人さんは まだ釣ろうとしてねえ……
早くやってくれねえかなあ……
そうすりゃあ山人さんの技をバッチリいただいてやるのに……
ン!?
ニコッ
ハッ
ウヒョ〜ッ
おっきたなっ
タハーッ
き きたぞ!!


そりゃーっ
見やがれーっ
ああ…
ヴィ
ととと
——っ
あわっ
ホーッ

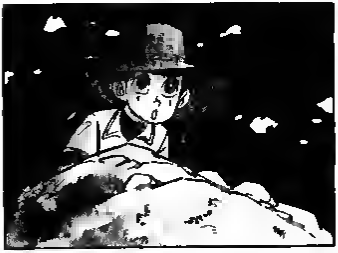
フフフ 真吾くん チョンチョン釣りは 竿よりミチイトが はるかに ふじかいから

まともに ぬきあげると いまのように 釣れた魚に手が とどかないのは とうぜんだ

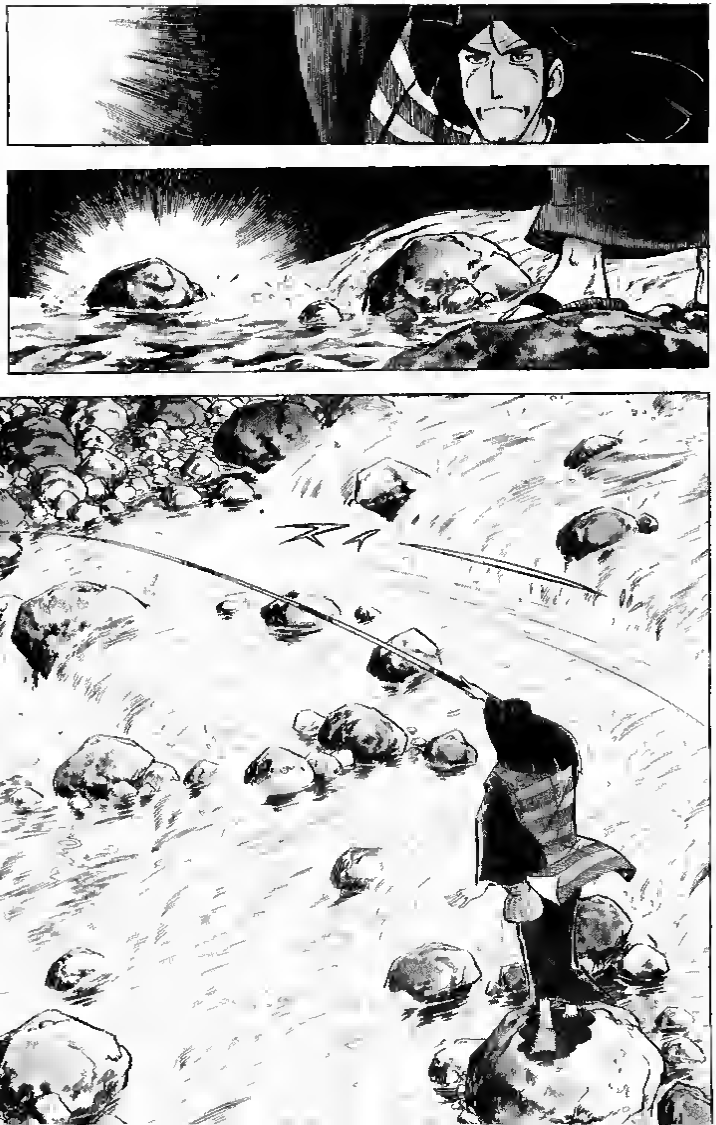
すこしは 考えた釣りを したら どうかね……

あはっ!! いよいよ 山人さんが はじめるぞっ

ス



ありゃ神サマのやついよいよおっぱじめる気だな



ヒョ
ポト
ヌワ
コワ
……

ああ……
たった一発でねえか!!

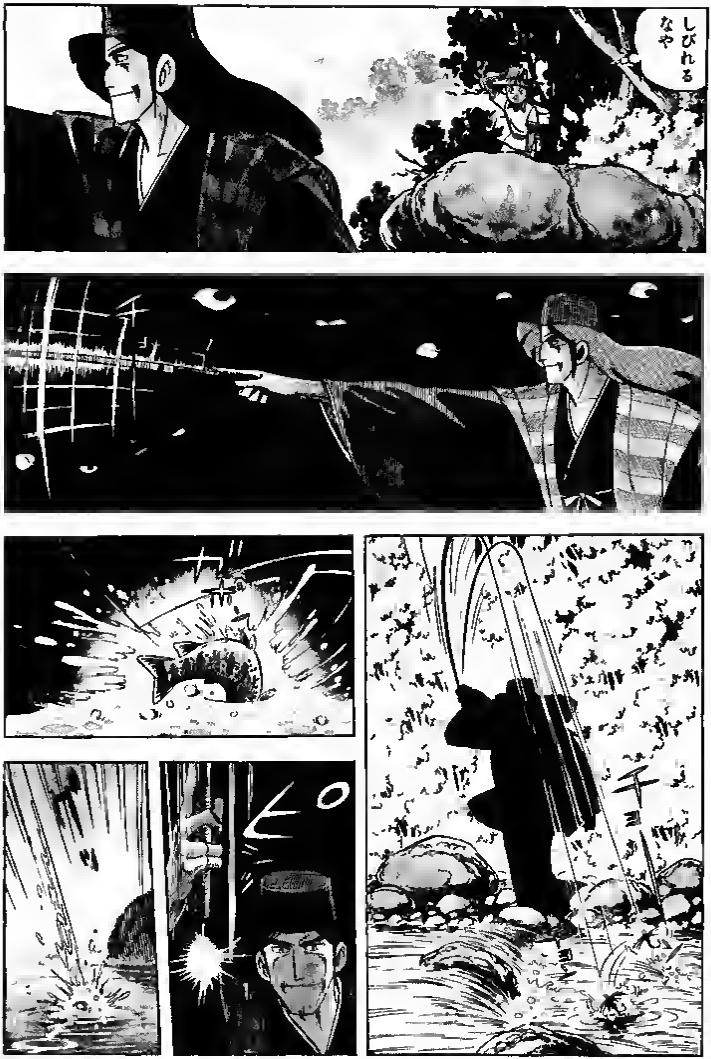
気イくるったんでねえのか
手元をぬいた
!?
わかった!!
山人さんは竿をみじかくしてるんだ!!

チョンチョン釣りは
しかけを長くすると
近くのポイントしか
たたけないので
遠くの いい
ポイントを
かくじつに
たたける
ように
ミチイトを
竿よりも
きょくたんに
みじかくして
釣るものだ

しかしミチイトが
みじかいので
ぬきあげたとき
魚に手が
とどかない
ことになる
これを
ふせぐために
竿をぬいて
みじかくして
とりこもうと
してるんだ

ニコッ
ちは
キュルル
なーるへそ
あの手が
あったの
けえ
ようし
!!

釣ったといったところでまだ一ぴきじゃねえか
こっちだって一ぴき釣っているんだまだ負けたわけじゃねえ!!
おっ
敵さんもおっぱじめたな!!
すんごいなや!!
きまってるなや山人さんって…


しびれるなや
チ
チ

ムッ
ハリャッ!!

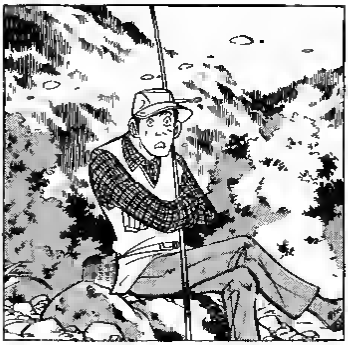
なんちゅうこった
とりこみも
すんごいどもねらった
ポイントを
三回たいた
だけで
釣りあげてる
でねえか

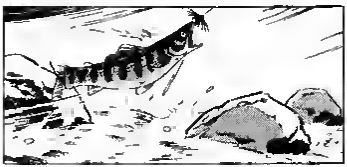
まるで
ねらったポイントさ
ヤマメがひそんでる
ことを 知ってる
みてえだ!!
か・・・
神わざだ
!!

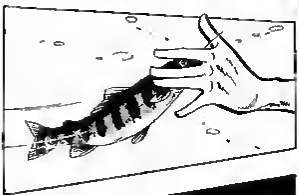
ま また 釣った!!
ヤマメが まるで 催眠術さ かかった みてえに 釣れる
クソオ
たてつづけに 六ぴき
十ぴき め!!

なしてあんただ釣れるだ
まるで水底のようすを見とおしてるみてえだ
やっぱし新毛バリの……
山人黒バリの威力だべか……!?
チョホーッ
あきれて釣る気にもならん

フワ…
ピチョー！
パタパタ
ピチョー！
フワ…
ううっ
い
生きてる
……
山人黒バリが
まるで ほんものの
カゲロウみてえに
……
生きてる
!!







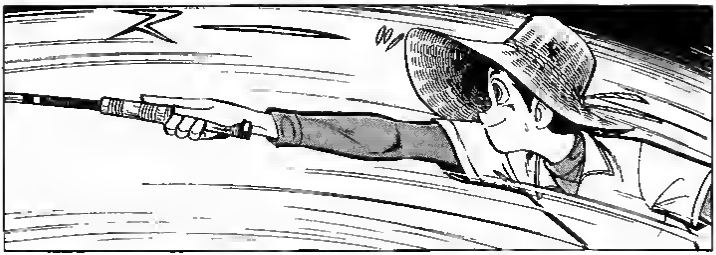
ゴゴゴ
ガシッ
ミシミシ
カーッ
アくさくってやってられねえや!!

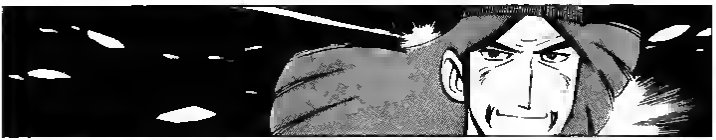
選手交代だーい
三平ーっこのつづきはおめえがやれ――っ

真吾あんちゃん
フフフ勝負をすてたな真吾くん

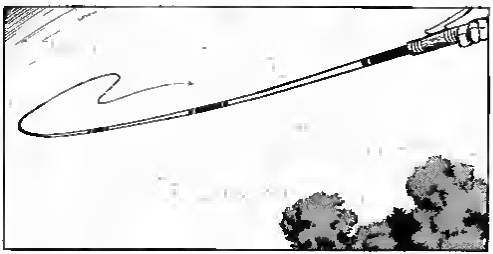
なんとてもほざけっ!!
おらあ ただむしょうに昼寝がしたくなっただけよオ
フフフあいかわらず口だけはたっしゃだなキル
かってにしろて!!

こらあ三平!!てめえなーにボサーッとしてるだ
メリ
メリ
せーっかく後輩にチャンスをあたえようというおらのやさしい心づかいがわからんのかーっ
このアホンダラ
フフフ……
あーあねむたいなあ……
ゴロ!!
ようし!!





三平信用の毛バリ
ミノ毛　褐色
ツノなし
毛糸の胴巻き
もちろん
三平手製の
毛バリだ!!



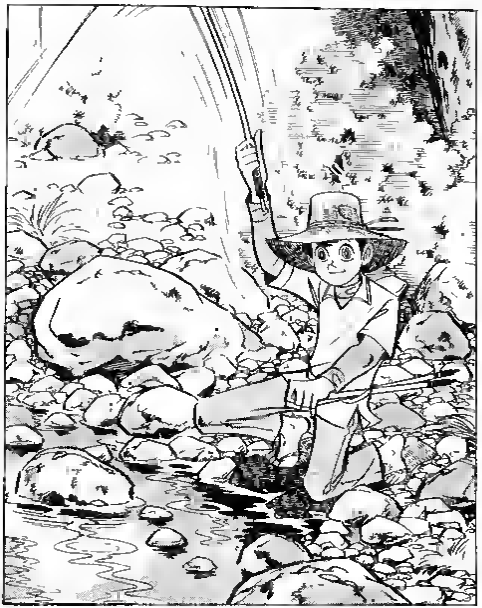
ウッ
ヒョッ

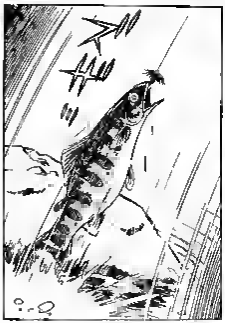
ウムッ
さすが三平くん
あんのガキゃあ
神サマのおかぶをうばってるでねえか
スポン
キュリ
ウヒョッ

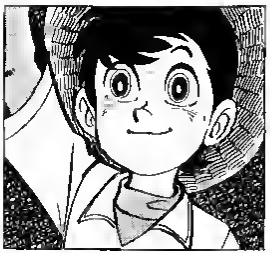
みごとだ!!
わたしの技を見ていただけでここまでぬすみとれるとはみごとというほかはない…
毛バリの操作にまだ未熟な点はあるが!!
ポイントのつかみかたと波紋を利用してヤマメをおびきだすコツは かんぜんにつかんでる
一回めのこづきでエサの流れてくるのをまっている石底のヤマメに毛バリを注目させ
二回めにはまんまとおびきだし
三回めには食わせの間あいをとるためスッと水面をひきずるように上手に よせている
みごとだ!!

かなり
やるだろうとは
思ってたが
まさか これほど
みごとだとは
…
それに
とりこみの
ための
竿だたみも
かんぺきに
ちかい!!

カーッ
かっこつけ
やがって
ニヤリ






いい目だ
あれこそ
釣りキチの
目だ…

わたしは
あの目を
見るたびに
三平くんが
たまらなく
すきになって
しまう

三平!!
いけるで
ねえかー
釣って
釣って釣り
まくれ――

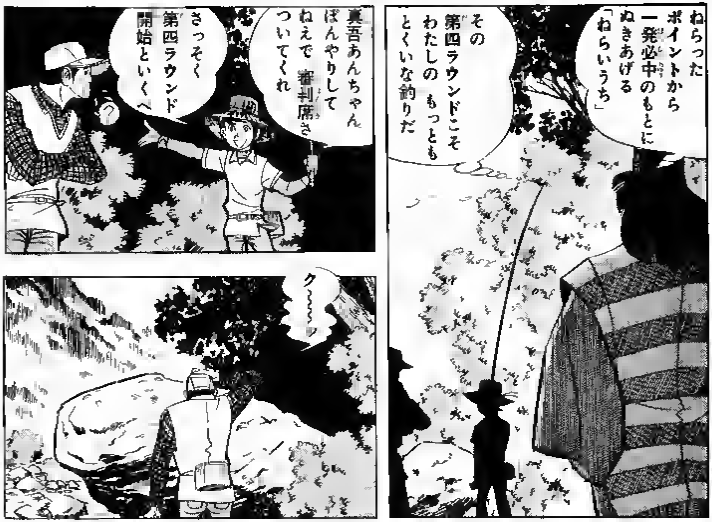
山人さん
……
どうした
三平くん
もう
釣らない
のか
ごめん
なさい

三平ーっ
どうしただいってえ!!
せーっかく調子よく釣れてたのに
きゅうによしてしまうなんていってえどうしただ
おらが いま釣ったヤマメは勝負とは関係ねえだ
第三ラウンドはもう とっくにおわってるだ
なしてよ
時間はまだじゅうぶんのこってるべ
時間はあるども
真音あんちゃんが勝負を放棄した時点で第三ラウンドはおわりだべ

んだっておめえ
ピンチヒッター
として
釣ったで
ねえか
あれは
……
ちょっくら
ずるいども
第四ラウンドに
そなえて
ウオーミング
アップをさせて
もらっただ
かってな
ことして
ごめんな
さい
ム
カーツ
ぬけめの
ねえやつ
だなあ
けっきょくの
ところ第三
ラウンドの
勝負は
山人さん
十二ひき
真吾あん
ちゃん
一ぴきで
山人さんの
圧勝――っ
フフフ
……

三平くん
またしても
一本やられた
な…
ウオーミング
アップだといって
ごまかしてるが
そのじつは
第四ラウンドの
デモン
ストレーション
と見た

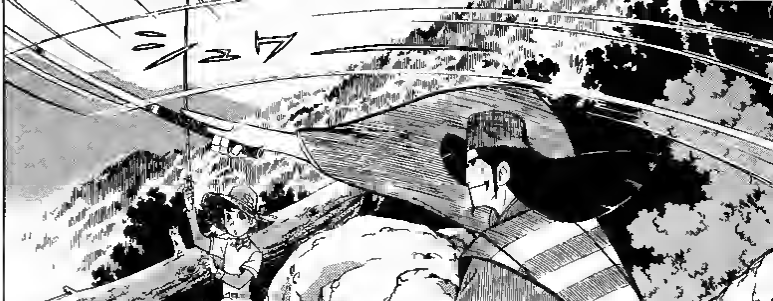
自分の
意気ごみを
見せることに
よって
わたしに
手をぬかないで
どうどうと
わたりあえと
いっている
フフフ
もとより
その挑戦
どうどうと
うけよう


ねらった
ポイントから
一発必中のもとに
ぬきあげる
「ねらいうち」
その
第四ラウンドこそ
わたしの もっとも
とくいな釣りだ
真吾あんちゃん
ぼんやりして
ねえで 審判席さ
ついてくれ
さっそく
第四ラウンド
開始といくべ
クゥ〜〜〜

第4ラウンド　ねらいうち

ブンッ
!?

バ…バカな
そんな
バカな
ああの神サマが三平よりもさきに竿を振ったなんて!?


シュワ

ニコリ

ハリャッ
三平のやつ
意外と
おちついて
やがるな
なんだか
この勝負
みょうなムードに
なってきたぞ

神サマが
あんただ真剣な
ツラするなんて
いままで
見たことが
ねぇ…
本気で
やるつもり
かなあ
…

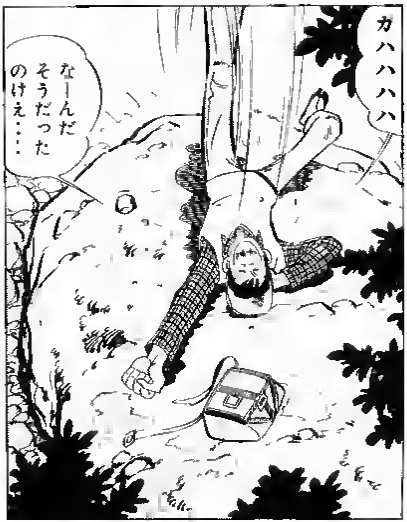
まーさかあ
そんただこと
あるわけねえ
だいたい
三平ごとき
ガキなんて
神サマにしちゃあ
へでもあるめえ
からな…
へへソ
三平のやつ
いい気なもんだ
このごにおよんで
まーだ かっこ
つけてやがる
オッ
いよいよ
三平先生も
第一投め
だな
ンッ!?

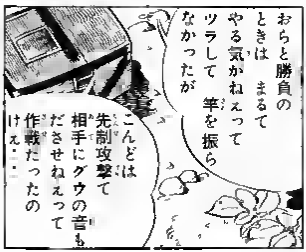
ありゃっ
!!

三平が竿を振ると同時に神サマが…
な
なんちゅう早さだ

フフフ…

これが神サマの作戦だったのけえ
おかしいと思ったよ三平よりもさきに竿を振るなんて


カハハハハ
なーんだそうだったのけえ…


おらと勝負のときはまるでやる気がねえってツラして竿を振らなかったが
こんどは先制攻撃で相手にグウの音もださせねえって作戦だったのけえ…

やっぱし神サマは変幻自在だなや

勝負勝負といいながらもおらたちをとことんまでコケにする気だべ

しょせん三平ごときが二三ぴきタバになってかかったところで勝てる相手じゃねえ

ホーアホくせえ昼寝でもしてるべ

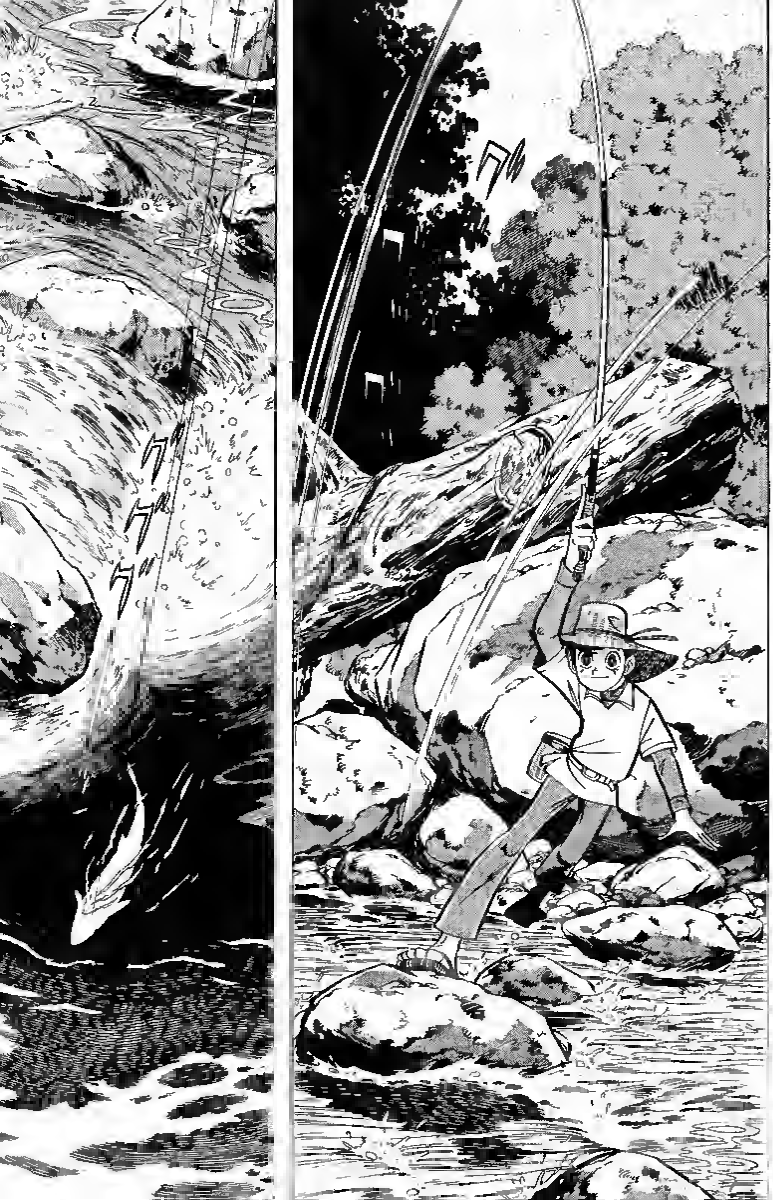
ヒュン☆

ン!?

まーた釣ったのけえ神サマ……

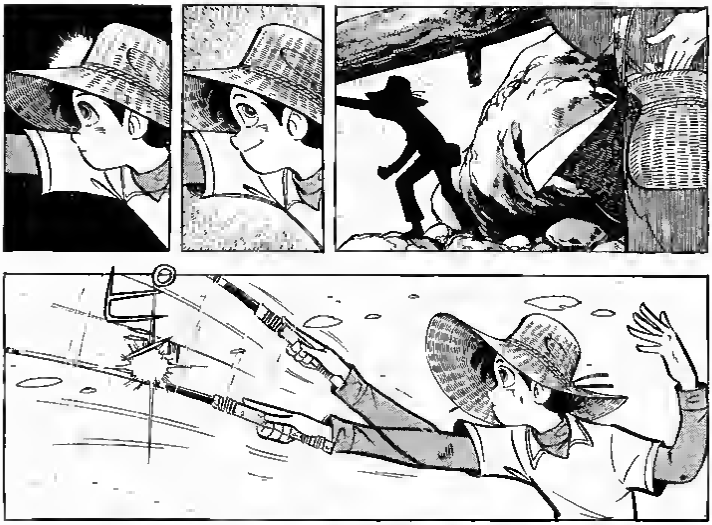
ムクリ

あ!!

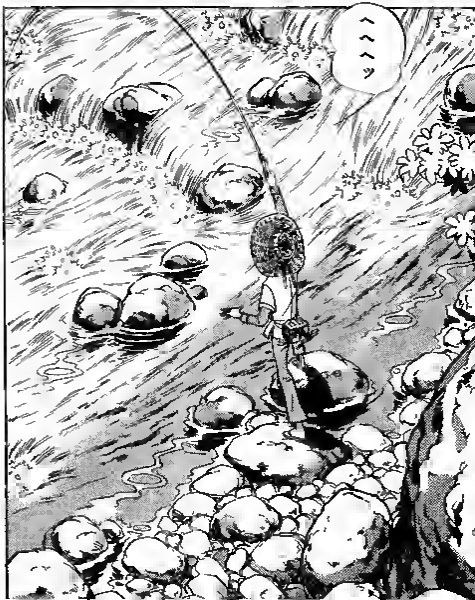

ク
ククク

……
ハニャ

ALI?



おおいこりゃあいってえどうなってるだ
神サマが一ぴき釣りゃあすーぐ三平も釣りやがる・・・


へへへッ

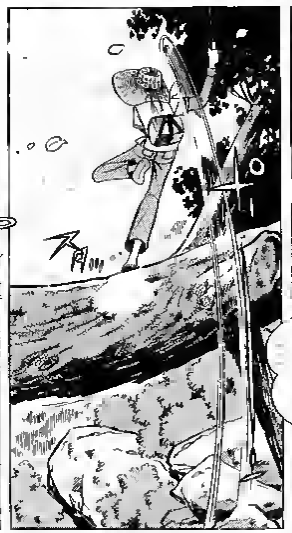
ナマ

まさか
三平が
これほどまで
やるとは
予想もして
なかった
なあ…
ドレ
トレ
神ヤマ
正
三平
正
オメエ
タレダ
たれえっ

こりゃあ
えらいことに
なった
わたしの
いちばん
とくいな
「ねらいうち」で
これほどまでに
苦戦する
とは

ウ〜〜〜ン
あのすばやさ…

そして
だいたんな
行動力



よもや
三平くんが
あれほどまで
はげしく
うごきまわる
エネルギッシュな
釣りをするとは
思いも
よらなな
かった

ホイッ
あれだけめまぐるしくポイントをかえて釣られたら容易てはない
この勝負は釣りあげひき数による勝負だけに
わたしにとっては不利な条件が出てきた
もともと「ねらいうち」はねらったポイントから一発必中的に釣りあげる技
たたいたポイントにヤマメがいないと判断したらつぎつぎポイントをかえて釣る…
いわばひろい釣りとでもいえよう
そのひろい釣りをいどまれたらいまのわたしにはいって不利だ!!

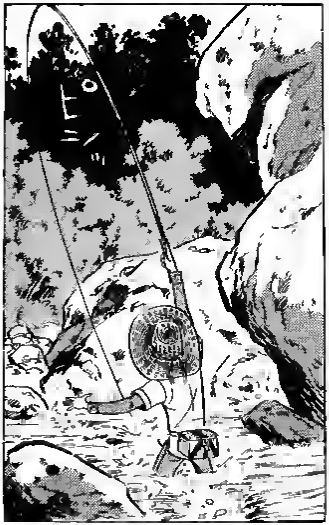
や やるう
三平!!
いいぞっ!!
そ そこだ
神サマを
テッテイ的に
やっちまえーっ

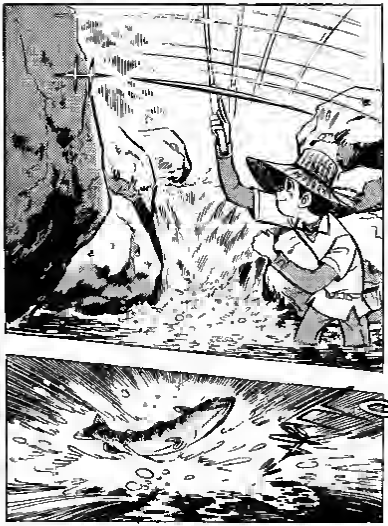
・・・
・・・

ウムッ

カーッ
三平のやつ
こんどは水き
はいったぞ
おそれ
いった
なあ

三平くん!!
きみの そのねらったポイントにあたりかまわず直線的にいどむエネルギッシュな釣りには・・・
いまのわたしの年齢とこの服装ではついていけない


ビニ



オイ イマナン対ナニダ……
三平があれを釣りあげて同点だ

ナヌッ
たしかいまおらに話しかけたやつがいたがハテ……

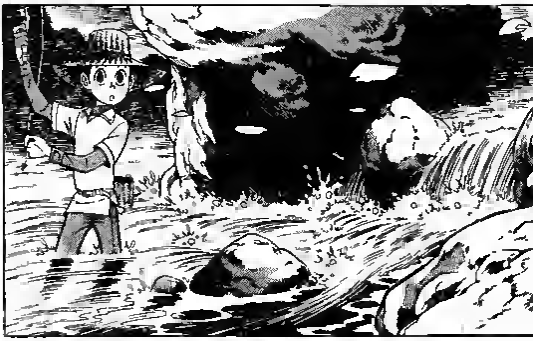
ウムッこの勝負をこのままつづけたらもはやわたしに勝ちめはあるまい
しかし……
負けるわけにはいかない

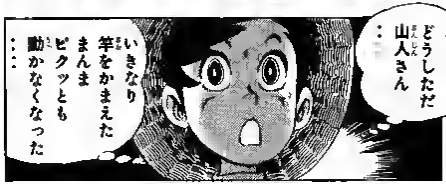
フフフ……
三平くん
わたしはきみに負けるわけにはいかないのだ……

毛鈎山人最後の秘技であらためてきみに挑戦する

!?

見ろっ!!わたしの最後の秘技!!

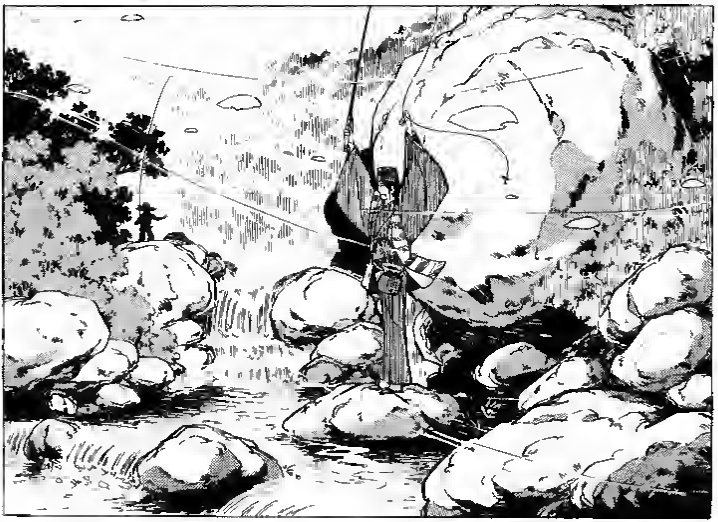


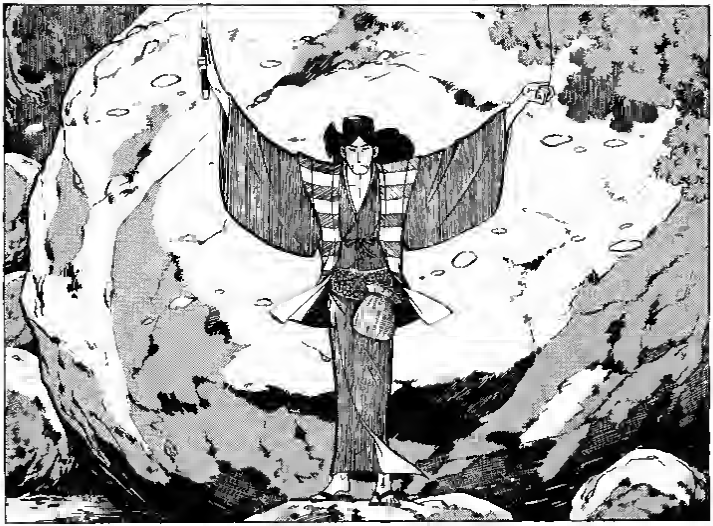

どうしただ山人さん……
いきなり竿をかまえたまんまピクッとも動かなくなった……

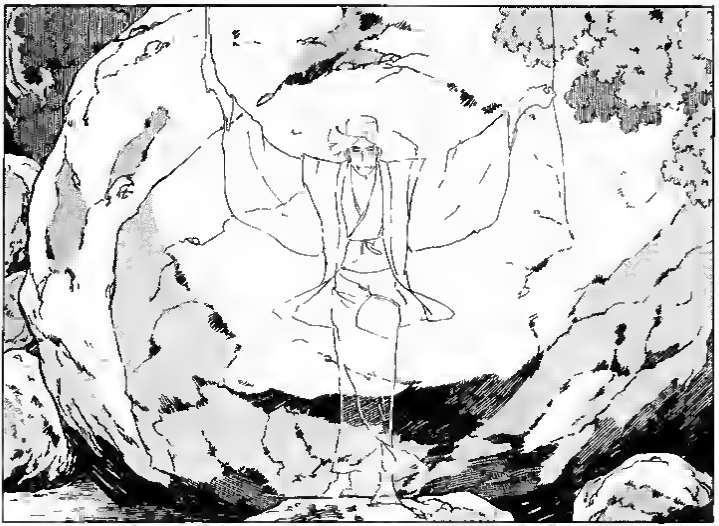
なーにおっぱじめるつもりか知らねえがみょうなカッコつけはじめたぞオ……
コケにしてやるつもりだった三平にヒョイヒョイ釣られるもんで
ついにトサカさきたかケッヘヘ

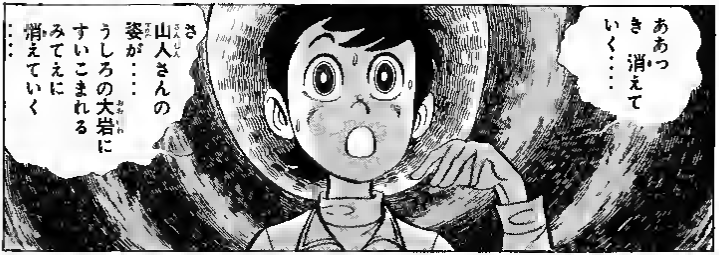
ンッ!?
ここれは
なにか
やるぞっ
…!?
きっと
山人さんの
とっておきの
秘技かも
しれねえぞっ!?

な なんか
ムードが
へんてこに
なって
きたなあ
やけに
しずかに
なって…

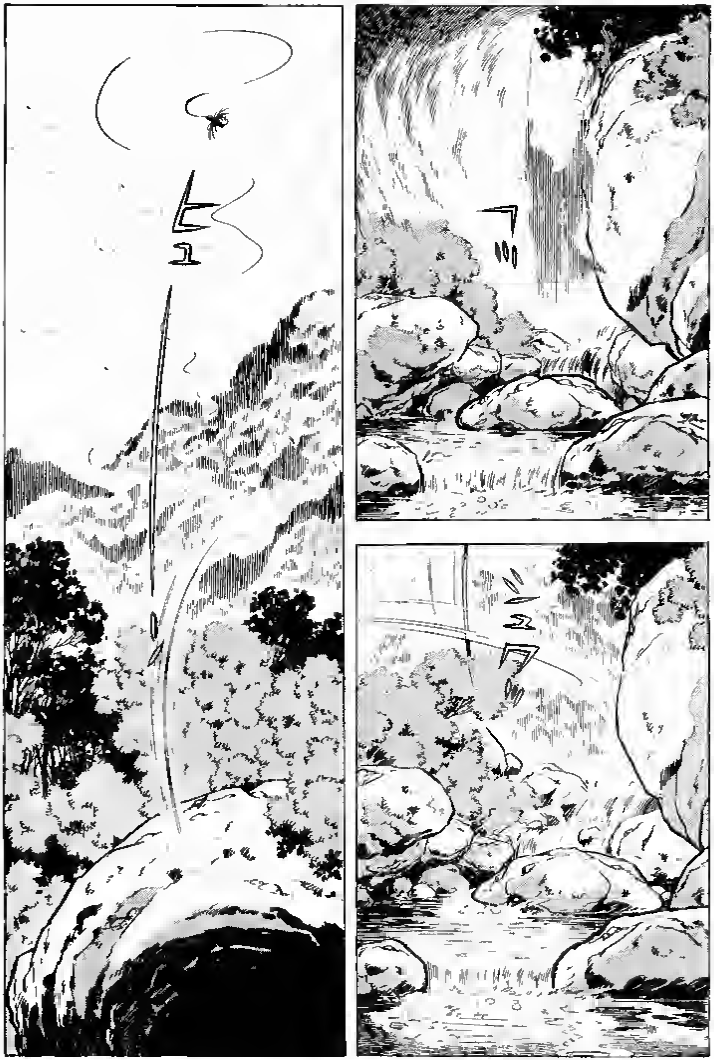


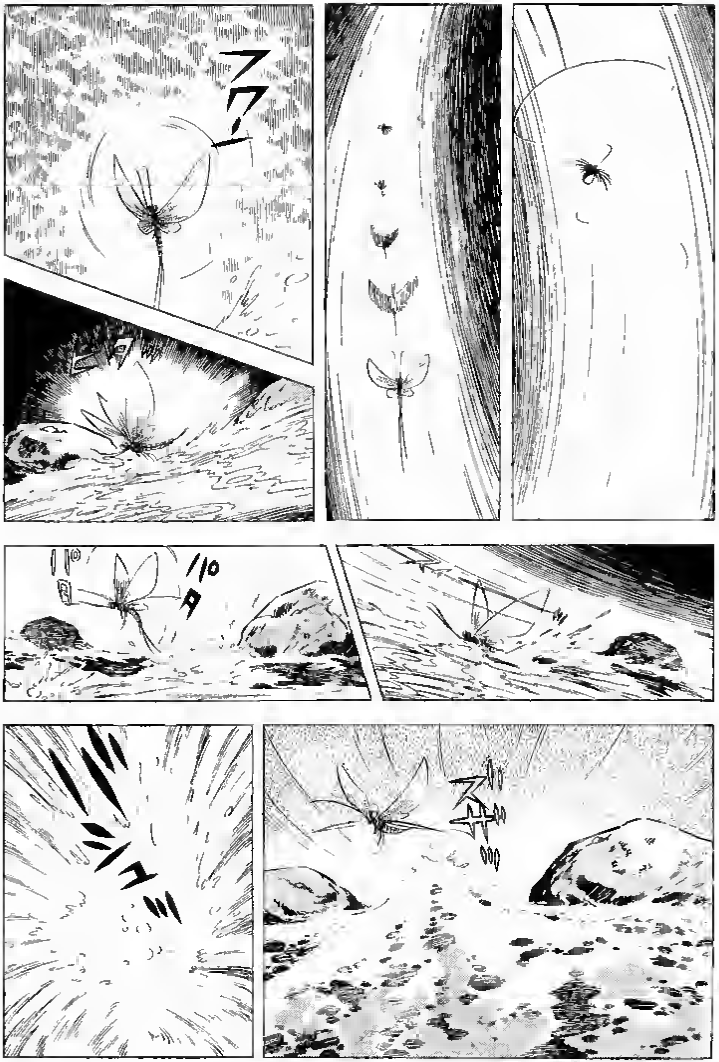


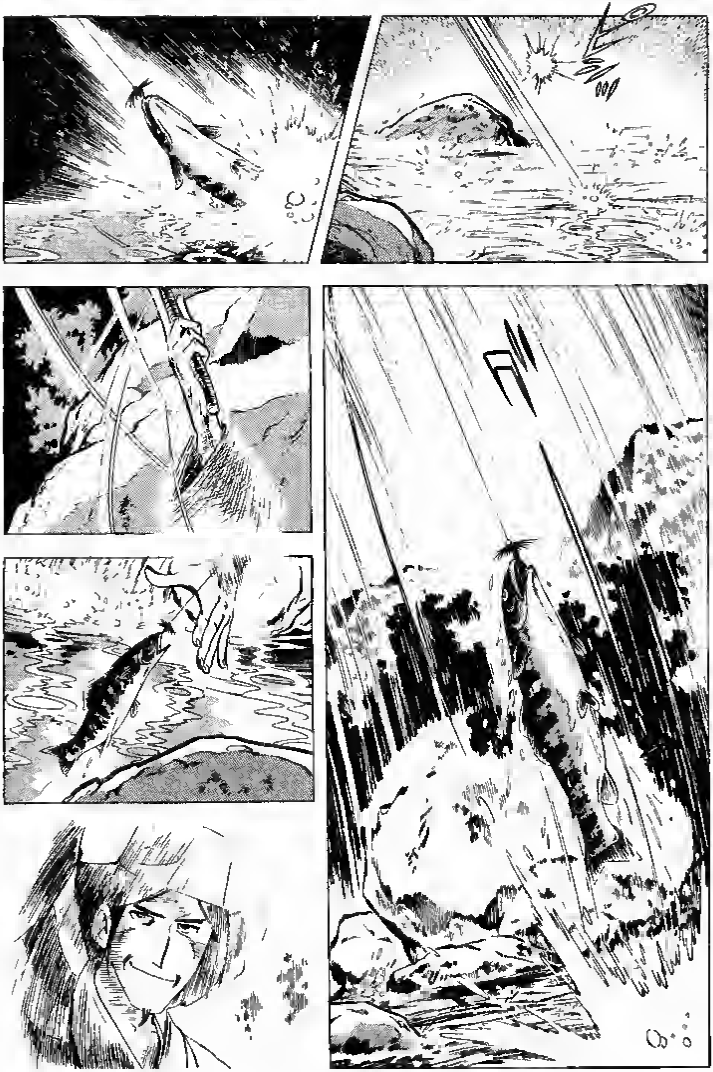


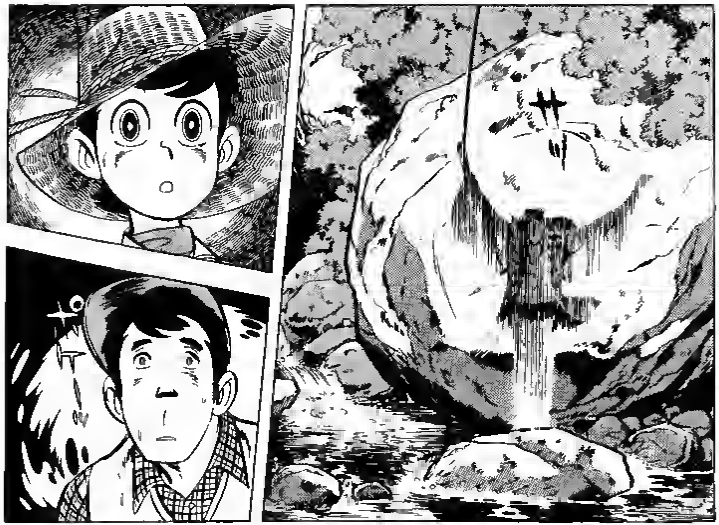

ああっ
き 消えて
いく……
さ 山人さんの
姿が……
うしろの大岩に
すいこまれる
みてえに
消えていく
……

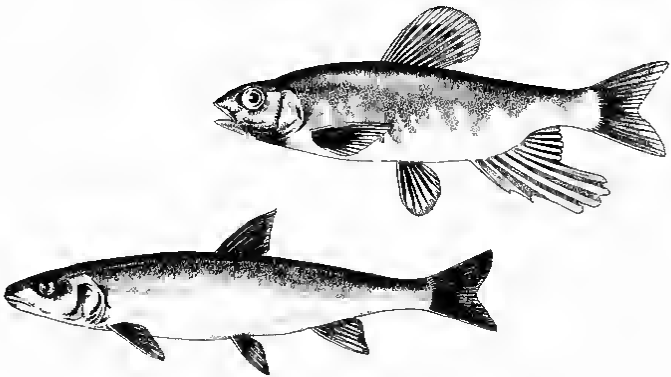
バ バカな
そんただ
バカなことが
あるけえ
ゆ 夢だ
おら きっと
夢を
見てるだ
テッ
やっぱし




フワ
ヒヨ
ヒュ
ヒュ
ヒュ







なんにもしねえのにヤマメのやつがかってに
水ン中からとびだしてくるみてえだ
これじゃあまるであの大岩がヤマメ釣ってるみてえじゃねえか
し信じられねえ……ウウッ

ねらいうったポイントからすいつけられるようにヤマメが釣れるあの技…
やっぱし山人さんはおらの敵じゃねえ
山人黒バリの威力もすんごいども
なんという技だっ!?
あ あの技は……!?

三平!!
いまの技
ようく
見たか
じいちゃん
!!
いまの
石化け
じゃよ

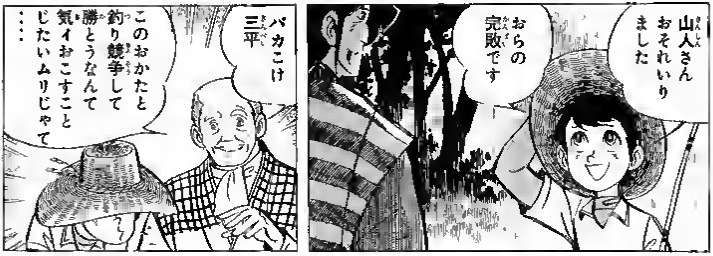
石化け……!?
なんだそりゃあ

川面に対したら水中のヤマメにひとっかけらのおどろきも疑惑もあたえず釣るため
一個の石に化けて気配を断つ……
すなわち石化け

この技は渓流釣りのみならずすべての釣りにつうずる最高の奥技じゃろ
世間ひろしといえども石化けの域までたっする釣り人はすくない

よい人にめぐりあえてよかったな三平……
石化けかあなーんだかわかるようでわからねえなあ……

三平一平さんしばらくでした
いやあ……
山人どのそのせつはどうも……


山人さんおそれいりました
おらの完敗です
バカこけ三平
このおかたと釣り競争して勝とうなんて気イおこすことじたいムリじゃて……

いやいや三平くんきみのエネルギッシュな釣りにはじっさいまいったぞ
はじめて自分で巻いた毛バリであれほど釣れるとはほんとうにおどろいたぞ
ハア……それが……じつは……
これ……

…おらのつかった毛バリは
山人さんの黒バリなんです…
どうしてそれを

ケッヘヘヘ
すまんすまん
いやあすまん

おらが一本失敬しておいたヤツをためしにこいつにつかわせてみたちゅうわけだ
すまん

おらもいけねえとは思ってたがこの毛バリをつかわなかったらここまで戦えなかったと思います

やっぱしこの山人黒バリはすばらしい毛バリだと思うだ

そうか…

三平にいちゃんがあたいのおじいちゃんと対決するところ見たかったなあ…
どうしておこしてくれなかったのよ
あたいベッドでグースカねてたのよ
そしたら三平にいちゃんのおじいちゃんがたずねてきて…
ごめんな…
クマァイワモォ
ありゃっ真吾あんちゃんなにやってるだ
これが石化けの秘技!!
ガキどもしずかにしろて!!
ゲゲッ
とっかちがうなあ

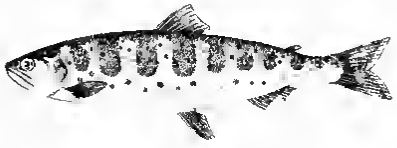
「石化け」……

この釣り技については　一平じいさんのことばから　だいたいの感じはわかっていただけたと思うが　いかに　この技に熟達していったからといって　人間が消えるようなことはありえない

ようするに　自分の影や物音を　魚に気づかれないで　うまく釣るために　そばに石があれば石に化けた気分に　木があれば木に化けた気分になって釣るということだ

ぼく（矢口）の体験では　目の前で　ときにはしずかにときにはすばやく　そしてときにはだいたんなうごきで釣りをしていた人が…フイと姿を消してしまい　一瞬どこにいるのか判断しにくくなることが　しばしば　あった

おそらく　その人は　自然の中にとけこんで　自然と一体になった気分で　釣りをたのしんでいたためだろう…とも　ぼくは思うのだが……

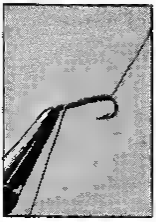


毛バリの神サマの巻　おわり

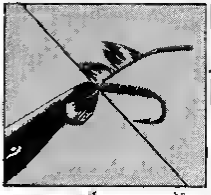
渓流の魔術師 ヤマセミの巻

毛バリは水辺をとびかうカゲロウなどの羽虫になぞらえた擬似バリであるが自分でつくるのも釣りのたのしみのひとつだ……

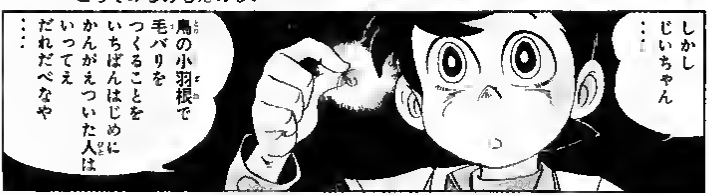
まず……ヤットコなどで ハリを しっかりと固定し 赤 黄 淡茶色など 思い思いの毛糸や ミシン用絹糸で胴巻きをし……



あらかじめ かたがわをむしりとって 準備しておいた ミノ毛用 鳥の小羽根をまきつけ 接着剤でかためれば できあがりだが……



この ミノ毛にする 鳥の小羽根にこってみるのもたのしい



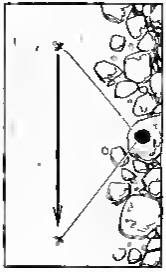
岸辺に
みだれさいていた
山吹の花も
散り
山百合のかおりが
谷間にただよう
季節が
めぐりくると
谷あいの清水は
清流にかわり
ヤマメは
羽虫をもとめて
さかんに 浅瀬に
のりだす
……
ヤマメの
毛バリ釣り
シーズンの
開幕である

ヒョッ!!

むっ
でけえぞ
!!
ケッヘヘヘ
この川の
ヤマメは
あいかわらず
いい型
してるなや

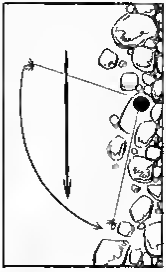
ながし釣り

もっとも基本的な釣り方で 上流にうちこんだ毛バリを ながれのままに 下流にながす——水流のある瀬で効果がある



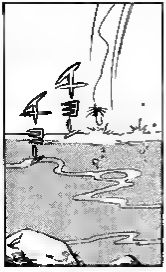
扇引き

上流の対岸にうちこみ ながれにのせながら 扇状に川をよぎって てまえ下流にひいてくる——瀬での釣りに効果がある



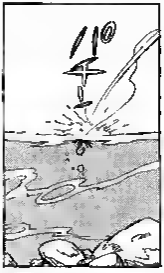
チョンチョン釣り

水面を 毛バリで チョンチョンとたたく 釣り方で トンボなどが卵をうむときの動作をまねたもの——渕や石のうしろが有効

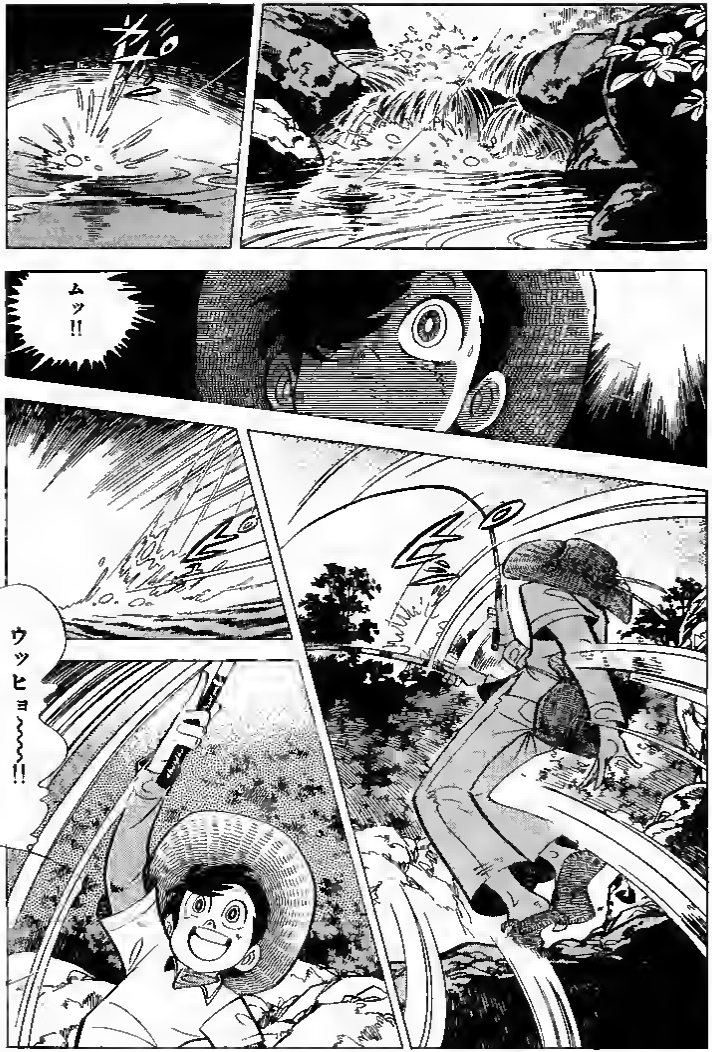


ねらいうち

文字どおり ここぞと思うポイントをねらいうち 一 二 三とかぞえて あたりがなかったらひきあげ 二三回たたいてみる

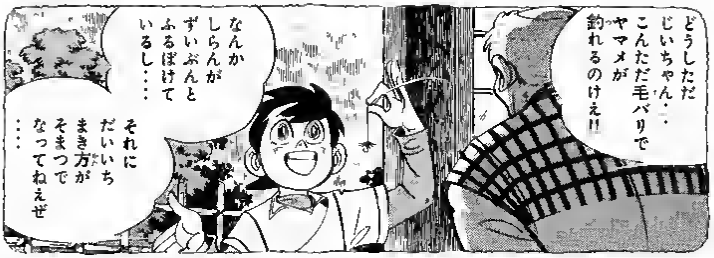


よーし!!
こんどはあのポイントだ……
あのおちこみの白泡から突きだし岩のたるみにかけて……
フッ
フワ!


ムッ!!
ウッヒョ〜〜〜!!

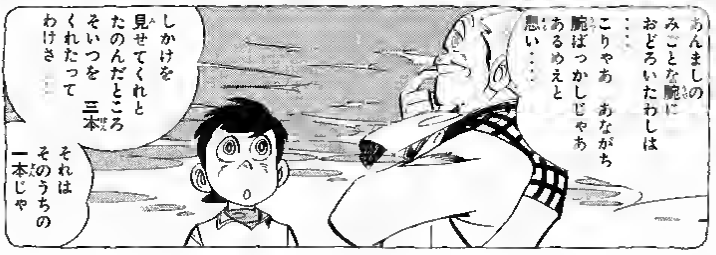
これもいい型だなあ……

それにしても
この毛バリは
まったく
よく釣れるなや
じいちゃんの
秘蔵の毛バリ
ちゅうこった
ども…
まき方だって
けっして
ていねいと
いうわけじゃ
ねえけど
おらの
まいた
毛バリとは
だんちがい
だ…
やっぱし このカノコマダラの秘訣が
ミノ毛に
あるに ちがいねえ
…
三平…
ヤマメの
毛バリ釣りに
いくんなら
いっちょう
こいつを
つかって
みねえか
フェ――ッ
尺ヤマメも
まじって
もう六ぴきか


どうしただ じいちゃん・・・ こんただ毛バリで ヤマメが 釣れるのけえ!!
なんか しらんが ずいぶんと ふるぼけて いるし・・・・
それに だいいち まき方が そまつで なってねえぜ ・・・

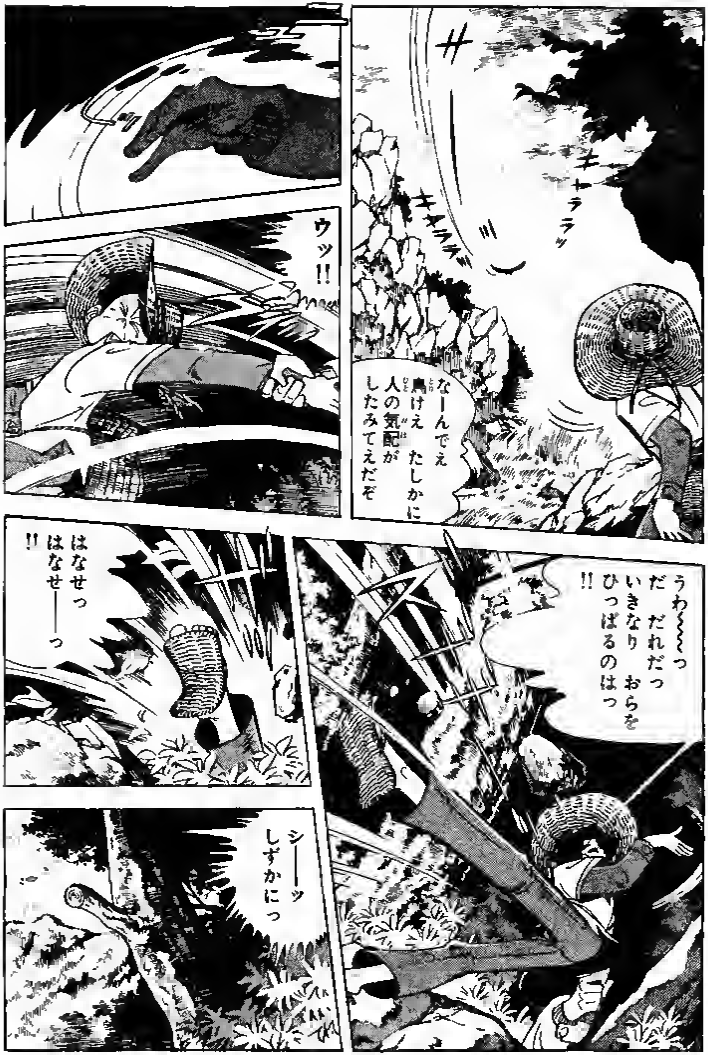
まあ まあ そういうなよ なにしろ 十年ほどまえに 釣りにいった とき・・・
ある男からもらった 毛バリじゃが きょうまで タンスに しまったまま わすれてたものじゃ・・・・

ある男ちゅうのは その谷川のほとりで 炭焼きをしていた 男じゃが
めしどきになると 谷川さおりて ほんの 二 三分で 四 五ひきのヤマメを 釣っては・・・ おかずにするちゅう ヤマメ釣りの 名人でのう・・・・


あんましの みごとな腕に おどろいたわしは ・・・・ こりゃあ あながち 腕ばっかしじゃあ あるめえと 思い・・・・
しかけを 見せてくれと たのんだところ そいつを 三本 くれたってわけさ・・・
それは そのうちの 一本じゃ

もちろん その 毛バリちゅうのは その男の 手製の もんじゃったが
ひと目見たとたん なんと不細工な 毛バリじゃと わしも 思った もんじゃ……
ところが 釣ってみると なんと…… 信じられんほど よく釣れる
わしの 長い釣り歴の なかでも これほど 釣りぐあいのいい 毛バリに お目に かかったことは ねえ……
やがて その秘密は どうやら
そのミノ毛に あるとわしは にらんだ……
ミノ毛……!?
そうじゃ……この カノコマダラの ミノ毛じゃ……
しかし そのミノ毛が なんという鳥の 小羽根を つかったもんか
わしは 知らんし…… その男も がんとして 口をとじて おしえて くれなかった……

それからのわしはあれやこれやといろんな鳥の小羽根をあつめてみたがついにきょうまでその ミノ毛の正体はわからずじまいというわけ……
そういう意味では毛バリのミノ毛に羽根をつかうことをいっとうはじめにかんがえついた人はだれだべ……
……というおめえの疑問とにとるなフフフ……
!?
……
とにかくだまされたつもりでつかってみろ……
ン!?
ハリ


ガサッ
ガサガサ
なーんでえ 鳥けえ たしかに 人の気配が したみてえだぞ
ウッ!!
うわ～～～っ だ だれだっ いきなり おらを ひっぱるのはっ !!
はなせっ はなせ――っ !!
シ――ッ しずかにっ

手荒なことをしてすまなかったがしばらく釣りをやすんでぼくに協力してくれ
協力……!?
おじさんいってえなにものだカメラなんかぶらさげて……
フフフ見てのとおり貧乏カメラマンさ……

まあこんなかっこうで年がら年じゅう山にこもって野鳥の生態写真なんかとりつづけているんだから
貧乏はあたりまえの話だけど
野鳥の生態写真……!?

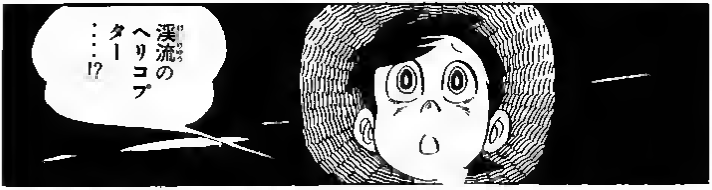
そう……いろんな野鳥のいまだ知られざる生態写真をとって写真集をつくることが夢なんだ……
げんにいまもこうしてこの渓流にある鳥を追って一週間あまりになるんだ

その 目的の鳥…
何年も追いもとめてきた鳥が…
いま この渓流にいるんだ!
やっとめぐりあえたまたとないシャッターチャンスなんだ
だから ぜひ協力してほしいんだ

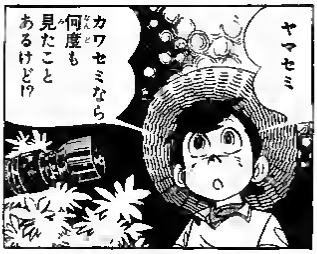
おんもしれえ
おんもしれえで
ねえけえ
おじさん
そうとわかったらなんぼおらだって人のじゃまをするつもりはねえだ…
そうかわかってくれたか
そいつあすまないね…

しかし協力するっていったって
おらにはたしてカメラがあつかえるかなあ…
クククッ
じょじょうだんじゃないよ
ぼくが写真をとるあいだきみは しずかにかくれててくれればそれが協力なんだよ…
そういうことけえ…

ところで　その鳥ちゅうのは　なんちゅう鳥けえ
フフフ……
渓流のヘリコプター……


渓流のヘリコプター……!?

そうさ……もちろんぼくがそいつにつけたニックネームだが……
正式にはヤマセミっていうんだ


ヤマセミ
カワセミなら何度も見たことあるけど!?

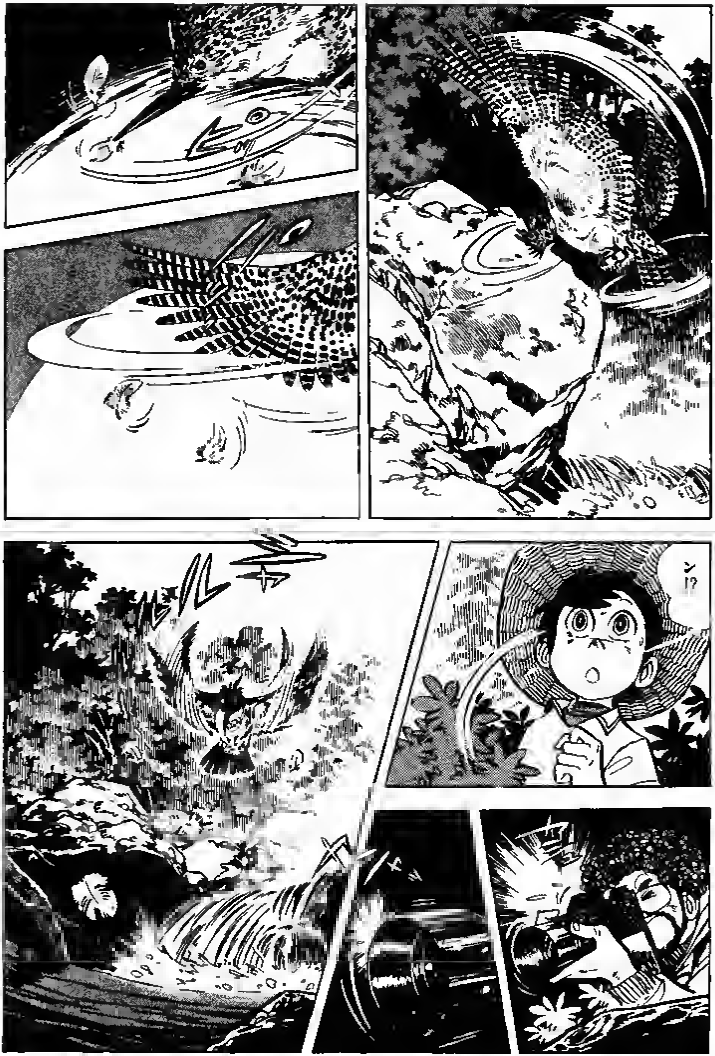
そうそうヤマセミはカワセミと親戚にあたるんだが……
その名のとおりずっと山のほうの渓流にすみ
カワセミが人里ちかくにすむのにたいしてヤマセミは
ヤマメなどの魚をとって生きているんだ……

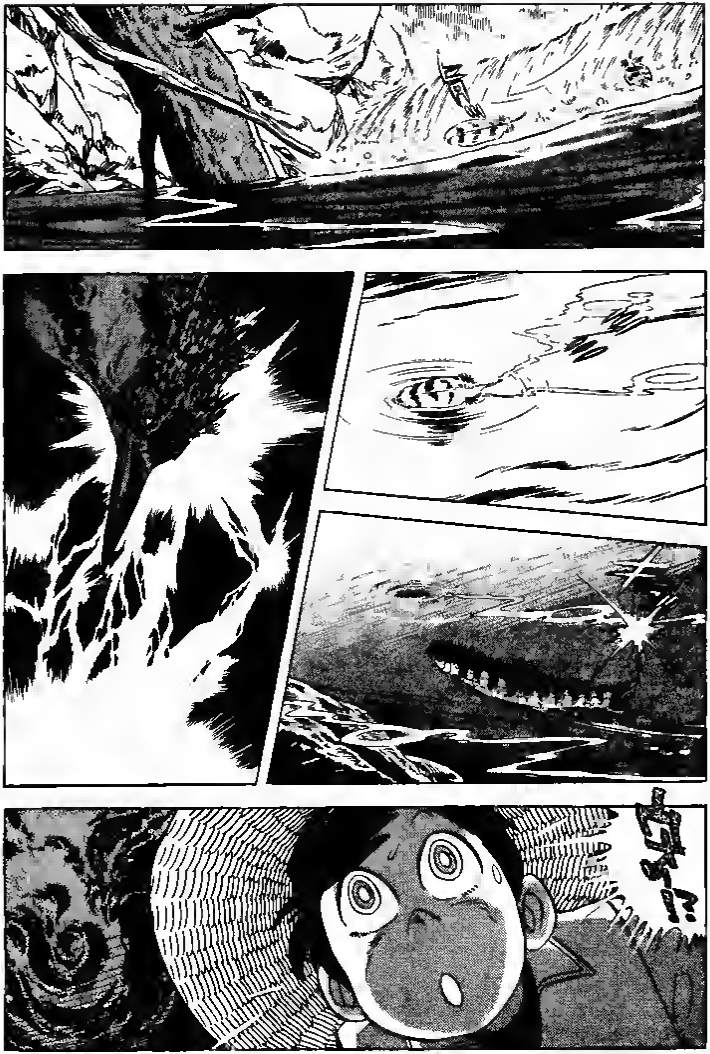
ところがこいつが魚をとるときがおもしろいんだ…
スーッと飛んできて魚のいるポイントの上にくると…
ピタッ!!と空中停止をするんだ
まるでヘリコプターが羽根を旋回させながら空中に停止するように…
そして魚の影を見るといっきに
ザン!!
へえ〜〜〜っそれで渓流のヘリコプターってわけか
かわった鳥がいるもんだなや…
ムッきたっ!!
すがたをかくせっ!!

あの
なき声は
さっき
たしか
しずかに
するんだ
あれが
ヤマセミの
なき声さ
……!!

ムッ……
あぁ!!

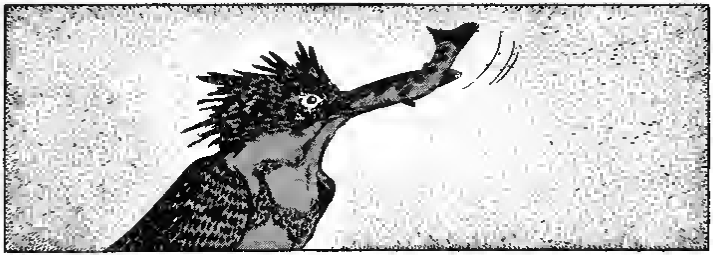
ああっ
空中で
とまった
……
フフフ
あれが
ヘリコプター
さ……
あの
体勢から
まっさかさまに
つっこんで
いくんだぜ
カシャ
カシャ

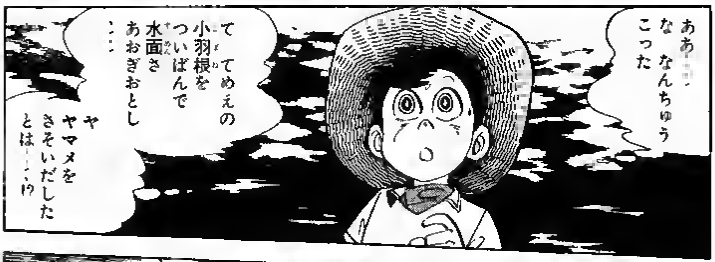

ン!?


ドクン!!

ムッ!!

ああ……




ああ…
な なんちゅう
こった
て てめぇの
小羽根を
ついばんで
水面さ
あおぎおとし
…
ヤ
ヤマメを
さそいだした
とは…!?

キュラララ
キュラララ

クッ!!

ファ〜〜ッ
やった　やった
やったぜ――っ
!!
ついに
ヤマセミの
生態を
とらえることに
成功した
ぞ〜〜〜っ!!
カメラ位置といい
アングルといい
まず　これ以上の
構図は
不可能!!
しかも
空中停止から
小魚をとらえる
までを
バッチリ
連写!!
きょうの
ぼくは
なんと　ついて
いるんだろう
!!
ン!?
あ　すっかり
わすれてた
ありがとう
きみの協力の
おかげだよ
さあ　もう
谷川へおりて
釣りをつづけて
くれ・・・

ウッ!?
ひょっとしたら
この毛バリの
ミノ毛は
……!?
おーい
どうしたん
だい!
いきなり
とびだしたり
して!?
あった
!!
さっき
ヤマセミが
ヤマメをさそった
小羽根が!!

こいつだっ！
この毛バリのミノ毛はヤマセミの小羽根だったんだ!!
だ だとするともしかしたら……
……
鳥の小羽根を利用して毛バリをつくることをいっとうはじめにかんがえた人ちゅうのはひょっとしたら
ヤマセミの魚をとらえるところを見ていて
そっからヒントをえたにちがいねえ……

おもしろいじつにおもしろい推論だ！
クッ
なあーんだおじさんきいてたのけえ!!

ぼくは釣りにはあんまり興味がないが…
きみはそうとうの釣りキチらしいな…
ヤマセミの生態から毛バリがうまれたという発想はあたらずともとおからぬ発想だろう!!

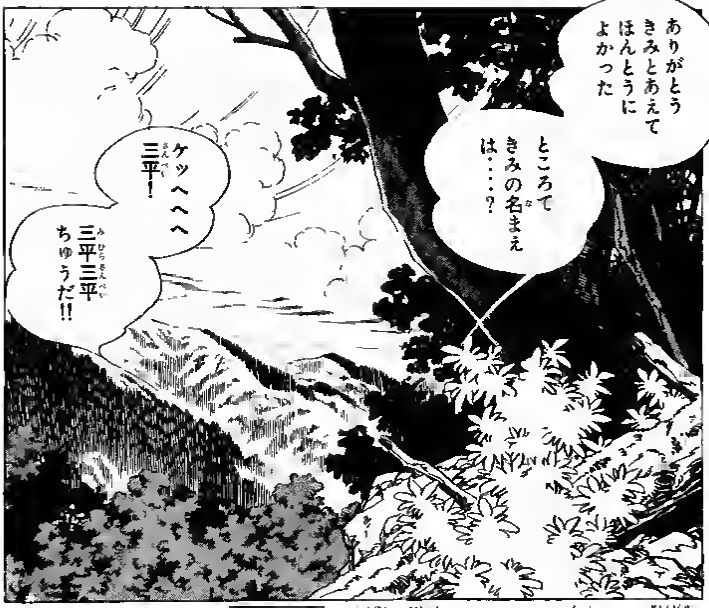
ぼくはきょうまで野鳥の美しさにひかれてさまざまの野鳥をとってきた
しかしそのたびに野鳥の美しさとはいったいなんだろうとかんがえつづけてきた…

動物的にいえばそれは…
子孫繁栄の恋人をもとめるための化粧でもあるといわれている…

しかし美しいということはよく目だつということ…

目だつということはどうじに・・・
タカなどの外敵におそわれやすいということにもなる
ヤマセミの羽根はヤマメをさそうのにじつに魅惑的に目だった
しかしそのすぐ上空に停止しているすがたはおなじ羽根をまとっているのにけっして見やぶられはしなかった
なぜだろう・・・？
なぜってそのう・・・
ヤマセミの羽根そのものをとりだして見ればたしかに美しく目だつども
まわりの景色のなかさはいっちまえば目だたなくなっちまうように模様がついてるってことだべ・・・!?

そう
そうなんだよ!!
ヤマセミに
かぎらず
野鳥の
美しさとは
目だつとどうじに
その環境に
とけこむ
迷彩の美
なんだよ!!
迷彩?
迷彩っていうのは
艦船や 飛行機
戦車などを
白黒や 緑色で
不規則な模様を
ほどこした
敵の目を
あざむくための
カムフラージュと
いうことさ
そういえば
シマウマ
なんかの
シマ模様も
ライオンなんかに
おそわれない
ためのものと
きいたこと
あるけど
うむ
そうだ
そうなんだよ
なあ
野生の
美しさって
いうのは 人間が
かんがえるような
あまっちょろい
美しさでは
なく…
食うか
食われるかの
自然のなかで
生きるための
ものなんだよ
なあ
おじさんの
いってること
…
なんだか
わかるようで
わからな…
ハハハハ
まあいいさ
きみの
この毛バリが
ぼくに
そうおしえて
くれたんだ!!



ヤマセミ

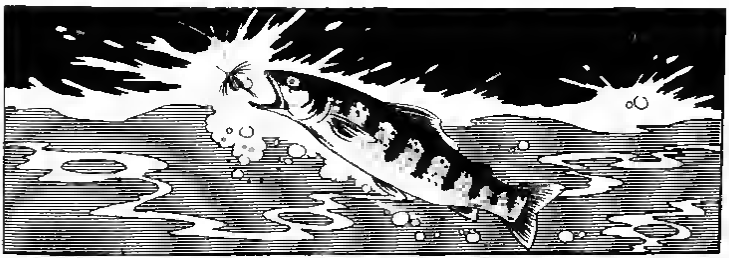
日本　中国　ビルマなどに分布する　魚食性のカワセミの一種で　山地の渓流にすむ鳥である　からだはハトくらいの大きさで　りっぱな冠羽と　灰青色の　鹿の子模様をしていることから　カノコショウビンのよび名もある　魚をとらえるときは　一直線に頭から水中につっこんで　その長くて強いくちばしで魚をくわえてとる　6メートルほどの高い木の枝からつっこむこともたまにはあるが　空中停止して　魚のひそむポイントを物色するときは　ぼく(矢口)の見たかぎりでは　水面より1～2メートルの高さだったように思う　巣は　崖などに穴をほってつくるが　この点も　カワセミ科の特徴といえよう

あとがき

矢口高雄

ヤマメにせよ、岩魚にせよ、渓流釣りでいちばんむずかしいのは、アワセのタイミングである。アワセとは、魚がハリに食いついたとき、竿を鋭く小さくあおって魚のアゴにハリをつきさしてやることで、このアクションなくしてはエサをとられるばかりで、魚を釣ることはできない。ましてや、これが毛バリとなると、アワセの重要性はエサ釣りよりもはるかに高い。なにしろ毛バリはニセモノのエサであるから、タイミングがちょっとでもおくれようものなら、たちまち正体をみやぶられ、はきだされてしまう結果となるからである。

それにしてもボクは、日頃、不思議に思うことがある。たとえば、キミたちにそれぞれ恋人や、ガールフレンドがいるとする。しかし、ちょっと考えてみると、それらはたいてい自分の生活する範囲内でしかえられないのがふつうである。学校とか、通学の電車内で会う人とか、近所に住んでいるとか、友だちに紹介されたとか……。つまり我々は、どんな理想をか



かげてみても、しょせんは自分の生活圏の中でめぐり会える人としか、恋や友情が芽生えたり、結婚に発展したりすることはないということである。

だが、釣りのなかには不思議なことがある。たとえばヘラブナは、日本独得の魚といっていいし、それを釣って楽しむのは日本人だけである。ヘラブナ釣りには、独得の長いヘラウキを使う。ところが、かなり前から、このヘラウキのボディーにクジャクの羽根芯が使われているのである。クジャクといえば、インドに棲む美しい羽根の鳥である。不思議というのはここである。なぜ、インド原産のクジャクと、日本のヘラブナとが出会うことができたのだろうか……。

まったく同じことが毛バリにもいえる。魚はもともと水中生活する動物であり、鳥は大空を棲み家とする、そんな両極端な鳥と魚が、毛バリというかたちで、どこでどう結びついたのであろうか。もっともこの考えは、いささかボクの感傷でもあろう。事実、鳥の仲間には、いわゆる水鳥と称し、水辺を棲み家とし、魚をとって生きるものもいるわけだから、鳥の羽毛が毛バリに発展する理由は、そのへんにあったにちがいない。本書巻末に掲載した「渓流の魔術師ヤマセミ」は、そんな日頃の思いを作品として構成したものだった。

ところが最近、こんな新聞記事を読んでおどろいた。熊本県の水前寺公園に住むササゴイという鳥が、昆虫や木の枝や羽毛を使って魚をとらえるというのである。トンボや、木の実や小枝、羽毛などを水面にはうりこんだり、引きよせたりして、近づい

てきた小魚をみごとにとらえたシーンの写真を見たとき、ボクは思わずルアーフィッシングやフライフィッシングを想像していた。おそらく、毛バリもルアーも、その発想の起点は、こうした鳥獣の生きる知恵をヒントにしてのことだったにちがいない。

それはそうと、ボクは色紙にサインを求められると、まず三平くんの顔を描く。そして、もう少しサービスしようという気になったとき、その下に一匹魚を描く。描く魚は、ほとんどの場合ヤマメである。なぜ!? ボクはヤマメが大好きだからである。その姿、そのあざやかな色あい、あやしいまでに美しいパーマーク。そんなヤマメをボクは「渓のプリンセス」と呼んでいる。

ヤマメの想い出で、忘れられないことがある。ボクの生家の近くに鍋が沢というところがあって、ここは例年いい型のヤマメがよくでた。ある夏の夕暮れだったが、ボクは夕まずめのひとときをねらった。ところが、その日の沢は、これまでに見たこともないカゲロウの群れにおおわれていた。うまく表現できないが、とにかくおびただしい数のカゲロウが飛び交い、フッと息をすいこむと、五、六匹も口の中にはいってきそうなほどで、そのカゲロウをとらえようと、川面にはさかんにヤマメがライズをくりかえしていた。つまり、この年は、何らかの原因でカゲロウが異常発生した年だったのである。カゲロウの異常発生は、ヤマメたちにとってはエサがふんだんにあることを意味する。豊富なエサはヤマメたちを太らせ、同時に子どもをふやす原因にもなる。だから、翌年はいつになく魚影も濃く、いわゆるバカみたいに釣れた。

不思議なことがおこったのは、その翌々年のことである。あれほど群がり、息をすうと五、六匹もすいこむほどに飛び交っていたカゲロウが、この年は一匹も飛ばなかったのである。増えたヤマメが水中で、まだ羽化するまえのカゲロウの幼虫をほとんど食いつくしてしまったためだったにちがいない。エサがなくなれば、当然、魚は生きていけない。その証拠に、翌年をまたずにその沢のヤマメはグングン減りだし、いつしかボクの足も遠のく釣り場になっていったのである。「食物連鎖」と「自然界のバランス」ということを、身をもって知ったのはこの時だった。「釣り」は自然との語らいだとボクは思う。

細い釣り糸一本で、確実に自然と語りあえるジャンルはほかにはない。静かに糸を垂れ、ジッと耳をすましてみよう。自然は、その細い糸をとおしてさまざまなことを語り、不思議なことをたくさん教えてくれる。

だから、ボクは「釣り」が大好きなのです。

（一九八五・八・二一）

あなたは、この本を読んで、どんな感想をおもちになりましたか。

編集部では、この本についての読者のみなさまのご意見をおまちしています。

このつぎには、どんな作家のどんな漫画を読みたいと、お考えですか。「KCスペシャル」にしてほしいと思う作品がありましたら、「読後の感想」とあわせて、左記あてに、どしどしお知らせください。

東京都文京区音羽二丁目十二番二十一号
〈郵便番号一一二―八〇〇一〉
「講談社コミックス」編集部
KCスペシャル係

KCスペシャル―162

釣りキチ三平―第六集

一九八五年十月六日第一刷発行
一九九七年十二月十日第二十五刷発行
定価はカバーに表示してあります。

著者 矢口高雄
発行者 五十嵐隆夫
発行所 株式会社講談社
東京都文京区音羽二―一二―二一
郵便番号一一二―八〇〇一
電話 編集部(〇三)三九四五―二四五九
販売部(〇三)三九四五―二六〇八
印刷所 廣済堂印刷株式会社
製本所 誠和製本株式会社

©矢口高雄 一九八五年

落丁本・乱丁本は、小社雑誌業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えします。
電話(〇三)三九四五―二六〇三
なお、この本についてのお問い合わせは、週刊少年マガジン編集部宛にお願いいたします。

本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き禁じられています。

ISBN4-06-101162-6 (マ) Printed in Japan

KCSP
162

釣りキチ三平

6

セマス釣り編

矢口高雄

講談社

9784061011625

1929979006211

雑誌45423-62

ISBN4-06-101162-6

C9979 ¥621E (3)

定価652円 本体621円 講談社

KCスペシャル

釣りキチ三平

1 アユ釣り編
2 フナ釣り編
3 イワナ釣り編
4 コイ釣り編
5 おもしろ釣り編
6 ヤマメ釣り編
7 謎の魚釣り編 I
8 謎の魚釣り編 II
9 イシダイ釣り編
10 コイ釣り編 II
11 ニジマス釣り編
12 ライギョ釣り編
13 イトウ釣り編 I
14 イトウ釣り編 II
15 イトウ釣り編 III
16 おもしろ釣り編 II
17 ムツゴロウ釣り編 I
18 ムツゴロウ釣り編 I
19 秘伝アユ漁編 I
20 秘伝アユ漁編 II
21 渓流釣り編
22 アカメ釣り編
23・24 フライフィッシング編 I・I
25 怪魚釣り編
26・27・28 サーモン・ダービー編 I・I・II
29・30 マス釣り編 I・II
31・32・33 ブルーマーリン編 I・I・II
34・35 キャスティング編 I・I
36 ヘラブナ釣り編
37 アユ釣り編 II

大好評発売中!